

荒川区 指定管理者 令和元年度分 実績評価結果

令和 2 年 1 1 月

荒川区

目 次

●実績評価の目的及び評価方法について	...	3	南千住中部在宅高齢者通所 S C	...	90
●ふれあい館			(サンハイム荒川在宅高齢者通所 SC)		
石浜ふれあい館	...	5	東日暮里在宅高齢者通所 S C	...	94
南千住ふれあい館	...	8	荒川東部在宅高齢者通所 S C	...	98
南千住駅前ふれあい館	...	11	西尾久西部在宅高齢者通所 S C	...	102
汐入ふれあい館	...	14	荒川老人福祉センター	...	106
峡田ふれあい館	...	17	荒川授産場	...	110
荒川山吹ふれあい館	...	20	●障がい者福祉施設		
町屋ふれあい館	...	23	荒川福祉作業所	...	114
荒木田ふれあい館	...	26	荒川生活実習所	...	117
尾久ふれあい館	...	29	尾久生活実習所本所 / 分場	...	120
西尾久ふれあい館	...	32	障害者福祉会館	...	123
東日暮里ふれあい館	...	35	精神障害者地域生活支援センター	...	126
タヤけこやけふれあい館	...	38	●保育施設		
西日暮里ふれあい館	...	41	小台橋保育園	...	129
●文化施設			上尾久保育園	...	133
荒川区民会館 (サンパール荒川)	...	44	南千住さくら保育園	...	137
日暮里サニーホール	...	47	汐入とちのき保育園	...	141
ムーブ町屋	...	50	はなみずき保育園	...	145
●生涯学習施設			南千住保育園	...	149
町屋文化センター	...	53	南千住七丁目保育園	...	153
生涯学習センター	...	56	タヤけこやけ保育園	...	157
清里高原ロッジ / 清里高原少年自然の家	...	59	●住宅		
●高齢者福祉施設			荒川区営住宅 (西尾久七丁目、西尾久三丁目 ...	...	161
特別養護老人ホームグリーンハイム荒川	...	62	南千住二丁目、町屋七丁目、町屋五丁目)		
特別養護老人ホームサンハイム荒川	...	66	荒川区民住宅 (町屋五丁目)	...	165
特別養護老人ホーム花の木ハイム荒川	...	70	従前居住者用住宅 (町屋五丁目住宅)	...	165
グリーンハイム荒川在宅高齢者通所 S C	...	74	●自転車等駐車場		
花の木ハイム荒川在宅高齢者通所 S C	...	78	南千住駅東口自転車等駐車場	...	169
西日暮里在宅高齢者通所 S C	...	82	日暮里駅前自転車駐車場	...	169
町屋在宅高齢者通所 S C	...	86	センターまちや自転車駐車場	...	173
			三河島駅前自転車駐車場	...	173

通所サービスセンターを「S C」と記載しています。

実績評価の目的及び評価方法について

1 実績評価の目的

指定管理施設の管理運営の状況等について、実績の評価を行うことにより、継続的な改善を促し、サービス水準の一層の向上を図る。

2 評価方法

(1) 施設種別の設定

施設特性に応じた、より実効性のある、きめ細やかな評価を行うため、次の2種類の施設種別を設定する。

施設種別	施設特性	対象施設
A 施設	・ 法令等による施設運営基準の定めがある ・ 人的サービスの比重が大きい	高齢者福祉施設、 障がい者福祉施設、 保育施設
B 施設	・ サービスや事業内容に関する指定管理者の創意工夫の余地が大きい	文化施設、ふれあい館、 生涯学習施設、スポーツ施設、 自転車等駐車場、住宅

(2) A 施設のサービス面に関する評価項目と評点

- ・ 「法令基準等への適合状況」と「加点点評価項目」の2面から評価する。
- ・ 「法令基準等への適合状況」については、施設の設備、人員配置、運営等に関する法令基準を満たしているかを確認し、1項目でも満たしていなければ「不適合」と判断する。
- ・ 施設特性に応じて「加点点評価項目」を設定し、「極めて良好である」「良好である」「取組が行われていない、または十分でない」の3段階で評価する。

(3) B 施設のサービス面に関する評価項目と評点

- ・ 「基本評価項目」と「その他の評価項目」の2面から評価する。
- ・ 「基本評価項目」については、「施設の維持管理」と「区民サービス」の2点について、施設特性に応じて評価の細目及び配点（100点満点）を設定し、5段階評価を行った上で得点を算出する。
- ・ 「その他の評価項目」については、評価対象とする項目及び配点（10点以内）を施設特性に応じて設定し、5段階の評価を行った上で得点を算出する。
- ・ 「基本評価項目（100点）」と「その他の評価項目（10点）」の総合得点（110点満点）を算出し、下表の基準によりS～Dの総合評価を行う。

評価		基準
S	特に優れている	総合得点が100点以上
A	優れている	総合得点が80点以上100点未満
B	適正である	総合得点が60点以上80点未満
C	努力が必要である	総合得点が40点以上60点未満
D	運営に大きな問題がある	総合得点が40点未満

(4) 財務・労務に関する評価項目と評点 (A 施設・ B 施設共通)

- ・ A 施設・ B 施設ともに、「会計 」、「会計 」、「労務」、「法人決算」の状況を確認し、次の基準により優良・良好・課題有の評価を行う。

< 会計 >

優良 : 会計手続及び予算管理が極めて適正である。

良好 : 会計手続及び予算管理が適正に行われていた。もしくは、会計手続及び予算管理が概ね適正に行われていた。一部に改善の必要があったが、改善された又は改善の計画がある。

課題有 : 会計手続及び予算管理に改善すべき点が見受けられ、努力が必要である。もしくは、会計手続及び予算管理に問題があり、改善の見込みがない。

< 会計 >

優良 : 施設の特性に応じ、極めて優れた経費の効果的活用が行われていた。

良好 : 施設の特性に応じ、経費の効果的活用が行われていた。

課題有 : 経費の効果的活用について、改善すべき点が見受けられ、努力が必要である。もしくは、経費の効果的活用について改善の見込みがない。

< 労務 >

優良 : 労働環境が適正である。

良好 : 労働環境は適正ではあるが、一部改善の必要が見受けられる。改善が必要な部分について、改善された又は改善の計画がある。

課題有 : 労働環境に改善すべき点が見られ、努力が必要である。もしくは、労働環境に問題があり、改善の見込みがない。

< 法人決算 >

優良 : 極めて良好な財務力を有している。

良好 : 安定的・継続的な運営に当たって適正な財務力を有している。もしくは、安定的・継続的な運営に当たって一部改善の必要が見受けられるが、改善の見込みがある。

課題有 : 安定的・継続的な運営に当たって改善すべき点が見受けられ、努力が必要である。もしくは、安定的・継続的な運営に問題があり、改善の見込みがない。

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【B施設】

施設概要		
施設名	名称	石浜ふれあい館
	所在地	荒川区南千住三丁目2番2号
指定管理者	名称	株式会社日本デイクアセンター
	所在地	千代田区神田猿楽町二丁目2番3号
施設開設年月日		平成25年4月1日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成25年4月1日
指定期間		平成31年4月1日～令和6年3月31日
業務内容		乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の区民が生き生きと集い、ふれあいと相互交流の輪を広げる場を提供する。遊び・スポーツ・健康づくり・教養娯楽活動等を通じて地域コミュニティの形成を図るとともに、地域住民の自主的かつ主体的な活動を促進する事業を実施する。 【主な施設】サロン、親子ふれあいひろば、プレイルーム、多目的室、洋室、和室、創作室、授乳室、だれでもトイレ 【特徴ある施設】 備蓄倉庫 【総入館者数】 33,748名 (内訳) 世代別事業参加者数 (保護者)5,337名 (乳幼児)5,416名 (小学生)11,481名 (中学生)580名 (高校生)367名 (成人)1,776名 (高齢者)4,449名 (合計)29,406名 貸室利用者数 4,342名
令和元年度の事業計画		
【乳幼児】 親子の体操等については、これまでどおり実施するとともに、子育て相談の充実を図る。 【小学生】 ドッジボール及びダンス等のサークル活動については、親子で交流を深められる事業の確立を図る。 【中高生】 中高生が利用しやすい環境を整え、良い思い出を作れるように接する。 【成人】 将棋やエクササイズについては、子育て世代の父親が息抜きできるような事業を確立する。 【高齢者】 身体を動かしたい利用者の需要を踏まえ、体操の充実を図る。 【世代間交流】 小学生の親子が交流を深められる事業（卓球、けいおん部等）の充実を図る。 【地域交流】 地域のお祭りを支援するとともに、地域と積極的に連携を図りながら、ふれあい館祭りやハロウィンイベントを実施する。		
令和元年度の事業実績		
【乳幼児】 親子の体操等については、これまでどおり実施したほか、前年から企画していた「ママと一緒にフラダンス」を定例事業として定着させることができた。また、子育て相談の機会を増やしたこと 【小学生】 ダンス等のサークル活動や親子で参加できる事業の充実を図ることで、子どもたちの自主性や主体性を育み、健やかな成長を支援した。 【中高生】 中高生と年齢が近い若手職員を積極的に配置し、中高生との信頼関係を構築した。 【成人】 大人のけいおん部は近隣のマンションや町会からの出演依頼が増加し、充実した内容となった。 【高齢者】 世代交流の中で体操ができる事業を実施し、健康の増進に加えて交流の場としての役割も果たした。 【世代間交流】 全世代が体験できる事業を実施するとともに、新事業を4つ増やし、事業内容の充実や幅広い世代間の交流を促進した。 【地域交流】 地域との連携を密にし、防災訓練やハロウィンイベントなどの事業を、地域と一体となって実施した。		

基本評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
施設の維持管理	20			20
快適に利用できるための施設管理がなされている	5	5	100%	5
安全・安心に過ごすための施設管理がなされている	5	5	100%	5
危機管理・苦情・事故等の管理を徹底している	10	5	100%	10
区民サービス	80			76
利用者の事業に対する満足度が高い	20	5	100%	20
職員の接遇がきちんとなされている	25	5	100%	25
ポスターや館だより等の広報方法を工夫している	5	5	100%	5
積極的な事業展開を行っている	10	5	100%	10
利用者数が増加している	20	4	80%	16
合 計 (A)	100			96
その他の評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
地域と連携した事業展開を行っている	2	5	100%	2
区民雇用を積極的に行っている	2	5	100%	2
施設全体における評価が高い	2	5	100%	2
安全に対する積極的な取組を行っている	4	5	100%	4
合 計 (B)	10			10
合 計 (A+B)				106
施設の維持管理・区民サービス等の総合評価				S
評価内容				
「施設の維持管理」については、利用者が安全・安心に過ごせるよう適正に管理されている。 「区民サービス」については、利用者の事業に対する満足度が特に高く、適切に運営されている。また、職員の接遇に対する意識が高く、利用者からの評価も高い。 「その他の評価項目」については、地域と連携した事業展開や区民雇用を積極的に行っている。また、水害時の自主避難場所を開設した際には、家族で避難された方をブレイルームにご案内するなど、避難者の状況に合わせた配慮をした。新型コロナウイルス感染症対応では、館への問合せに対し、利用者の不安を取り除くことを第一に考えた対応を行った。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
・利用者数の増加に向けて、これまで以上に地域住民のニーズを的確に把握し、事業に反映するよう求めている。				

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	45,583,768	45,861,022	53,085,590	52,307,124
	利用料金収入	—	—	—	—
	その他収入	43,650	14,840	50,000	0
	計	45,627,418	45,875,862	53,135,590	52,307,124
支出	運営費	1,945,771	1,958,956	2,321,000	2,473,188
	管理費	12,536,123	12,849,441	13,988,648	14,061,518
	本部経費	1,114,725	1,255,472	1,110,000	1,332,642
	人件費	28,849,045	27,076,371	29,400,000	28,745,812
	修繕費	291,600	634,500	674,942	609,540
	その他支出	0	0	0	0
	計	43,622,539	42,519,268	46,384,590	45,890,058
収支差額		2,004,879	3,356,594	6,751,000	6,417,066

(施設決算状況の説明)

- 1 人件費及び修繕費については、当初計画の範囲内で実費精算している。
- 2 平成 2 9 年度分より、収支差額については、当初計画を上回った場合、超過した金額の 2 分の 1 を区に返還することとし、上記決算書には返還後の金額を記載している。
- 3 指定管理料については、運営費・管理費、人件費及び修繕費の区への返還額を差し引いた金額を決算額として記載している。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告等を確認した結果、会計手続は適正に行われている。	良好
	予算管理が適正である	予算と決算を比較して収入・支出・収支差は少なく、予算管理は適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	本部経費増があったが、常勤職員減による人件費減があり、その他経費縮減努力が行われている。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、年次有給休暇の取得日数が少ない等に改善の余地が見込めるものの概ね労務環境は適正である。	良好
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の決算書に基づいて財務診断を行った結果、成長性、収益性、活動性・健全性が優良であり、安定的、継続的な運営に必要な財務力を有している。	優良

総合評価

サービス面は優良、財務面、労務面は良好であり、指定管理業務は適正であったと評価できる。

担当所管部	
部	区民生活部
課	区民施設課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【B施設】

施設概要		
施設名	名称	南千住ふれあい館
	所在地	荒川区南千住六丁目3番13号
指定管理者	名称	株式会社ウィッシュ
	所在地	渋谷区広尾五丁目6番6号 広尾プラザ6階
施設開設年月日		平成24年4月1日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成24年4月1日
指定期間		平成30年4月1日～令和5年3月31日
業務内容		乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の区民が生き生きと集い、ふれあいと相互交流の輪を広げる場を提供する。遊び・スポーツ・健康づくり・教養娯楽活動等を通じて地域コミュニティの形成を図るとともに、地域住民の自主的かつ主体的な活動を促進する事業を実施する。 【主な施設】サロン、親子ふれあいひろば、プレイルーム、多目的室、洋室、和室、創作室、授乳室、相談室、だれでもトイレ 【特徴ある施設】音楽室、屋上広場 【総入館者数】 63,335名 (内訳) 世代別事業参加者数 (保護者)7,321名 (乳幼児)8,568名 (小学生)14,930名 (中学生)996名 (高校生)646名 (成人)658名 (高齢者)7,408名 (合計)40,527名 貸室利用者数 22,808名
令和元年度の事業計画		
【乳幼児】 季節行事やニーズの高い各種事業を実施し、乳幼児親子の交流を支援する。 【小学生】 遊びや運動、ゲーム等を通じて、年齢や学校の異なる幅広い子ども同士の交流を支援する。 【中高生】 中高生が気軽に集まれる「ティーンズタイム」を設け、中高生の居場所を提供するとともに、中高生と信頼関係を構築し、非行や孤立を防止する。 【成人・高齢者】 卓球、ヨガ、スポーツ吹矢、遠足、手芸等の活動を通じて、利用者の交流の場を提供し、仲間作りを支援する。 【世代間交流】 大型行事のお祭りやハロウィンイベントのほか、手芸やオセロ等の各種交流事業を実施し、世代間の交流を促進する。 【地域交流】 地域行事に積極的に参加するとともに、大型行事や地域の福祉施設との交流会等を通じて、地域との交流を深める。		
令和元年度の事業実績		
【乳幼児】 乳幼児クラス全体の参加人数は、前年度よりやや減少したが、令和元年度から開始の6カ月未満児のクラスは出席率が高かった。また、講師による講座は人気であった。多目的室での遊具遊び事業「キッズランド」はリピーターが増加している。 【小学生】 年4回の予定の小学生クッキングは、新型コロナウイルス感染症の影響で年3回の実施となったが、キャンセル待ちの人気事業となり異学年交流の場を提供できた。 【中高生】 日常事業の「ティーンズタイム」を通じて職員との良好な関係を構築することができた。 【成人・高齢者】 一部の事業で利用者が伸び悩むものがあったが、新事業の「簡単クッキング」は好評で、世代間交流の場を提供できた。また、長寿慶祝の会で館が独自に開催したカラオケ喫茶が好評で、高齢者の仲間作りに貢献できた。 【世代間交流】 従来からの大型行事であるお祭りやハロウィンイベントのほか、令和元年度から始めた「みんなの文化祭」に多くの参加者があり世代間交流を促進できた。 【地域交流】 台風で中止になった「なかよしまつり」以外の地域行事に積極的に参加することで、地域交流を推進した。		

基本評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
施設の維持管理	20			20
快適に利用できるための施設管理がなされている	5	5	100%	5
安全・安心に過ごすための施設管理がなされている	5	5	100%	5
危機管理・苦情・事故等の管理を徹底している	10	5	100%	10
区民サービス	80			79
利用者の事業に対する満足度が高い	20	5	100%	20
職員の接遇がきちんとなされている	25	5	100%	25
ポスターや館だより等の広報方法を工夫している	5	4	80%	4
積極的な事業展開を行っている	10	5	100%	10
利用者数が増加している	20	5	100%	20
合 計 (A)	100			99
その他の評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
地域と連携した事業展開を行っている	2	5	100%	2
区民雇用を積極的に行っている	2	3	60%	1.2
施設全体における評価が高い	2	5	100%	2
安全に対する積極的な取組を行っている	4	5	100%	4
合計 (B)	10			9.2
合計 (A+B)				108.2
施設の維持管理・区民サービス等の総合評価				S
評価内容				
「施設の維持管理」については、利用者が安全・安心に過ごせるよう適正に管理されている。 「区民サービス」については、幅広い世代に対応した多様な事業が実施されているほか、前年度と比較して利用者数も増加しており、多様なニーズを的確に反映した運営が行われている。 「その他の評価項目」については、地域のお祭り等の行事に積極的に参加するなど、地域との充実が図られており、また、水害時の自主避難場所運営にあたっては、こまめな巡回とテレビ・インターネットからの最新の災害情報を提供し、避難者の不安解消に努めた。新型コロナウイルス感染症対応では、事業の実施方法の見直しや、感染症対策マニュアル作成を行い、安全・安心な再開を行った。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
・ 広報を工夫し、効果的に情報を発信するよう求めていく。 ・ より積極的な区民雇用の促進を求めていく。				

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	47,099,779	56,618,128	57,403,587	57,402,778
	利用料金収入	—	—	—	—
	その他収入	208,000	100,000	100,000	64,650
	計	47,307,779	56,718,128	57,503,587	57,467,428
支出	運営費	1,485,627	1,755,813	1,900,000	1,723,940
	管理費	8,450,050	17,667,746	17,669,440	19,614,744
	本部経費	0	5,185,389	4,727,436	6,445,711
	人件費	33,515,806	35,808,135	33,470,000	33,763,873
	修繕費	770,040	611,128	877,569	876,760
	その他支出	0	0	0	0
	計	44,221,523	55,842,822	53,917,009	55,979,317
収支差額		3,086,256	875,306	3,586,578	1,488,111

(施設決算状況の説明)

- 1 人件費については、当初計画で示している金額を超えた支出は指定管理者の負担とする。
- 2 修繕費については、当初計画の範囲内で実費精算している。
- 3 平成 2 9 年度分より、収支差額については、当初計画を上回った場合、超過した金額の 2 分の 1 を区に返還することとし、上記決算書には返還後の金額を記載している。
- 4 指定管理料については、運営費・管理費及び修繕費の区への返還額を差し引いた金額を決算額として記載している。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告等を確認した結果、会計手続は適正に行われている。	良好
	予算管理が適正である	予算と決算を比較して収入・支出・収支差は少なく、予算管理は適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	消耗品費、物品修繕費に経費縮減の努力が行われている。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、雇用契約締結日に改善の余地が見込めるものの概ね労務環境は適正である。	良好
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の決算書に基づいて財務診断を行った結果、成長性、収益性、活動性・健全性が優良であり、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している。	優良

総合評価

サービス面は優良、財務面、労務面は良好であり、指定管理業務は適正であったと評価できる。

担当所管部	
部	区民生活部
課	区民施設課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【B施設】

施設概要		
施設名	名称	南千住駅前ふれあい館
	所在地	荒川区南千住七丁目1番1号　アクレスティ南千住2階
指定管理者	名称	株式会社日本ディケアセンター
	所在地	千代田区神田猿楽町二丁目2番3号
施設開設年月日		平成22年4月1日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成22年4月1日
指定期間		平成28年4月1日～令和3年3月31日
業務内容		乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の区民が生き生きと集い、ふれあいと相互交流の輪を広げる場を提供する。遊び・スポーツ・健康づくり・教養娯楽活動等を通じて地域コミュニティの形成を図るとともに、地域住民の自主的かつ主体的な活動を促進する事業を実施する。 【主な施設】サロン、親子ふれあいひろば、プレイルーム、多目的室、洋室、和室、創作室、授乳室、相談室、だれでもトイレ 【総入館者数】 87,220名 (内訳) 世代別事業参加者数 (保護者)8,941名 (乳幼児)11,398名 (小学生)13,741名 (中学生)363名 (高校生)247名 (成人)7,101名 (高齢者)5,830名 (合計)47,621名 貸室利用者数 39,599名
令和元年度の事業計画		
【乳幼児】	家族間のふれあいを大切にした事業の充実を図るとともに、乳幼児タイムやリトミック、育児相談事業を通じて、乳幼児の健全な成長と保護者の子育てを支援する。	
【小学生】	季節を感じられる行事やサークル活動を通じて、楽しく潤いある活動を目指し、事業の充実を図る。	
【中高生】	中高生だけが多目的室を使用できる時間を設け、中高生の居場所を提供する。	
【成人】	団塊の世代や子育て世代を中心に、趣味や実用に繋がるコーラス、クッキング、麻雀、絵画等の各種講座を実施する。	
【高齢者】	合唱、踊り、詩吟、レクダンス等の各種事業を実施し、余暇の充実と健康の維持を支援する。	
【世代間交流】	世代を超えて全ての来館者が楽しめる、ふれあい館まつり、クリスマス会、フリーマーケット、巨大迷路大会を実施する。	
【地域交流】	地域と連携して高齢者演芸大会を実施するほか、地域の各種お祭り等に協力する。	
令和元年度の事業実績		
【乳幼児】	登録制の幼児タイムと自由参加の幼児タイム合同でイベントを開催した結果、大いに盛り上がった。また、各事業を通じて、乳幼児の健全な成長と保護者の子育てを支援することができた。	
【小学生】	サークル活動の内容を充実させることで参加人数の増加につながり、ふれあい館を活性化させることができ、子どもたちに楽しく潤いある活動を提供した。	
【中高生】	やきそば大会や肝試し大会では、挨拶を積極的にする姿勢や館を利用する際の態度の改善が見られ、中高生の自主性や主体性を育むとともに、中高生の交流を促進した。	
【成人】	地域や他のふれあい館との交流事業を実施し、余暇の充実を図った。	
【高齢者】	利用者のニーズに合わせたカラオケ・民謡・レクダンス等の事業を計画どおり実施した結果、大変好評であった。	
【世代間交流】	駅前交流、巨大迷路大会等の各種交流事業を実施し、世代間の交流を促進した。また、駅前食堂は大変好評で参加者の余暇の充実を図ることができた。	
【地域交流】	地域の各種イベントに積極的に参加し、地域との交流を深めた。	

基本評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
施設の維持管理	20			20
快適に利用できるための施設管理がなされている	5	5	100%	5
安全・安心に過ごすための施設管理がなされている	5	5	100%	5
危機管理・苦情・事故等の管理を徹底している	10	5	100%	10
区民サービス	80			79
利用者の事業に対する満足度が高い	20	5	100%	20
職員の接遇がきちんとなされている	25	5	100%	25
ポスターや館だより等の広報方法を工夫している	5	4	80%	4
積極的な事業展開を行っている	10	5	100%	10
利用者数が増加している	20	5	100%	20
合 計 (A)	100			99
その他の評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
地域と連携した事業展開を行っている	2	5	100%	2
区民雇用を積極的に行っている	2	4	80%	1.6
施設全体における評価が高い	2	5	100%	2
安全に対する積極的な取組を行っている	4	5	100%	4
合 計 (B)	10			9.6
合 計 (A+B)				108.6
施設の維持管理・区民サービス等の総合評価				S
評価内容				
「施設の維持管理」については、危機管理等を徹底し、適正に管理されている。 「区民サービス」については、職員の接遇に対する意識が高く、利用者からの評価も高い。また、利用者数は安定しており、多様なニーズを的確に反映した運営が行われている。 「その他の評価項目」については、南千住地域大会や豆まき大会など地域と連携した事業を積極的に行っている。また、水害時に自主避難場所を開設した際には、世代や人数等に合わせた部屋割りをすることで避難された方が、安心かつ快適に過ごせるよう配慮した。新型コロナウイルス感染症対応では、事業の中止を連絡する際に、利用者の体調面や気持ちを気遣った丁寧な対応を行った。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
・ 広報を工夫し、効果的に情報を発信するよう求めていく。 ・ より積極的な区民雇用の促進を求めていく。				

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	45,121,655	44,825,209	45,603,248	45,442,321
	利用料金収入	—	—	—	—
	その他収入	303,760	329,155	300,000	246,010
	計	45,425,415	45,154,364	45,903,248	45,688,331
支出	運営費	1,738,416	2,207,485	1,740,000	1,521,777
	管理費	12,172,850	12,137,758	11,530,506	12,486,226
	本部経費	1,114,725	1,255,472	1,110,000	1,332,642
	人件費	30,330,811	29,482,053	26,500,000	28,366,402
	修繕費	605,556	509,760	654,630	493,703
	その他支出	0	0	0	0
	計	44,847,633	44,337,056	40,425,136	42,868,108
収支差額		577,782	817,308	5,478,112	2,820,223

(施設決算状況の説明)

- 1 人件費については、当初計画で示している金額を超えた支出は指定管理者の負担とする。
- 2 修繕費については、当初計画の範囲内で実費精算している。
- 3 平成 2 9 年度分より、収支差額については、当初計画を上回った場合、超過した金額の 2 分の 1 を区に返還することとし、上記決算書には返還後の金額を記載している。
- 4 指定管理料については、運営費・管理費及び修繕費の区への返還額を差し引いた金額を決算額として記載している。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告等を確認した結果、会計手続は適正に行われている。	良好
	予算管理が適正である	予算と決算を比較して収入・支出・収支差は少なく、予算管理は適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	人件費支出が削減されている一方、本部経費が予算を上回っているが、その他経費の縮減努力が見られた。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目で要件を満たしており、概ね労務環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の決算書に基づいて財務診断を行った結果、成長性、収益性、活動性・健全性が優良であり、安定的、継続的な運営に必要な財務力を有している。	優良

総合評価

サービス面、労務面は優良、財務面は良好であり、指定管理業務は適正であったと評価できる。

担当所管部	
部	区民生活部
課	区民施設課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【B施設】

施設概要		
施設名	名称	汐入ふれあい館
	所在地	荒川区南千住八丁目2番2号
指定管理者	名称	社会福祉法人雲柱社
	所在地	世田谷区上北沢三丁目8番19号
施設開設年月日		平成17年4月1日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成17年4月1日
指定期間		平成29年4月1日～令和4年3月31日
業務内容		乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の区民が生き生きと集い、ふれあいと相互交流の輪を広げる場を提供する。遊び・スポーツ・健康づくり・教養娯楽活動等を通じて地域コミュニティの形成を図るとともに、地域住民の自主的かつ主体的な活動を促進する事業を実施する。 【主な施設】サロン、親子ふれあいひろば、プレイルーム、多目的室、洋室、和室、創作室、だれでもトイレ（学童クラブ併設） 【特徴ある施設】 図書室 【総入館者数】 50,959名 （内訳） 世代別事業参加者数 （保護者）8,319名（乳幼児）8,955名（小学生）18,381名

基本評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
施設の維持管理	20			20
快適に利用できるための施設管理がなされている	5	5	100%	5
安全・安心に過ごすための施設管理がなされている	5	5	100%	5
危機管理・苦情・事故等の管理を徹底している	10	5	100%	10
区民サービス	80			69
利用者の事業に対する満足度が高い	20	5	100%	20
職員の接遇がきちんとなされている	25	4	80%	20
ポスターや館だより等の広報方法を工夫している	5	5	100%	5
積極的な事業展開を行っている	10	4	80%	8
利用者数が増加している	20	4	80%	16
合 計 (A)	100			89
その他の評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
地域と連携した事業展開を行っている	2	5	100%	2
区民雇用を積極的に行っている	2	3	60%	1.2
施設全体における評価が高い	2	5	100%	2
安全に対する積極的な取組を行っている	4	4	80%	3.2
合 計 (B)	10			8.4
合 計 (A+B)				97.4
施設の維持管理・区民サービス等の総合評価				A
評価内容				
「施設の維持管理」については、利用者が安全・安心に過ごせるよう適正に管理されている。 「区民サービス」については、利用者の事業に対する満足度が特に高く、適切に運営されている。また、ポスターや館便りを有効に活用した広報が行われており、適切に事業等を周知できている。 「その他の評価項目」については、地域と連携した事業展開が積極的に行われている。また、水害時に自主避難場所を開設した際には、夜間も定期的に施設内を巡回し、避難者が不安を感じないよう対応した。新型コロナウイルス感染症対応では、休館中に施設入口の掲示板にポスターを掲示するなど、ふれあい館の情報を効果的に発信し、地域とのつながりを維持するための取組を積極的に行っている。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
より積極的な区民雇用の促進を求めていく。				

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	46,478,232	45,663,318	50,237,355	46,854,874
	利用料金収入	—	—	—	—
	その他収入	108,385	108,368	108,000	122
	計	46,586,617	45,771,686	50,345,355	46,854,996
支出	運営費	2,617,401	2,413,854	2,646,277	1,945,242
	管理費	10,371,882	9,077,732	9,897,245	9,524,308
	本部経費	968,130	875,951	875,951	788,968
	人件費	33,758,349	31,729,463	32,304,020	29,728,842
	修繕費	555,368	873,331	3,285,604	2,961,348
	その他支出	0	0	0	0
	計	47,303,000	44,094,380	48,133,146	44,159,740
収支差額		-716,383	1,677,306	2,212,209	2,695,256
(施設決算状況の説明)					
1 人件費及び修繕費については、当初計画の範囲内で実費精算している。					
2 平成 2 9 年度分より、収支差額については、当初計画を上回った場合、超過した金額の 2 分の 1 を区に返還することとし、上記決算書には返還後の金額を記載している。					
3 指定管理料については、運営費・管理費、人件費及び修繕費の区への返還額を差し引いた金額を決算額として記載している。					
財務・労務評価表					
評価項目		評価内容			評価
会計	会計手続が適正である	決算書、総勘定元帳、各証憑書類等を確認した結果、その他収入の管理に関する指摘事項ついて、速やかに改善の計画が示された。			良好
	予算管理が適正である	予算・決算、前年度の決算等を比較して収支差額に差異があるが、綿密な原因分析が行われている。			
会計	経費の効果的活用が行われている	光熱水費、消耗品費、運営費に経費縮減の努力が行われている。			優良
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、3 6 協定、健康診断受診記録等を確認した結果、年次有給休暇の計画付与制度等に関する指摘事項について、速やかに改善の計画が示された。			良好
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の決算書に基づいて財務診断を行った結果、成長性、収益性、活動性・健全性が良好であり、安定的、継続的な運営に必要な財務力を有している。			良好
総合評価					
サービス面、財務面、労務面は良好であり、指定管理業務は適正であったと評価できる					

担当所管部	
部	区民生活部
課	区民施設課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【B施設】

施設概要		
施設名	名称	峡田ふれあい館
	所在地	荒川区荒川三丁目3番10号
指定管理者	名称	特定非営利活動法人ワーカーズコープ
	所在地	豊島区東池袋一丁目44番3号 池袋ISPタマビル
施設開設年月日		平成23年4月1日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成23年4月1日
指定期間		平成29年4月1日～令和4年3月31日
業務内容		乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の区民が生き生きと集い、ふれあいと相互交流の輪を広げる場を提供する。遊び・スポーツ・健康づくり・教養娯楽活動等を通じて地域コミュニティの形成を図るとともに、地域住民の自主的かつ主体的な活動を促進する事業を実施する。 【主な施設】サロン、親子ふれあいひろば、プレイルーム、多目的室、洋室、和室、創作室、授乳室、創作室、だれでもトイレ（学童クラブ併設） 【特徴ある施設】 備蓄倉庫 【総入館者数】 71,182名 （内訳） 世代別事業参加者数 (保護者)5,044名 (乳幼児)5,397名 (小学生)5,080名 (中学生)1,326名 (高校生)420名 (成人)1,222名 (高齢者)11,713名 (合計)30,202名 貸室利用者数 40,980名
令和元年度の事業計画		
【乳幼児】	育児相談や育児講座を積極的に実施し、保護者の子育てに対する不安の解消を図る。	
【小学生】	創作活動とスポーツ活動の充実を図るとともに、全ての学年の子どもたちが安心して遊べる環境を整備し、学年を超えた交流を支援する。	
【中高生】	中高生のニーズを的確に把握し、中高生と職員が一緒になって事業内容を企画することで、中高生のニーズを実現する。	
【成人】	利用者から要望の多いスポーツ事業の充実を図る。	
【高齢者】	地域の方に御協力いただき、料理教室や手芸教室等の新規事業を実施する。	
【世代間交流】	地域のお祭りやスポーツ事業を通じて、幅広い世代間の交流を促進する。	
【地域交流】	地域と連携してお祭りやハロウィンイベントを実施し、地域との交流を深める。	
令和元年度の事業実績		
【乳幼児】	利用者のニーズを踏まえ、各種事業の充実を図った結果、乳幼児親子の来館者数が前年度より増加したほか、子育ての不安を解消できるよう、育児相談等を積極的に実施し、気軽に相談していただけの関係を構築した。	
【小学生】	創作活動については、専門の講師を招いて実施するなど、従来よりも充実した内容で実施したほか、スポーツ活動では、子どもたちの要望を積極的に採用し、異なる学校や学年の子どもたちの交流を促進した。	
【中高生】	小学生の遊びを職員と一緒に支援する機会を設けたほか、中高生の要望を実現するなど積極的に環境を整えた結果、中学生の来館者数が前年度より増加した。	
【成人】	バドミントンやフットサルなどのスポーツ事業を実施し、成人世代の余暇の充実に寄与した。	
【高齢者】	地域の方に御協力いただき、料理教室や手芸教室を実施したほか、体操と脳トレを一体的に行う新規事業を実施し、高齢者の健康の増進と文化の充実に寄与した。	
【世代間交流】	キンボールやビーチボールの活動を通じて、小学生から成人までの幅広い交流を促進した。	
【地域交流】	地域のお祭りやハロウィンイベントなどを地域と一体となって実施し、地域コミュニティの活性化に寄与した。	

基本評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
施設の維持管理	20			20
快適に利用できるための施設管理がなされている	5	5	100%	5
安全・安心に過ごすための施設管理がなされている	5	5	100%	5
危機管理・苦情・事故等の管理を徹底している	10	5	100%	10
区民サービス	80			76
利用者の事業に対する満足度が高い	20	5	100%	20
職員の接遇がきちんとなされている	25	5	100%	25
ポスターや館だより等の広報方法を工夫している	5	5	100%	5
積極的な事業展開を行っている	10	3	60%	6
利用者数が増加している	20	5	100%	20
合 計 (A)	100			96
その他の評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
地域と連携した事業展開を行っている	2	5	100%	2
区民雇用を積極的に行っている	2	5	100%	2
施設全体における評価が高い	2	5	100%	2
安全に対する積極的な取組を行っている	4	5	100%	4
合 計 (B)	10			10
合 計 (A+B)				106
施設の維持管理・区民サービス等の総合評価				S
評価内容				
「施設の維持管理」については、利用者が安全・安心に過ごせるよう適正に管理されている。 「区民サービス」については、利用者の事業に対する満足度が特に高く、適切に運営されている。また、利用者数については、前年度から増加しており、利用者の多様なニーズを的確に反映した運営が行われている。 「その他の評価項目」については、地域と連携した事業展開や積極的な区民雇用が行われている。また、水害時に自主避難場所を開設した際には、区職員と適切に連携を図りながら、避難者が不安を感じないよう対応した。新型コロナウイルス感染症対応では、休館中に子どもたちに向けて、インターネットによる動画配信を行うなど、地域とのつながりを維持するための取組を積極的に行っている。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
業務の効率化を図り、より積極的に事業を展開するよう求めていく。				

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	47,149,263	46,570,627	52,326,026	47,511,774
	利用料金収入	—	—	—	—
	その他収入	65,820	109,246	100,000	119,066
	計	47,215,083	46,679,873	52,426,026	47,630,840
支出	運営費	2,423,596	2,196,955	2,137,941	2,345,486
	管理費	12,795,504	14,877,074	15,845,074	16,216,357
	本部経費	1,319,269	1,688,681	1,900,000	1,933,787
	人件費	27,193,730	24,918,297	27,992,387	23,184,076
	修繕費	950,551	1,091,637	2,682,624	2,676,683
	その他支出	0	0	0	0
	計	43,363,381	43,083,963	48,658,026	44,422,602
収支差額		3,851,702	3,595,910	3,768,000	3,208,238

(施設決算状況の説明)

- 1 人件費及び修繕費については、当初計画の範囲内で実費精算している。
- 2 指定管理料については、人件費及び修繕費の区への返還額を差し引いた金額を決算額として記載している。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告等を確認した結果、会計手続は適正に行われている。	良好
	予算管理が適正である	予算と決算を比較して収入・支出・収支差は少なく、予算管理は適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	職員の退職による人件費減となっている一方、管理運営費が増加しているが、その他縮減努力が見られた。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目で要件を満たしており、概ね労務環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の決算書に基づいて財務診断を行った結果、収益性に注意を要するものの成長性、安全性、活動性・健全性が良好であり、安定的、継続的な運営に必要な財務力を有している。	良好

総合評価

サービス面、労務面は優良、財務面は良好であり、指定管理業務は適正であったと評価できる。

担当所管部	
部	区民生活部
課	区民施設課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【B施設】

施設概要		
施設名	名称	荒川山吹ふれあい館
	所在地	荒川区荒川七丁目 6 番 8 号
指定管理者	名称	特定非営利活動法人荒川区高年者クラブ連合会
	所在地	荒川区荒川一丁目 3 4 番 6 号
施設開設年月日		平成 1 8 年 2 月 1 日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成 1 8 年 2 月 1 日
指定期間		平成 3 0 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 3 1 日
業務内容		乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の区民が生き生きと集い、ふれあいと相互交流の輪を広げる場を提供する。遊び・スポーツ・健康づくり・教養娯楽活動等を通じて地域コミュニティの形成を図るとともに、地域住民の自主的かつ主体的な活動を促進する事業を実施する。 【主な施設】サロン、プレイルーム(親子ふれあいひろば)、多目的室、洋室、和室、創作室、相談室、授乳室、だれでもトイレ 【特徴ある施設】茶室、調理・会議室、屋上庭園 【総入館者数】 60,485名 (内訳) 世代別事業参加者数 (保護者)4,865名 (乳幼児)6,174名 (小学生)3,907名 (中学生)690名 (高校生)600名 (成人)3,010名 (高齢者)10,360名 (合計)29,606名 貸室利用者数 30,879名
令和元年度の事業計画		
【乳幼児】	乳幼児親子が安全で楽しく遊び、子育ての悩みや喜びを共有できる場となるよう、幼児タイムや親子ふれあいひろばを実施する。	
【小学生】	日常の運動遊びや創作活動の充実を図るとともに、楽しく参加できるサークルや教室を実施し、子どもたちに幅広い経験を提供する。	
【中高生】	中高生が気軽に立ち寄れて、居心地の良い場所となるよう環境を整備し、中高生の自主的な活動を支援する。	
【成人・高齢者】	レクリエーション活動と健康促進活動の充実を図る。	
【世代間・地域交流】	地域との協働で、全ての世代の方が楽しめる「作品展」を実施する。	
令和元年度の事業実績		
【乳幼児】	「ぴよぴよタイム」などの子育て支援事業の内容を充実させたほか、幼児ダンスサークルやハロウィンパレードを実施し、子どもの成長を感じられる場を提供した。	
【小学生】	放課後のサークル活動や教室の充実した活動を通じて、子どもたちに幅広い経験を提供した。また、「デイキャンプ」等の大型事業では子どもたちの健やかな成長を支援した。	
【中高生】	小学生から継続で茶道教室と木工クラブへの参加を可とし、自主的な活動の場を提供した。	
【成人・高齢者】	新規事業として、「コーラス」を実施し、成人・高齢者の余暇の休日の充実を図った。また、季節を楽しむおとなの散歩を実施し、高齢者の健康の増進に寄与した。	
【世代間・地域交流】	幅広い世代が集まる「ウィンターフェスティバル」を実施し、世代間の交流を促進した。また、地域と世代間で交流できる多世代交流地域食堂を実施し、地域との連携を図った。	

基本評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
施設の維持管理	20			18
快適に利用できるための施設管理がなされている	5	4	80%	4
安全・安心に過ごすための施設管理がなされている	5	4	80%	4
危機管理・苦情・事故等の管理を徹底している	10	5	100%	10
区民サービス	80			71
利用者の事業に対する満足度が高い	20	5	100%	20
職員の接遇がきちんとなされている	25	5	100%	25
ポスターや館だより等の広報方法を工夫している	5	4	80%	4
積極的な事業展開を行っている	10	3	60%	6
利用者数が増加している	20	4	80%	16
合 計 (A)	100			89
その他の評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
地域と連携した事業展開を行っている	2	5	100%	2
区民雇用を積極的に行っている	2	5	100%	2
施設全体における評価が高い	2	5	100%	2
安全に対する積極的な取組を行っている	4	4	80%	3.2
合 計 (B)	10			9.2
合 計 (A+B)				98.2
施設の維持管理・区民サービス等の総合評価				A
評価内容				
「施設の維持管理」については、危機管理等を徹底し、適正に管理されている。 「区民サービス」については、利用者の事業に対する満足度が特に高く、適切に運営されている。また、職員の接遇に対する意識が高く、利用者からの評価も高い。 「その他の評価項目」については、区民雇用率が高く、地域の活性化に大きく貢献している。また、水害時に自主避難場所を開設した際には、避難者の間隔を空けて床に段ボール等を敷いて可能な限り快適に過ごしていただくよう対応した。新型コロナウイルス感染症対応では、利用者に対して丁寧な説明をしたほか、相手の気持ちに寄り添った電話対応を行い、地域とのつながりを維持するよう努めた。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
業務の効率化を図り、より積極的に事業を展開するよう求めていく。				

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	45,009,881	52,897,704	57,579,536	56,938,415
	利用料金収入	—	—	—	—
	その他収入	71,056	218,200	111,000	159,360
	計	45,080,937	53,115,904	57,690,536	57,097,775
支出	運営費	4,385,085	1,830,246	2,900,000	1,768,622
	管理費	10,566,920	15,753,798	14,281,315	14,227,990
	本部経費	744,000	1,597,054	1,660,000	1,487,474
	人件費	26,286,775	30,591,695	31,786,116	31,896,663
	修繕費	1,143,876	859,734	3,737,372	3,712,782
	その他支出	0	0	0	0
	計	42,382,656	49,035,473	52,704,803	51,606,057
収支差額		2,698,281	4,080,431	4,985,733	5,491,718

(施設決算状況の説明)

- 1 人件費については、当初計画で示している金額を超えた支出は指定管理者の負担とする。
- 2 修繕費については、当初計画の範囲内で実費精算している。
- 3 平成 2 9 年度分より、収支差額については、当初計画を上回った場合、超過した金額の 2 分の 1 を区に返還することとし、上記決算書には返還後の金額を記載している。
- 4 指定管理料については、運営費・管理費及び修繕費の区への返還額を差し引いた金額を決算額として記載している。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告等を確認した結果、会計手続は適正に行われている。	良好
	予算管理が適正である	予算と決算を比較して収入・支出・収支差は少なく、予算管理は適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	委託料や運営費に縮減努力が見られ、人件費は予算通りの支出になっている。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、協定日の記載に改善の余地があるが、概ね労務環境は適正である。	良好
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の決算書に基づいて財務診断を行った結果、成長性、収益性、活動性・健全性が良好であり、安定的、継続的な運営に必要な財務力を有している。	良好

総合評価

サービス面、財務面、労務面は良好であり、指定管理業務は適正であったと評価できる。

担当所管部	
部	区民生活部
課	区民施設課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【B施設】

施設概要		
施設名	名称	町屋ふれあい館
	所在地	荒川区町屋一丁目35番8号
指定管理者	名称	社会福祉法人雲柱社
	所在地	世田谷区上北沢三丁目8番19号
施設開設年月日		平成24年4月1日
現在の指定管理者による運営開始年月日		平成24年4月1日
指定期間		平成30年4月1日～令和5年3月31日
業務内容		乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の区民が生き生きと集い、ふれあいと相互交流の輪を広げる場を提供する。遊び・スポーツ・健康づくり・教養娯楽活動等を通じて地域コミュニティの形成を図るとともに、地域住民の自主的かつ主体的な活動を促進する事業を実施する。 【主な施設】サロン、親子ふれあいひろば、プレイルーム、多目的室、洋室、和室、創作室、授乳室、相談室、だれでもトイレ 【特徴ある施設】音楽室、窯室 【総入館者数】 90,496名 (内訳) 世代別事業参加者数 (保護者)14,542名 (乳幼児)16,390名 (小学生)15,395名 (中学生)2,241名 (高校生)566名 (成人)4,800名 (高齢者)6,749名 (合計)60,683名 貸室利用者数 29,813名
令和元年度の事業計画		
【乳幼児】 利用者のニーズを踏まえ、日曜・祝日の多目的室を幼児親子向けに開放するとともに、親子ふれあいひろば事業の充実を図り、来館しやすい環境を整備する。 【小学生】 小学生親子がスポーツを通じて交流を図れるよう、夜間の多目的室を開放する。 【中高生】 学校・学年を問わず地域の中高生が交流できるよう、スポーツ大会を月に1回実施する。 【成人】 成人層の健康の増進等を図るため、夜間の男性向けヨガ講座を新規で実施する。 【高齢者】 充実した余暇を過ごせるよう、子どもたちに対するボランティア活動の機会を設ける。 【世代間交流】 異なる世代の方々が一緒に食事し、食事の楽しさを実感していただく「みんなで食事会」の充実を図る。 【地域交流】 ふれあい館が地域の方に末永く親しまれるよう、地域行事等に積極的に参加し、地域との交流を深める。		
令和元年度の事業実績		
【乳幼児】 大型連休や夏休みに多目的室を積極的に開放したほか、親子ふれあいひろばや幼児の組織活動の充実を図った結果、乳幼児親子の来館者数が前年度より増加した。 【小学生】 小学生の親子がスポーツを通じて交流できるよう、夜間の多目的室を開放したほか、小学生の組織活動の充実を図り、子どもたちの健やかな成長を支援した。 【中高生】 中高生を対象にしたスポーツ大会を月1回実施し、中高生の交流を図った。 【成人】 新規事業の「メンズヨガ」では、乳幼児や小学生の父親の参加が定着し、若い子育て世代にふれあい館の存在を周知することができた。 【高齢者】 夏休みの特別工作など、高齢者の方が子どもたちと関わりを持てるボランティア活動を積極的に実施し、高齢者の余暇の充実に寄与した。 【世代間交流】 利用者の要望を踏まえ、「みんなで食事会」の実施回数を増加するなど、利用者のニーズにあわせて事業の充実を図り、幅広い世代の方々の交流を促進した。 【地域交流】 地域で開催されている各種会議や町会イベント、地域防災訓練等に積極的に参加し、地域の方々と良好な関係を構築した。		

基本評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
施設の維持管理	20			20
快適に利用できるための施設管理がなされている	5	5	100%	5
安全・安心に過ごすための施設管理がなされている	5	5	100%	5
危機管理・苦情・事故等の管理を徹底している	10	5	100%	10
区民サービス	80			78
利用者の事業に対する満足度が高い	20	5	100%	20
職員の接遇がきちんとなされている	25	5	100%	25
ポスターや館だより等の広報方法を工夫している	5	5	100%	5
積極的な事業展開を行っている	10	4	80%	8
利用者数が増加している	20	5	100%	20
合 計 (A)	100			98
その他の評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
地域と連携した事業展開を行っている	2	5	100%	2
区民雇用を積極的に行っている	2	5	100%	2
施設全体における評価が高い	2	5	100%	2
安全に対する積極的な取組を行っている	4	5	100%	4
合 計 (B)	10			10
合 計 (A+B)				108
施設の維持管理・区民サービス等の総合評価				S
評価内容				
「施設の維持管理」については、利用者が安全・安心に過ごせるよう適正に管理されている。 「区民サービス」については、利用者の事業に対する満足度が特に高く、適切に運営されている。また、職員の接遇に対する意識が高く、利用者からの評価も極めて高い。 「その他の評価項目」については、地域と連携した事業展開や区民雇用が積極的に行われている。また、水害時に自主避難場所を開設した際には、区職員と適切に連携を図りながら、部屋の割り振りなどを工夫し、避難者が安心して過ごせるよう対応した。新型コロナウイルス感染症対応では、休館中に地域の清掃や手作りマスクの配布を行うなど、地域とのつながりを維持するための取組を積極的に行っている。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
業務の効率化を図り、より積極的に事業を展開するよう求めていく。				

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	51,024,118	50,235,544	56,434,522	51,356,524
	利用料金収入	—	—	—	—
	その他収入	436,248	408,922	536,000	222,921
	計	51,460,366	50,644,466	56,970,522	51,579,445
支出	運営費	3,573,442	3,540,584	3,807,935	3,101,477
	管理費	12,405,043	12,064,924	13,158,827	11,919,333
	本部経費	1,774,906	1,849,232	1,849,232	1,577,936
	人件費	34,439,583	32,629,762	37,366,608	33,417,639
	修繕費	907,200	864,108	923,569	788,680
	その他支出	0	0	0	0
	計	51,325,268	49,099,378	55,256,939	49,227,129
収支差額		135,098	1,545,088	1,713,583	2,352,316
(施設決算状況の説明)					
1 人件費及び修繕費については、当初計画の範囲内で実費精算している。 2 平成 2 9 年度分より、収支差額については、当初計画を上回った場合、超過した金額の 2 分の 1 を区に返還することとし、上記決算書には返還後の金額を記載している。 3 指定管理料については、運営費・管理費、人件費及び修繕費の区への返還額を差し引いた金額を決算額として記載している。					
財務・労務評価表					
評価項目		評価内容			評価
会計	会計手続が適正である	決算書、総勘定元帳、各証憑書類等を確認した結果、人件費の集計ミスに関する指摘事項について速やかに改善され、追加の資料が提出された。			良好
	予算管理が適正である	予算・決算、前年度決算等を比較して収支差額に差異があるが、綿密な原因分析が行われている。			
会計	経費の効果的活用が行われている	旅費、消耗品費、運営費に経費縮減の努力が行われている。			優良
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、3 6 協定、健康診断受診記録等を確認した結果、衛生推進者の選任に関する指摘事項について、速やかに改善された。			良好
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の決算書に基づいて財務診断を行った結果、成長性、収益性、活動性・健全性が良好であり、安定的、継続的な運営に必要な財務力を有している。			良好
総合評価					
サービス面は優良、財務面、労務面は良好であり、指定管理業務は適正であったと評価できる。					

担当所管部	
部	区民生活部
課	区民施設課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【B施設】

施設概要		
施設名	名称	荒木田ふれあい館
	所在地	荒川区町屋六丁目 1 3 番 2 号
指定管理者	名称	株式会社大起エンゼルヘルプ
	所在地	荒川区東尾久一丁目 1 番 4 号 5 階
施設開設年月日		平成 1 6 年 1 0 月 2 6 日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成 1 6 年 1 0 月 2 6 日
指定期間		平成 2 8 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 3 1 日
業務内容		乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の区民が生き生きと集い、ふれあいと相互交流の輪を広げる場を提供する。遊び・スポーツ・健康づくり・教養娯楽活動等を通じて地域コミュニティの形成を図るとともに、地域住民の自主的かつ主体的な活動を促進する事業を実施する。 【主な施設】サロン、親子ふれあいひろば、プレイルーム、多目的室、洋室、和室、創作室、授乳室、だれでもトイレ 【特徴ある施設】音楽室、調理・会議室 【総入館者数】 62,624名 (内訳) 世代別事業参加者数 (保護者)2,925名 (乳幼児)5,067名 (小学生)11,561名 (中学生)1,679名 (高校生)456名 (成人)7,801名 (高齢者)5,059名 (合計)34,548名 貸室利用者数 28,076名
令和元年度の事業計画		
【乳幼児】	年齢や発育状況にあわせたプログラムを実施し、子どもの健やかな成長を支援するとともに、保護者の育児に関する悩みや不安を解消できるよう、いつでも気軽に交流できる場を提供する。	
【小学生】	子どもたちの自主的な運動・創作活動を支援し、個性や可能性を引き出すことで、たくましく生きる力を育む。	
【中高生】	中高生だけが使用できる多目的室の時間帯を設け、職員と一緒に身体を動かし、相談にも親身になって応じることで、信頼関係を構築する。	
【成人】	年間 1 8 教室以上を実施し、参加者の交流を促進するとともに、施設利用者の自主的かつ主体的な活動を支援する。	
【高齢者】	健康増進事業や教養・趣味活動事業を実施し、高齢者が住み慣れた荒川区で未長く元気に生活できるよう支援する。	
【世代間交流・地域交流】	ふれあい祭りやトレインフェスティバル等の大型イベントを通じて、各世代の交流を促進するとともに地域の行事に積極的に参加し、地域との交流を図る。	
令和元年度の事業実績		
【乳幼児】	2歳児クラスが1クラス減少して21組になったが、その分、職員と保護者、教室に参加している保護者同士の交流を深めることができた。	
【小学生】	「運動会」や「クリスマス会」などの行事を通じて、児童ボランティアが活躍する機会を設けることで、子どもたちの主体性や自主性の成長を支援した。	
【中学生】	夜間に「中高生タイム」を実施し、スポーツを通じて、中高生との信頼関係を構築した。	
【成人】	成人向け教室の中でもビーチボール教室は男性参加者が増加し、昨年の倍以上の参加があり、参加者交流の促進に役立った。	
【高齢者】	介護予防活動教室を参加者の要望に応え、月 1 回から 2 回に増やし、町屋地域包括支援センターの協力で「熱中症予防」講習を実施するなど、高齢者の健康増進につながる内容を充実させた。	
【世代間交流・地域交流】	ふれあいコンサート、トレインフェスティバル等の大型イベントを実施した結果、多くの方に御来館いただいた。中でも、ふれあい祭りは大盛況であり、世代間交流と地域交流を大いに促進した。	

基本評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
施設の維持管理	20			18
快適に利用できるための施設管理がなされている	5	4	80%	4
安全・安心に過ごすための施設管理がなされている	5	4	80%	4
危機管理・苦情・事故等の管理を徹底している	10	5	100%	10
区民サービス	80			65
利用者の事業に対する満足度が高い	20	4	80%	16
職員の接遇がきちんとなされている	25	5	100%	25
ポスターや館だより等の広報方法を工夫している	5	4	80%	4
積極的な事業展開を行っている	10	4	80%	8
利用者数が増加している	20	3	60%	12
合 計 (A)	100			83
その他の評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
地域と連携した事業展開を行っている	2	5	100%	2
区民雇用を積極的に行っている	2	5	100%	2
施設全体における評価が高い	2	5	100%	2
安全に対する積極的な取組を行っている	4	5	100%	4
合計 (B)	10			10
合計 (A+B)				93
施設の維持管理・区民サービス等の総合評価				A
評価内容				
「施設の維持管理」については、危機管理等を徹底し、適正に管理されている。 「区民サービス」については、幅広い世代に対応した、多様な事業が実施されている。 「その他の評価項目」については、地域のお祭りに積極的に参加するなど、地域との充実した交流が図られているほか、職員の上級救命講習の取得率も高く、安全への取組を積極的に行っている。また、水害時の避難場所運営にあたっては、幼児・妊婦や障害のある方など、需要に即した部屋割りを行った。新型コロナウイルス感染症対応では、休館中に館の掲示板を通じて、感染症情報を提供するなど、地域との繋がりの維持に取り組んできた。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
・利用者の事業に対する満足度の向上を図るため、利用者のニーズを的確に把握し、事業に反映させるように求めていく。 ・利用者数の増加に向けて、これまで以上に地域住民のニーズを的確に把握し、事業に反映するよう求めていく。				

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	47,624,933	44,985,834	48,708,647	45,406,035
	利用料金収入	—	—	—	—
	その他収入	272,600	214,650	100,000	86,100
	計	47,897,533	45,200,484	48,808,647	45,492,135
支出	運営費	3,160,170	3,021,384	3,373,147	2,747,864
	管理費	8,892,251	11,837,614	11,337,830	13,252,404
	本部経費	50,000	40,000	60,000	45,000
	人件費	31,088,327	27,746,138	31,346,105	28,057,336
	修繕費	1,130,522	1,113,696	1,131,565	1,117,722
	その他支出	0	0	0	0
	計	44,271,270	43,718,832	47,188,647	45,175,326
収支差額		3,626,263	1,481,652	1,620,000	316,809

(施設決算状況の説明)

- 1 人件費及び修繕費については、当初計画の範囲内で実費精算している。
- 2 指定管理料については、人件費及び修繕費の区への返還額を差し引いた金額を決算額として記載している。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告等を確認した結果、会計手続は適正に行われている。	良好
	予算管理が適正である	予算と決算を比較して収入・支出・収支差は少なく、予算管理は適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	新型コロナウイルス感染症対策による消耗品費の支出増などがある一方、人件費支出が抑えられている。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目で要件を満たしており、概ね労務環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の決算書に基づいて財務診断を行った結果、成長性、収益性、活動性・健全性が良好であり、安定的、継続的な運営に必要な財務力を有している。	良好

総合評価

サービス面、財務面は良好、労務面は優良であり、指定管理業務は適正であったと評価できる。

担当所管部	
部	区民生活部
課	区民施設課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【B施設】

施設概要		
施設名	名称	尾久ふれあい館
	所在地	荒川区西尾久二丁目 2 5 番 1 3 号
指定管理者	名称	特定非営利活動法人ワーカーズコープ
	所在地	豊島区東池袋一丁目 4 4 番 3 号 池袋 I S P タマビル
施設開設年月日		平成 2 4 年 4 月 1 日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成 2 4 年 4 月 1 日
指定期間		平成 3 0 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 3 1 日
業務内容		乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の区民が生き生きと集い、ふれあいと相互交流の輪を広げる場を提供する。遊び・スポーツ・健康づくり・教養娯楽活動等を通じて地域コミュニティの形成を図るとともに、地域住民の自主的かつ主体的な活動を促進する事業を実施する。 【主な施設】サロン、親子ふれあいひろば、プレイルーム、多目的室、洋室、和室、創作室、授乳室、相談室、だれでもトイレ 【特徴ある施設】調理実習室、レクホール 【総入館者数】 104,942名 (内訳) 世代別事業参加者数 (保護者)8,072名 (乳幼児)9,051名 (小学生)7,508名 (中学生)1,834名 (高校生)208名 (成人)5,192名 (高齢者)16,393名 (合計)48,258名 貸室利用者数 56,684名
令和元年度の事業計画		
【乳幼児】	乳幼児の月齢別の活動の充実を図るとともに、保護者のボランティアサークルを立ち上げ、地域交流の場となるよう支援する。	
【小学生】	「読書愛するまち・あらかわ」の宣言を踏まえ、子どもたちがより本に親しみを持てるよう支援する。	
【中高生】	当館のダンスサークルで活動していた小学生が、中高生になっても継続してダンスに取り組めるよう、中高生だけのダンスサークルを立ち上げる。	
【成人】	利用者や地域の方が集い、気軽に懇談できる場となるよう、「まちなか花壇」のサークルを立ち上げる。	
【高齢者】	あらみん体操事業の充実や、新たにスポーツ吹き矢を実施し、高齢者の健康の増進を支援する。	
【世代間交流】	関係機関と連携して「おぐっこガーデン」を実施し、誰もが集える地域に根差した活動となるよう展開する。	
【地域交流】	地元町会との相互協力を深めるとともに、近隣の医療機関と連携して事業を実施するなど、地域との交流を積極的に図る。	
令和元年度の事業実績		
【乳幼児】	保護者のボランティアサークルを立ち上げたほか、乳幼児の父親向けの事業を積極的に実施した結果、家族単位での利用が増加し、来館者数（新型コロナウイルス感染症が拡大する前の令和2年2月までの来館者数）が前年度から増加した。	
【小学生】	子どもたちの読書への興味・関心を深められるよう、読書に関する意見交換の機会を設けたほか、クッキングやダンスなどの事業を通じて、子どもたちの学年を超えた交流を支援した。	
【中高生】	新規事業として、中高生のダンスサークルを実施し、他のふれあい館のダンスサークルと交流を図るなど、幅広い交流を支援した。	
【成人】	「まちなか花壇」のサークルを新規で立ち上げたほか、利用者からの需要が高かったフラワーアレンジメント教室を特に充実させた結果、前年度から参加者数が増加した。	
【高齢者】	新規事業として、スポーツ吹き矢を実施したほか、年2回の遠足を充実させた結果、多くの方に参加いただくなど、高齢者の健康の増進と余暇の充実に寄与した。	
【世代間交流】	菜園事業の「おぐっこガーデン」では、子どもたちやボランティア団体の方々など、幅広い世代の方々と交流を深めながら実施し、「あらかわ緑・花大賞」では団体部門で大賞を受賞した。	
【地域交流】	地域の医療機関と連携して、「健康まつり」にブースを出展するなど、積極的に地域の関係機関との連携を図った。	

基本評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
施設の維持管理	20			20
快適に利用できるための施設管理がなされている	5	5	100%	5
安全・安心に過ごすための施設管理がなされている	5	5	100%	5
危機管理・苦情・事故等の管理を徹底している	10	5	100%	10
区民サービス	80			77
利用者の事業に対する満足度が高い	20	5	100%	20
職員の接遇がきちんとなされている	25	5	100%	25
ポスターや館だより等の広報方法を工夫している	5	4	80%	4
積極的な事業展開を行っている	10	4	80%	8
利用者数が増加している	20	5	100%	20
合 計 (A)	100			97
その他の評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
地域と連携した事業展開を行っている	2	5	100%	2
区民雇用を積極的に行っている	2	5	100%	2
施設全体における評価が高い	2	5	100%	2
安全に対する積極的な取組を行っている	4	5	100%	4
合 計 (B)	10			10
合 計 (A+B)				107
施設の維持管理・区民サービス等の総合評価				S
評価内容				
「施設の維持管理」については、利用者が安全・安心に過ごせるよう適正に管理されている。 「区民サービス」については、利用者の事業に対する満足度が特に高く、適切に運営されている。また、職員の接遇に対する意識が高く、利用者からの評価も高い。 「その他の評価項目」については、地域と連携した事業展開や区民雇用が積極的に行われている。また、水害時に自主避難場所を開設した際には、乳幼児におもちゃを貸し出すなど、避難者が不安を感じないように配慮して対応した。新型コロナウイルス感染症対応では、休館中に子どもたちに向けてインターネットによる動画配信を行うなど、地域とのつながりを維持するための取組を積極的に行っている。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
・ 広報を工夫し、効果的に情報を発信するよう求めている。 ・ 業務の効率化を図り、より積極的に事業を展開するよう求めている。				

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	52,077,390	55,853,426	61,110,488	60,706,122
	利用料金収入	—	—	—	—
	その他収入	350,846	455,261	350,000	613,412
	計	52,428,236	56,308,687	61,460,488	61,319,534
支出	運営費	2,994,819	3,209,762	2,785,000	3,540,706
	管理費	14,123,701	17,798,466	18,146,549	18,498,366
	本部経費	1,412,416	1,760,639	1,900,000	1,879,379
	人件費	31,875,448	32,799,265	37,120,195	36,892,901
	修繕費	1,294,006	1,361,124	1,382,344	1,225,728
	その他支出	0	0	0	0
	計	50,287,974	55,168,617	59,434,088	60,157,701
収支差額		2,140,262	1,140,070	2,026,400	1,161,833
(施設決算状況の説明)					
1 人件費及び修繕費については、当初計画の範囲内で実費精算している。					
2 平成 2 9 年度分より、収支差額については、当初計画を上回った場合、超過した金額の 2 分の 1 を区に返還することとし、上記決算書には返還後の金額を記載している。					
3 指定管理料については、運営費・管理費、人件費及び修繕費の区への返還額を差し引いた金額を決算額として記載している。					
財務・労務評価表					
評価項目		評価内容			評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告等を確認した結果、会計手続は適正に行われている。			良好
	予算管理が適正である	予算と決算を比較して収入・支出・収支差は少なく、予算管理は適正である。			
会計	経費の効果的活用が行われている	新型コロナウイルス感染症対策で役務費、事業充実のための運営費の支出増がある一方、縮減努力が見られた。			良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目で要件を満たしており、概ね労務環境は適正である。			優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の決算書に基づいて財務診断を行った結果、収益性に注意を要するものの成長性、安全性、活動性・健全性が良好であり、安定的、継続的な運営に必要な財務力を有している。			良好
総合評価					
サービス面、労務面は優良、財務面は良好であり、指定管理業務は適正であったと評価できる。					

担当所管部	
部	区民生活部
課	区民施設課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【B施設】

施設概要		
施設名	名称	西尾久ふれあい館
	所在地	荒川区西尾久八丁目3番31号
指定管理者	名称	株式会社日本デイクアセンター
	所在地	千代田区神田猿楽町二丁目2番3号
施設開設年月日		平成16年10月12日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成16年10月12日
指定期間		平成28年4月1日～令和3年3月31日
業務内容		乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の区民が生き生きと集い、ふれあいと相互交流の輪を広げる場を提供する。遊び・スポーツ・健康づくり・教養娯楽活動等を通じて地域コミュニティの形成を図るとともに、地域住民の自主的かつ主体的な活動を促進する事業を実施する。 【主な施設】サロン、親子ふれあいひろば、プレイルーム、多目的室、洋室、和室、創作室、だれでもトイレ（学童クラブ併設） 【総入館者数】 54,921名 （内訳） 世代別事業参加者数 （保護者）5,985名（乳幼児）8,627名（小学生）8,426名（中学生）2,357名（高校生）378名（成人）3,296名（高齢者）5,209名（合計）34,278名 貸室利用者数 20,643名
令和元年度の事業計画		
【乳幼児】	ふれあい館を利用するきっかけとなることが多い身体測定等の事業を特に丁寧に実施し、継続的にふれあい館を利用してもらうことで、利用者同士や職員との交流を図り、子育ての孤立化を防止する。	
【小学生】	子どもたちが安心・安全に遊べる環境を整備するとともに、性格の異なる4つのサークル活動を継続し、子どもたちの個性に応じた活動を支援する。	
【中高生】	中高生だけが多目的室を使用できる時間を設け、利用の定着を図るとともに、ボランティア活動を始めとした、中高生が活躍できる機会を提供する。	
【成人】	成人世代に親しみをもってふれあい館を利用してもらうよう、親子で参加できる事業を中心に、内容を工夫しながら実施する。	
【高齢者】	健康で充実した毎日を過ごせるよう、各事業の充実を図る。	
【世代間交流】	各事業の中で、幅広い世代の方々が交流できる機会を積極的に設定する。	
【地域交流】	地域の福祉施設との交流会を継続して実施するとともに、地域のお祭り等の行事に積極的に参加する。	
令和元年度の事業実績		
【乳幼児】	「身体測定」や「ベビーマッサージ」等の事業を丁寧に実施し、地域の子育て支援の拠点施設の役割を果たした。また、好評であった「クラブダンス」は利用者と職員との交流を促進した。	
【小学生】	性格の異なる4つのサークル活動を実施したほか、大型行事や「クッキングキッズ」など多様な事業を展開し、子どもたちの社会性や主体性の成長を支援した。	
【中高生】	中高生サークルでは主体的に活動できるように工夫したほか、「フリーマーケット」では中高生の自主性を育む機会を提供した。	
【成人】	親子でできる事業を実施し、父親と子どもがふれあう場を提供したほか、「ママサークル」では参加者で自主運営をすることから母親同士の交流を促進した。	
【高齢者】	各事業に積極的に参加していただいた。中でも、「健康ヨガ」は大変好評であり、高齢者の健康増進に寄与した。	
【世代間交流】	「ふれあいカフェ」や「ハロウィンあそび」などを通じて、幅広い世代間の交流を促進した。	
【地域交流】	伝統のあるお祭りに子どもたちが参加し、地域との関係を深めながら交流を積極的に行った。	

基本評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
施設の維持管理	20			20
快適に利用できるための施設管理がなされている	5	5	100%	5
安全・安心に過ごすための施設管理がなされている	5	5	100%	5
危機管理・苦情・事故等の管理を徹底している	10	5	100%	10
区民サービス	80			76
利用者の事業に対する満足度が高い	20	5	100%	20
職員の接遇がきちんとなされている	25	5	100%	25
ポスターや館だより等の広報方法を工夫している	5	5	100%	5
積極的な事業展開を行っている	10	5	100%	10
利用者数が増加している	20	4	80%	16
合 計 (A)	100			96
その他の評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
地域と連携した事業展開を行っている	2	5	100%	2
区民雇用を積極的に行っている	2	4	80%	1.6
施設全体における評価が高い	2	5	100%	2
安全に対する積極的な取組を行っている	4	5	100%	4
合計 (B)	10			9.6
合計 (A+B)				105.6
施設の維持管理・区民サービス等の総合評価				S
評価内容				
「施設の維持管理」については、危機管理等を徹底し、適正に管理されている。 「区民サービス」については、利用者の事業に対する満足度が特に高く、適切に運営されている。また、職員の接遇に対する意識が高く、利用者からの評価も高い。 「その他の評価項目」については、地域と連携し、お祭りや各種イベントに参加するなど積極的な事業展開を行っている。また、水害時に自主避難場所を開設した際には、1階の水没等を考慮し、避難者を3階から誘導することで安全の確保に努めた。新型コロナウイルス感染症対応では、館の情報を積極的に発信したほか、効率の良い換気方法や消毒作業の方針を決め、安全・安心に館を再開できるように準備を進めた。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
・利用者数の増加に向けて、これまで以上に地域住民のニーズを的確に把握し、事業に反映するよう求めている。 ・より積極的な区民雇用の促進を求めている。				

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	48,829,943	47,892,636	49,788,126	49,771,779
	利用料金収入	—	—	—	—
	その他収入	365,580	219,116	370,000	190,787
	計	49,195,523	48,111,752	50,158,126	49,962,566
支出	運営費	2,501,411	2,626,189	2,500,000	2,503,880
	管理費	12,974,358	13,185,368	12,808,730	13,119,347
	本部経費	1,114,725	1,255,472	1,110,000	1,332,642
	人件費	27,306,994	26,052,813	26,000,000	28,827,946
	修繕費	1,664,462	934,540	2,165,507	2,149,160
	その他支出	0	0	0	0
	計	44,447,225	42,798,910	43,474,237	46,600,333
収支差額		4,748,298	5,312,842	6,683,889	3,362,233

(施設決算状況の説明)

- 1 人件費については、当初計画で示している金額を超えた支出は指定管理者の負担とする。
- 2 修繕費については、当初計画の範囲内で実費精算している。
- 3 平成 2 9 年度分より、収支差額については、当初計画を上回った場合、超過した金額の 2 分の 1 を区に返還することとし、上記決算書には返還後の金額を記載している。
- 4 指定管理料については、運営費・管理費及び修繕費の区への返還額を差し引いた金額を決算額として記載している。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告等を確認した結果、会計手続は適正に行われている。	良好
	予算管理が適正である	予算と決算を比較して収入・支出・収支差は少なく、予算管理は適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	引き継ぎによる本部経費の増があるものの管理運営費全般において縮減努力が見られた。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目で要件を満たしており、概ね労務環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の決算書に基づいて財務診断を行った結果、成長性、収益性、活動性・健全性が優良であり、安定的、継続的な運営に必要な財務力を有している。	優良

総合評価

サービス面、労務面は優良、財務面は良好であり、指定管理業務は適正であったと評価できる。

担当所管部	
部	区民生活部
課	区民施設課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【B施設】

施設概要		
施設名	名称	東日暮里ふれあい館
	所在地	荒川区東日暮里一丁目 1 7 番 1 3 号
指定管理者	名称	学校法人道灌山学園
	所在地	荒川区西日暮里四丁目 7 番 1 5 号
施設開設年月日		平成 1 7 年 4 月 1 日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成 1 7 年 4 月 1 日
指定期間		平成 2 9 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 3 1 日
業務内容		乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の区民が生き生きと集い、ふれあいと相互交流の輪を広げる場を提供する。遊び・スポーツ・健康づくり・教養娯楽活動等を通じて地域コミュニティの形成を図るとともに、地域住民の自主的かつ主体的な活動を促進する事業を実施する。 【主な施設】サロン、プレイルーム(親子ふれあいひろば)、多目的室、洋室、和室、創作室、相談室、だれでもトイレ(学童クラブ併設) 【特徴ある施設】 音楽室 【総入館者数】 48,259名 (内訳) 世代別事業参加者数 (保護者)8,167名 (乳幼児)9,078名 (小学生)5,860名 (中学生)909名 (高校生)117名 (成人)3,902名 (高齢者)5,521名 (合計)33,554名 貸室利用者数 14,705名
令和元年度の事業計画		
【乳幼児】	多様化する子育てニーズに対応できるよう、幼児タイムや親子ふれあいひろばの充実を図り、乳幼児と保護者が安心して施設を利用できる環境を整備する。	
【小学生】	通常の事業実施にあたり、児童の興味・関心に寄り添った事業運営を図るとともに大型の事業等については、中心的に活動してもらうことで様々な体験を得られるような事業展開を図る。	
【中高生】	中高生のボランティアを積極的に受け入れ、主体的に事業に参加できる環境を整える。	
【成人】	地域活動の拠点として来館しやすい環境を整備するとともに、利用者ニーズを的確に把握し、幅広い年齢層に対応した事業を展開する。	
【高齢者】	地域の中の身近な施設として、来館機会の増加を図り、高齢者の生活や教養の質の向上と「仲間作り」や「生きがい」の創出を支援する。	
【地域交流】	地域の動向をきめ細かく把握し、地域と連携した事業を積極的に実施する。	
令和元年度の事業実績		
【乳幼児】	幼児タイムは年齢・月齢を意識したきめ細かい活動を行う一方、親子ふれあいひろば等の保護者が参加する事業については、年齢に関係なく幅広い親子が、のびのびと利用できる環境を整備した。	
【小学生】	大型行事の実行委員として企画・運営に関わってもらうことで、様々な体験の機会を提供できた。また、他区の児童の利用が増えることで、交流の機会も広がっている。	
【中高生】	大型行事の際には、職員の補助役としてボランティア活動に取り組んでもらうなど、活躍できる環境を提供した。また、来館児童との信頼関係を構築できる関わり方が出来る環境も整えた。	
【成人】	来館しやすい環境づくりのため、丁寧な対応を心がけるとともに利用者に人気のある事業(ヨガ・手芸等)の実施に当たっては、参加機会の均等化を意識した。	
【高齢者】	笑顔で来館できる雰囲気を作り上げるとともに、館独自のサロン事業を高齢者見守りステーションや地域包括支援センターとの連携を通じて内容の充実に努めてきた。	
【地域交流】	お祭りや盆踊り等の地域行事への参加を通じて地域との関係強化の機会を増やしてきた。	

基本評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
施設の維持管理	20			20
快適に利用できるための施設管理がなされている	5	5	100%	5
安全・安心に過ごすための施設管理がなされている	5	5	100%	5
危機管理・苦情・事故等の管理を徹底している	10	5	100%	10
区民サービス	80			80
利用者の事業に対する満足度が高い	20	5	100%	20
職員の接遇がきちんとなされている	25	5	100%	25
ポスターや館だより等の広報方法を工夫している	5	5	100%	5
積極的な事業展開を行っている	10	5	100%	10
利用者数が増加している	20	5	100%	20
合 計 (A)	100			100
その他の評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
地域と連携した事業展開を行っている	2	5	100%	2
区民雇用を積極的に行っている	2	4	80%	1.6
施設全体における評価が高い	2	5	100%	2
安全に対する積極的な取組を行っている	4	4	80%	3.2
合 計 (B)	10			8.8
合 計 (A+B)				108.8
施設の維持管理・区民サービス等の総合評価				S
評価内容				
「施設の維持管理」については、利用者が安全・安心に過ごせるよう適正に管理されている。また、利用者数も前年度から増加し、多様なニーズを的確に反映した運営が行われている。 「区民サービス」については、利用者の事業に対する満足度が特に高く、適切に運営されており、事業周知もポスターや館便りを有効に活用して行われている。 「その他の評価項目」については、利用者からの施設全体に対する評価が高いほか、地域の演芸大会や文化祭、子どもまつりへの参加を通じて、地域交流に積極的に取り組んでいる。また、水害時の自主避難場所運営にあたっては、周辺地域の状況把握に努めることで、安全に配慮した運営を行った。新型コロナウイルス感染症対応では、安全第一との区の方針を念頭においた事業再開に努め、3密回避を利用者に徹底してもらえよう取り組んだ。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
より積極的な区民雇用の促進を求めていく。				

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	51,393,246	52,365,522	54,009,380	53,988,453
	利用料金収入	—	—	—	—
	その他収入	0	0	0	0
	計	51,393,246	52,365,522	54,009,380	53,988,453
支出	運営費	2,942,504	2,817,420	2,500,000	2,411,510
	管理費	8,809,195	11,602,194	11,308,715	12,165,373
	本部経費	650,846	761,693	757,915	858,018
	人件費	37,737,115	37,166,039	38,058,000	38,505,989
	修繕費	1,091,089	1,086,205	2,075,225	2,054,298
	その他支出	0	0	0	0
	計	50,579,903	52,671,858	53,941,940	55,137,170
収支差額		813,343	-306,336	67,440	-1,148,717

(施設決算状況の説明)

- 1 人件費については、当初計画で示している金額を超えた支出は指定管理者の負担とする。
- 2 修繕費については、当初計画の範囲内で実費精算している。
- 3 指定管理料については、修繕費の区への返還額を差し引いた金額を決算額として記載している。

財務・労務評価表				
評価項目		評価内容	評価	
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告等を確認した結果、会計手続は適正に行われている。	良好	
	予算管理が適正である	予算と決算を比較して収入・支出・収支差は少なく、予算管理は適正である。		
会計	経費の効果的活用が行われている	物品修繕費、消耗品費をはじめ、樹木剪定を職員自ら行うなど管理運営費に縮減努力がみられた。	良好	
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、雇用契約締結日に改善の余地が見込めるものの概ね労務環境は適正である。	良好	
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の決算書に基づいて財務診断を行った結果、安定性が優良、成長性、収益性、活動性・健全性も良好であり、安定的、継続的な運営に必要な財務力を有している。	優良	

総合評価	
サービス面は優良、財務面、労務面は良好であり、指定管理業務は適正であったと評価できる。	

担当所管部	
部	区民生活部
課	区民施設課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【B施設】

施設概要		
施設名	名称	夕やけこやけふれあい館
	所在地	荒川区東日暮里三丁目 1 1 番 1 9 号
指定管理者	名称	社会福祉法人教信精舎
	所在地	荒川区西尾久六丁目 9 番 7 号
施設開設年月日		平成 2 5 年 4 月 1 日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成 2 5 年 4 月 1 日
指定期間		平成 3 0 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 3 1 日
業務内容		乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の区民が生き生きと集い、ふれあいと相互交流の輪を広げる場を提供する。遊び・スポーツ・健康づくり・教養娯楽活動等を通じて地域コミュニティの形成を図るとともに、地域住民の自主的かつ主体的な活動を促進する事業を実施する。 【主な施設】サロン、親子ふれあいひろば、プレイルーム、多目的室、洋室、和室、創作室、授乳室、だれでもトイレ 【特徴ある施設】レクリエーションホール 【総入館者数】 83,654名 (内訳) 世代別事業参加者数 (保護者)9,339名 (乳幼児)10,427名 (小学生)13,707名 (中学生)1,139名 (高校生)274名 (成人)1,776名 (高齢者)7,588名 (合計)44,250名 貸室利用者数 39,404名
令和元年度の事業計画		
【乳幼児】	乳幼児タイムや親子わくわく体操、親子リトミック等の事業を引き続き重点的に実施するとともに、平成30年度に試験的に実施した、ママカフェや乳幼児創作タイムを新規事業として実施する。	
【小学生・中高生】	創作室事業の多様化を重点的に実施するとともに、日舞サークル「すずらん」の中学生の部の創設に向けた検討を進める。	
【成人・高齢者】	地域合同演芸会及びクリスマス演芸会を重点的に推進するとともに、和室、多目的室、レクホールの事業の充実を図る。	
【世代間交流】	春・夏まつりの内容の充実を図るとともに、バスハイク、餅つき大会、文化祭、日暮里コミュニティ訪問等の事業を推進する。	
【地域交流】	地域の団体・サークル活動を支援し、交流の拠点となる開かれた施設運営を行う。	
令和元年度の事業実績		
【乳幼児】	乳幼児タイムでは、公園でどんぐり拾いを実施するなど、新しい試みで内容の充実を図ったほか、新規事業のママカフェでは、職員が積極的に会話に加わり、悩み事などの聞き取り役に務めるようにしたところ、参加者数が徐々に増加した。	
【小学生・中高生】	多様な創作事業を実施したほか、初めての中学生日舞サークルには特に力を入れて取り組み、新型コロナウイルス感染症の影響で発表の場を設けることはできなかったが、児童との絆を深めることができた。	
【成人・高齢者】	従来の定例事業をはじめ、クリスマス演芸会等に積極的に取り組むとともに、他団体との共催で実施した「大人のための文化講座」では、区内外の多くの方に御参加いただき、有意義なコンサートを開催することができた。	
【世代間交流】	夏まつりや力士を招いてのイベントなどを通じて、乳幼児から高齢者まで幅広い世代の交流を促進した。	
【地域交流】	地域のサークル活動を支援し、地域コミュニティの拠点施設としての役割を果たした。	

基本評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
施設の維持管理	20			20
快適に利用できるための施設管理がなされている	5	5	100%	5
安全・安心に過ごすための施設管理がなされている	5	5	100%	5
危機管理・苦情・事故等の管理を徹底している	10	5	100%	10
区民サービス	80			67
利用者の事業に対する満足度が高い	20	5	100%	20
職員の接遇がきちんとなされている	25	5	100%	25
ポスターや館だより等の広報方法を工夫している	5	4	80%	4
積極的な事業展開を行っている	10	3	60%	6
利用者数が増加している	20	3	60%	12
合 計 (A)	100			87
その他の評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
地域と連携した事業展開を行っている	2	5	100%	2
区民雇用を積極的に行っている	2	5	100%	2
施設全体における評価が高い	2	5	100%	2
安全に対する積極的な取組を行っている	4	5	100%	4
合 計 (B)	10			10
合 計 (A+B)				97
施設の維持管理・区民サービス等の総合評価				A
評価内容				
「施設の維持管理」については、利用者が安全・安心に過ごせるよう適正に管理されている。 「区民サービス」については、利用者の事業に対する満足度が特に高く、適切に運営されている。また、職員の接遇に対する意識が高く、利用者からの評価も高い。 「その他の評価項目」については、地域と連携した事業展開や区民雇用が積極的に行われている。また、水害時に自主避難場所を開設した際には、建物の安全性を十分に説明するなど、避難者が不安を感じないように配慮して対応した。新型コロナウイルス感染症対応では、休館中に子どもたちへ励ましの手紙を送付するなど、地域とのつながりを維持するための取組を積極的に行っている。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
・業務の効率化を図り、より積極的に事業を展開するよう求めていく。 ・利用者数の増加に向けて、これまで以上に地域住民のニーズを的確に把握し、事業に反映するよう求めていく。				

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	47,639,093	54,409,540	58,309,853	55,049,234
	利用料金収入	—	—	—	—
	その他収入	740,060	573,801	310,000	71,088
	計	48,379,153	54,983,341	58,619,853	55,120,322
支出	運営費	3,609,309	3,712,339	4,287,975	2,788,490
	管理費	7,875,764	8,440,412	9,636,862	8,534,324
	本部経費	0	0	0	0
	人件費	34,675,393	38,257,435	40,255,737	38,267,983
	修繕費	402,840	721,829	970,011	968,150
	その他支出	0	0	0	0
	計	46,563,306	51,132,015	55,150,585	50,558,947
収支差額		1,815,847	3,851,326	3,469,268	4,561,375
(施設決算状況の説明)					
1 人件費及び修繕費については、当初計画の範囲内で実費精算している。					
2 平成 2 9 年度分より、収支差額については、当初計画を上回った場合、超過した金額の 2 分の 1 を区に返還することとし、上記決算書には返還後の金額を記載している。					
3 指定管理料については、運営費・管理費、人件費及び修繕費の区への返還額を差し引いた金額を決算額として記載している。					
財務・労務評価表					
評価項目		評価内容			評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告等を確認した結果、会計手続は適正に行われている。			良好
	予算管理が適正である	予算と決算を比較して収入・支出・収支差は少なく、予算管理は適正である。			
会計	経費の効果的活用が行われている	事務消耗品や光熱水費で節約による経費縮減努力が見られた。			良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、雇用契約締結日に改善の余地があるものの概ね労務環境は適正である。			良好
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の決算書に基づいて財務診断を行った結果、成長性が良好であるが、収益性、安定性、活動性・健全性が優良であり、安定的、継続的な運営に必要な財務力を有している。			優良
総合評価					
サービス面、財務面、労務面は良好であり、指定管理業務は適正であったと評価できる。					

担当所管部	
部	区民生活部
課	区民施設課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【B施設】

施設概要		
施設名	名称	西日暮里ふれあい館
	所在地	荒川区西日暮里六丁目24番4号
指定管理者	名称	学校法人道灌山学園
	所在地	荒川区西日暮里四丁目7番15号
施設開設年月日		平成20年4月1日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成20年4月1日
指定期間		令和2年4月1日～令和7年3月31日
業務内容		乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の区民が生き生きと集い、ふれあいと相互交流の輪を広げる場を提供する。遊び・スポーツ・健康づくり・教養娯楽活動等を通じて地域コミュニティの形成を図るとともに、地域住民の自主的かつ主体的な活動を促進する事業を実施する。 【主な施設】サロン、プレイルーム(親子ふれあいひろば)、多目的室、洋室、和室、創作室、相談室、だれでもトイレ 【特徴ある施設】音楽室 【総入館者数】 62,573名 (内訳) 世代別事業参加者数 (保護者)9,754名 (乳幼児)11,104名 (小学生)4,504名 (中学生)531名 (高校生)244名 (成人)3,053名 (高齢者)5,737名 (合計)34,927名 貸室利用者数 27,646名
令和元年度の事業計画		
【乳幼児】 子育てのニーズに対応しながら、親子の関わりを深め、安心して利用できる事業を運営するとともに、年齢別の幼児タイムの充実を図り、子育てに関する不安を解消し、友達作りを支援する。 【小学生】 児童が様々な館行事において中心となって活動するとともに、その意欲を引き出し、遊びを通じて心身の成長を促すような、興味・関心に沿った計画を策定し、児童と向き合う姿勢を大切にする。 【中高生】 中高生の生活スタイルや心情に沿った対応を通じて、中高生が利用しやすい環境の整備に努める。 【成人】 利用者が心地よく利用できるように環境を整え、利用者の意見を大切にし、事業の充実に繋げていく。 【高齢者】 地域の中の身近な施設として、高齢者の生活や教養の質の向上を目指し、各事業を通じて、「仲間作り」や「生きがい」の創出を支援する。 【地域交流】 地域に目を向け、地域の施設として根差すことのできるよう、地域行事に積極的に参加し、地域交流の取組を充実させる。		
令和元年度の事業実績		
【乳幼児】 幼児タイムについては、年間を通して退会があったが、2クラス編成を維持して活動を継続した。また、週末や祝日の親子ふれあい館に父親が参加することが多くなることを踏まえ、安心して遊ぶことが出来る場の提供に努めた。 【小学生】 クリスマスお楽しみパーティー、ハッピーえんにちの大型行事は小学生の実行委員を中心に進めることが出来、心身の成長につなげる結果となった。 【中高生】 中高生ボランティアの参加を通じて、利用しやすい環境を整備した。 【成人】 既存の事業の参加が多く、事業枠の拡大を求められるなど、好評な事業展開を行えた。 【高齢者】 高齢者事業には安定した利用があり、イベント参加者も多く、利用者間の交流の場の提供に満足しているとの声を頂くことが出来た。 【地域交流】 冠新道商工会全面協力のもと実施した「ハッピーハロウィン」は参加人数600人を超える大型イベントとなり、盛大な盛り上がりを見せ、十分な地域交流の成果を出せた。但し、参加者が増えすぎたことによる近隣からの苦情があったことは課題となった。		

基本評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
施設の維持管理	20			20
快適に利用できるための施設管理がなされている	5	5	100%	5
安全・安心に過ごすための施設管理がなされている	5	5	100%	5
危機管理・苦情・事故等の管理を徹底している	10	5	100%	10
区民サービス	80			79
利用者の事業に対する満足度が高い	20	5	100%	20
職員の接遇がきちんとなされている	25	5	100%	25
ポスターや館だより等の広報方法を工夫している	5	4	80%	4
積極的な事業展開を行っている	10	5	100%	10
利用者数が増加している	20	5	100%	20
合 計 (A)	100			99
その他の評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
地域と連携した事業展開を行っている	2	5	100%	2
区民雇用を積極的に行っている	2	4	80%	1.6
施設全体における評価が高い	2	5	100%	2
安全に対する積極的な取組を行っている	4	4	80%	3.2
合 計 (B)	10			8.8
合 計 (A+B)				107.8
施設の維持管理・区民サービス等の総合評価				S
評価内容				
「施設の維持管理」については、利用者が安全・安心に過ごせるよう適正に管理されている。 「区民サービス」については、職員の接遇に対する意識が高く、利用者からの評価も高い。また、利用者数も前年度から増加し、多様なニーズを的確に反映した運営が行われている。 「その他の評価項目」については、地域と連携したイベントを実施するなど、地域との充実した交流が図られている。水害時の自主避難場所運営に当たっては、テレビやネットから得た最新情報を避難者に提供することで、不安の解消に努めるとともに町会や区本部との連携を密にして、互いの状況把握を行った。新型コロナウイルス感染症対応では、休館中の対応として、地域住民向けのメッセージボードを設置して、情報発信を行った。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
・ 広報を工夫し、効果的に情報を発信するよう求めていく。 ・ より積極的な区民雇用の促進を求めていく。				

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	51,130,605	52,606,705	53,405,825	53,089,546
	利用料金収入	—	—	—	—
	その他収入	0	0	0	0
	計	51,130,605	52,606,705	53,405,825	53,089,546
支出	運営費	3,015,238	2,613,380	2,500,000	2,122,486
	管理費	8,326,659	11,368,308	10,961,615	11,712,482
	本部経費	692,271	803,433	757,915	899,002
	人件費	37,845,241	37,060,066	38,587,000	38,503,268
	修繕費	793,764	969,620	1,174,577	942,030
	その他支出	0	0	0	0
	計	49,980,902	52,011,374	53,223,192	53,280,266
収支差額		1,149,703	595,331	182,633	-190,720

(施設決算状況の説明)

- 1 人件費及び修繕費については、当初計画の範囲内で実費精算している。
- 2 指定管理料については、人件費及び修繕費の区への返還額を差し引いた金額を決算額として記載している。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告等を確認した結果、会計手続は適正に行われている。	良好
	予算管理が適正である	予算と決算を比較して収入・支出・収支差は少なく、予算管理は適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	コロナの影響による活動自粛による経費減、樹木剪定を職員自ら行うなど経費縮減努力が見られた。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目で要件を満たしており、概ね労務環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の決算書に基づいて財務診断を行った結果、安定性が優良、成長性、収益性、活動性・健全性も良好であり、安定的、継続的な運営に必要な財務力を有している。	優良

総合評価

サービス面、労務面は優良、財務面は良好であり、指定管理業務は適正であったと評価できる。

担当所管部	
部	区民生活部
課	区民施設課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【B施設】

施設概要		
施設名	名称	荒川区民会館（サンパール荒川）
	所在地	荒川区荒川一丁目１番１号
指定管理者	名称	株式会社ケイミックスパブリックビジネス
	所在地	港区虎ノ門二丁目２番５号
施設開設年月日		昭和５０年３月２８日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成３０年４月１日
指定期間		平成３０年４月１日～令和５年３月３１日
業務内容		1 文化活動及び地域コミュニティ活動に関する相談及び情報の提供に関する業務 2 施設及び附帯設備（以下「施設等」という。）の利用に関する業務 3 施設等の利用等の承認、不承認及び利用承認の取消に関する業務 4 施設等の利用料金の収受、減免及び還付に関する業務 5 施設等の維持管理に関する業務 6 前５号のほか、区長が必要と認める業務 <施設の概要> ○大ホール 収容人員９７５席 面積１，１６２㎡ ○小ホール 収容人員３００席（移動席）面積２８１㎡ ○集会室 - 第１（洋室）定員５０名 面積７８㎡ - 第２（洋室）定員５０名 面積７３㎡ - 第３（洋室）定員５０名 面積８５㎡ - 第２・３は通し使用可能 - 第４（和室）定員４０名 面積９０㎡ - 第５（洋室）定員５０名 面積９２㎡ - 第６（洋室）定員５０名 面積９９㎡ - 第５・６は通し使用可能 - 第７（洋室）定員１００名 面積１８４㎡
令和元年度の事業計画		
1 管理運営事務 施設の安全管理（日常点検、保守点検）、報告書、統計資料の作成及び区への報告、利用者アンケート集計、情報誌発行、行事案内等 2 研修 安全管理研修、技術者研修、個人情報取扱研修、手話研修、ビジネスマナー研修等		
令和元年度の事業実績		
1 上記管理運営事務の実施 2 利用料金収入 ７９，２３６，２９４円 3 稼働率 大ホール５８．１％ 小ホール５７．０％ 集会室４０．１％ 4 利用者数 大ホール１２８，７３６人 小ホール４５，７４３人 集会室６４，５９９人		

基本評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
施設の維持管理	60			54
快適に利用できるための施設管理がなされている	30	5	100%	30
業務の遂行に必要な職員が配置されている	15	4	80%	12
研修計画に基づいた職員の受講がなされている	15	4	80%	12
区民サービス	40			37
利用者に対し、満足のいくサービスを提供している	15	5	100%	15
利用者の意見を取入れ、改善につなげている	10	5	100%	10
事故・苦情の再発防止策を策定し、効果を確認している	15	4	80%	12
合 計 (A)	100			91
その他の評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
区内事業者を活用している	5	3	60%	3
周知活動に努めている	5	4	80%	4
合 計 (B)	10			7
合 計 (A+B)				98
施設の維持管理・区民サービス等の総合評価				A
評価内容				
・「施設の維持管理」については、作成した「維持管理計画表」による一括した設備管理、利用状況に応じた柔軟な職員配置の変更などが見られ、適正に管理されていた。 また、芸術文化施設に相応しい季節ごとの館内装飾を始め、正面花壇や5階庭園の植栽の手入れ、施設利用者への礼状発送、利用者への丁寧な接遇、施設の美観維持のため重点清掃実施など施設の魅力向上を目指し、継続的な施設利用につながるよう努めている。 台風19号への対応については、利用者への案内等を適切に行い、安全確保を図った。 新型コロナウイルス感染症への対応については、利用後の拭き上げ清掃、飛沫遮断カーテンの設置、3密回避のため窓口へ来館する場合は事前予約制とする等の対策を行った。 ・「区民サービス」については、主催者要望を取り入れた積極的な公演内容のPR、事故・苦情等の原因分析による再発防止への取組が見られ、利用者満足度向上に努めていた。 自主事業については、人材育成3事業、区民還元5事業を実施し、東京2020関連講演会や会館の賑わい創出事業など、区民が芸術文化に触れる機会を増やした。 ・「その他の評価項目」については、消耗品購入や修繕工事に際しての区内事業者活用を確認した。消耗品購入は、101件中31件(30.7%)、修繕工事は、36件中専門性の高い工事等19件を除く17件のうち7件(41.2%)を区内業者に発注していた。 周知活動については、月刊情報紙を発行し、催物やARAKAWA1-1-1ギャラリーの展示内容、レストランモアを含めた荒川区民会館の案内を掲載し、会館のPRに努めている。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
利用者アンケートを積極的に収集した結果、多くの意見を集め、改善に繋げた。引き続きアンケートを積極的に収集するとともに分析を行い、より良い施設運営を目指す。 自主事業については、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置をしながら、指定管理者のノウハウを生かし、区民が芸術文化に触れる機会や会館の賑わい創出を行う必要がある。				

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	154,312,600	152,347,056	164,036,000	150,562,899
	利用料金収入	75,235,088	76,261,257	67,391,000	79,236,294
	その他収入	5,115,925	1,994,634	4,650,000	1,715,627
	計	234,663,613	230,602,947	236,077,000	231,514,820
支出	運営費	0	1,098,795	3,319,000	3,115,595
	管理費	148,926,665	168,888,074	178,145,000	166,703,264
	本部経費	20,126,716	13,687,916	14,568,000	14,483,823
	人件費	64,951,604	35,987,397	40,647,000	40,926,140
	修繕費	8,292,325	8,204,724	9,763,000	9,633,030
	その他支出	3,841,236	0	0	0
	計	226,011,830	214,178,990	231,874,000	220,378,029
収支差額		8,651,783	16,423,957	4,203,000	11,136,791

(施設決算状況の説明)

- 1 修繕費については、当初計画の範囲内で実費精算とし、精算後の金額を記載している。
- 2 人件費については、当初計画で示している金額を超えた支出は指定管理者の負担とする。
- 3 平成 3 0 年度分より、収支差額については、当初計画を上回った場合、超過した金額の 2 分の 1 を区に返還することとし、上記決算書には返還後の金額を記載している。
- 4 指定管理料については、運営費・管理費、修繕費の区への返還額を差し引いた金額を決算額として記載している。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告書等が適正に作成されており、経費計算等の処理も良好である。	良好
	予算管理が適正である	通勤交通費に予算と実績の間に乖離が見られるが、原因分析が十分行われており、合理的な理由が示された。	
会計	経費の効果的活用が行われている	印刷製本費等が予算を上回った一方、広告費や委託料等の費目で、経費削減に向けた取組の成果が見られた。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳の一覧、3 6 協定、健康診断の受診記録等を確認した結果、全ての項目が要件を満たしており、労務環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の決算書に基づいて財務評価をした結果、収益性と安全性がやや劣るものの、成長性と活動性・健全性は良好であり、事業を安全に遂行するに足る財務体質を備えている。	良好

総合評価

サービス面、財務・労務面ともに良好であり、荒川区民会館における指定管理業務は適正であったと評価できる。

担当所管部	
部	地域文化スポーツ部
課	文化交流推進課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【B施設】

施設概要		
施設名	名称	日暮里サニーホール
	所在地	荒川区東日暮里五丁目50番5号 ホテルラングウッド4・5階
指定管理者	名称	株式会社コングレ
	所在地	中央区日本橋三丁目10番5号 オンワードパークビルディング
施設開設年月日		平成元年2月9日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成30年4月1日
指定期間		平成30年4月1日～令和5年3月31日
業務内容		1 文化活動及び地域コミュニティ活動に関する相談及び情報の提供に関する業務 2 施設及び附帯設備（以下「施設等」という。）の利用に関する業務 3 施設等の利用等の承認、不承認及び利用承認の取消に関する業務 4 施設等の利用料金の収受、減免及び還付に関する業務 5 施設等の維持管理に関する業務 6 前5号のほか、区長が必要と認める業務 <施設の概要> ○多目的ホール 収容人員500名(フラット時)/面積404㎡ ○コンサートサロン 収容人員100名(フラット時)/面積113㎡ ○会議室 第1会議室 収容人員24名(面積57㎡) 第2会議室 収容人員12名(面積25㎡) 第3会議室 収容人員12名(面積28㎡) 第2, 3会議室は通し使用可能
令和元年度の事業計画		
1 管理運営業務 施設の安全管理（日常点検、保守点検）、報告書・統計資料の作成及び区への報告、利用者アンケート調査、情報誌の発行 2 研修 普通救命講習、個人情報取扱研修、衛生講習、技術者研修、その他施設運営に必要な研修		
令和元年度の事業実績		
1 上記管理運営事務の実施 2 利用料金収入 57,583,222円 3 稼働率 ホール62.7% コンサートサロン87.5% 会議室69.7% 4 利用者数 ホール69,144人 コンサートサロン33,060人 会議室41,781人		

基本評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
施設の維持管理	60			42
快適に利用できるための施設管理がなされている	30	4	80%	24
業務の遂行に必要な職員が配置されている	15	3	60%	9
研修計画に基づいた職員の受講がなされている	15	3	60%	9
区民サービス	40			30
利用者に対し、満足のいくサービスを提供している	15	4	80%	12
利用者の意見を取入れ、改善につなげている	10	3	60%	6
事故・苦情の再発防止策を策定し、効果を確認している	15	4	80%	12
合 計 (A)	100			72
その他の評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
区内事業者を活用している	5	3	60%	3
周知活動に努めている	5	3	60%	3
合 計 (B)	10			6
合 計 (A+B)				78
施設の維持管理・区民サービス等の総合評価				B
評価内容				
・「施設の維持管理」については、作成した「維持管理計画表」による一括した設備管理、ムーブ町屋と同一の指定管理者であることを活かし、利用状況に応じて職員を流動的に配置する等が見られ、適正な管理がなされていた。 台風19号への対応については、利用者への案内等を適切に行い、安全確保を図った。また、区の土砂災害緊急避難場所に指定されていることから、避難場所開設において積極的に区へ協力し、避難者の安全確保に努めた。 新型コロナウイルス感染症への対応については、利用後の拭き上げ清掃、飛沫遮断カーテンの設置、3密回避のため窓口へ来館する場合は事前予約制とする等の対策を行った。 ・職員の新規採用等により、人件費が昨年度決算額と比較して増加した。 ・「区民サービス」については、芸術文化コンシェルジュを配置する等利用者が気軽に相談しやすい環境を整え、事故・苦情等に対しては原因分析による再発防止への取組が見られた。 自主事業については、能楽師によるコメンタリーを実施し、区民が身近な場所で良質な芸術文化に触れる機会の提供を図った。 ・「その他の評価項目」については、消耗品購入や修繕工事に際しての区内事業者活用を確認した。消耗品購入は、55件中22件(40%)、修繕工事は、18件中専門性の高い工事等10件を除く8件のうち2件(25%)を区内業者に発注していた。 周知活動については、ムーブ町屋と同一の指定管理者であることを活かし、両施設の情報をまとめた情報誌「にぼまち」を毎月発行する等、それぞれの利用者に対しもう一方の施設のPRに努めた。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
自主事業については、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、指定管理者のノウハウを生かし、区民が芸術文化に触れる機会や施設の賑わい創出を行う必要がある。 利用者アンケートについては、引き続き積極的に収集するとともに、集計結果を分析し、今後より一層のサービス向上に繋げていく必要がある。				

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	36,607,000	40,016,000	45,071,000	40,197,000
	利用料金収入	57,465,600	56,759,600	54,500,000	57,583,222
	その他収入	150,712	151,612	150,000	217,225
	計	94,223,312	96,927,212	99,721,000	97,997,447
支出	運営費	0	0	505,000	308,607
	管理費	35,360,955	50,579,340	50,245,000	50,582,241
	本部経費	-7,063,546	5,815,000	4,172,000	6,453,000
	人件費	51,869,593	45,347,871	45,126,000	56,451,583
	修繕費	2,604,452	2,200,067	2,247,000	2,275,902
	その他支出	0	0	0	0
	計	89,835,000	98,127,278	98,123,000	109,618,333
収支差額		4,388,312	-1,200,066	1,598,000	-11,620,886

(施設決算状況の説明)

- 1 人件費、修繕費については、当初計画で示している金額を超えた支出は指定管理者の負担とする。
- 2 柔軟な対応ができるよう舞台技術スタッフ等を増員したことから、人件費等が予算超過し、収支差額がマイナスとなった。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告書等が適正に作成されており、経費計算等の処理も協定どおり行われている。	課題有
	予算管理が適正である	人件費及び管理運営費の予算超過が原因となり、収支差額が大幅にマイナスとなった。	
会計	経費の効果的活用が行われている	一部経費削減努力も見受けられたが、多くの費目で予算を超過した。	課題有
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳の一覧、3 6 協定、健康診断の受診記録等を確認した結果、雇用関係の規定等について改善すべき点が見受けられた。	課題有
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の決算書に基づいて財務評価をした結果、成長性、安全性並びに活動性・健全性がやや劣るものの、収益性は良好であり、事業を安全に遂行するに足る財務体質を備えている。	良好

総合評価

財務・労務面において課題があるものの、サービス面に関しては、自主事業において指定管理者のノウハウを活かした事業を実施するとともに、台風 1 9 号や新型コロナウイルス感染症対策については利用者の安全を第一に考え積極的に区へ協力する等、評価できるものであった。今後、財務・労務面については改善が必要と思われる面も見受けられるが、サービス面が良好であることから、指定管理業務を継続させられると評価できる。

担当所管部	
部	地域文化スポーツ部
課	文化交流推進課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【B施設】

施設概要		
施設名	名称	ムーブ町屋
	所在地	荒川区荒川七丁目50番9号 センターまちや3・4階
指定管理者	名称	株式会社コングレ
	所在地	中央区日本橋三丁目10番5号 オンワードパークビルディング
施設開設年月日		平成8年6月1日
現在の指定管理者による運営開始年月日		平成30年4月1日
指定期間		平成30年4月1日～令和5年3月31日
業務内容		1 文化活動及び地域コミュニティ活動に関する相談及び情報の提供に関する業務 2 施設及び附帯設備（以下「施設等」という。）の利用に関する業務 3 施設等の利用等の承認、不承認及び利用承認の取消に関する業務 4 施設等の利用料金の収受、減免及び還付に関する業務 5 施設等の維持管理に関する業務 6 前5号のほか、区長が必要と認める業務 <施設の概要> - 多目的ホール 収容人員296席/面積343㎡ - 会議室A(ハビションルーム) 収容人員70席/面積59㎡ - 会議室B(ミニギャラリー) 収容人員28名/面積70㎡ - スタジオ 収容人員10名程度/面積51㎡ - 企画展示コーナー オープンスペース/面積145㎡ （ギャラリー）（4階全施設を使用する場合185㎡）
令和元年度の事業計画		
1 管理運営業務 施設の安全管理（日常点検、保守点検）、報告書・統計資料の作成及び区への報告、利用者アンケート調査、情報誌の発行 2 研修 普通救命講習、個人情報取扱研修、その他施設運営に必要な研修		
令和元年度の事業実績		
1 上記管理運営事務の実施 2 利用料金収入 31,032,122円 3 稼働率 ムーブホール61.4% 会議室A 52.6% 会議室B 62.6% スタジオ70.8% 企画展示コーナー(ギャラリー) 26.0% 4 利用者数 ムーブホール40,668人 会議室A・B 13,684人 スタジオ・ギャラリー 25,115人		

基本評価項目					
評価項目		配点	評価		得点 (配点×乗率)
			レベル	乗率	
施設の維持管理		60			45
	快適に利用できるための施設管理がなされている	30	4	80%	24
	業務の遂行に必要な職員が配置されている	15	4	80%	12
	研修計画に基づいた職員の受講がなされている	15	3	60%	9
区民サービス		40			32
	利用者に対し、満足のいくサービスを提供している	15	4	80%	12
	利用者の意見を取入れ、改善につなげている	10	4	80%	8
	事故・苦情の再発防止策を策定し、効果を確認している	15	4	80%	12
合 計 (A)		100			77
その他の評価項目					
評価項目		配点	評価		得点 (配点×乗率)
			レベル	乗率	
	区内事業者を活用している	5	3	60%	3
	周知活動に努めている	5	3	60%	3
合 計 (B)		10			6
合 計 (A+B)					83
施設の維持管理・区民サービス等の総合評価					A
評価内容					
・「施設の維持管理」については、作成した「維持管理計画表」による一括した設備管理、日暮里サニーホールと同一の指定管理者であることを活かし、利用状況に応じて職員を流動的に配置する等が見られ、適正な管理がなされていた。 台風19号への対応については、利用者への案内等を適切に行い、安全確保を図った。 新型コロナウイルス感染症への対応については、利用後の拭き上げ清掃、飛沫遮断カーテンの設置、3密回避のため窓口へ来館する場合は事前予約制とする等の対策を行った。 ・「区民サービス」については、芸術文化コンシェルジュを配置する等利用者が気軽に相談しやすい環境を整え、事故・苦情等に対しては原因分析による再発防止への取組が見られた。 自主事業については、多様な施設運営の実績がある指定管理者のノウハウを活かし、科学の面白さを体験できるイベントとして「タングラム展」を実施する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により実施を見送った。 ・「その他の評価項目」については、消耗品購入や修繕工事に際しての区内事業者活用を確認した。消耗品購入は、29件中10件(34.5%)、修繕工事は、24件中専門性の高い工事等9件を除く15件のうち10件(66.7%)を区内業者に発注していた。 周知活動については、日暮里サニーホールと同一の指定管理者であることを活かし、両施設の情報をまとめた情報誌「にぼまち」を毎月発行する等、それぞれの利用者に対してもう一方の施設のPRに努めた。					
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等					
自主事業については、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、指定管理者のノウハウを生かし、区民が芸術文化に触れる機会や施設の賑わい創出を行う必要がある。 利用者アンケートについては、引き続き積極的に収集するとともに、集計結果を分析し、今後より一層のサービス向上に繋げていく必要がある。					

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	35,550,000	34,030,000	34,365,000	33,074,371
	利用料金収入	32,143,650	27,723,100	30,500,000	31,032,122
	その他収入	270,137	287,017	150,000	235,654
	計	67,963,787	62,040,117	65,015,000	64,342,147
支出	運営費	0	0	505,000	177,246
	管理費	23,963,488	26,390,049	25,409,000	23,778,986
	本部経費	1,460,310	3,566,000	2,751,000	4,112,000
	人件費	38,227,580	35,878,295	31,878,000	35,265,299
	修繕費	2,722,572	2,691,056	2,661,000	2,658,143
	その他支出	0	0	0	0
	計	64,913,640	64,959,400	60,453,000	61,879,674
収支差額		3,050,147	-2,919,283	4,562,000	2,462,473
(施設決算状況の説明)					
1 修繕費については、当初計画の範囲内で実費精算とし、精算後の金額を記載している。					
2 人件費については、当初計画で示している金額を超えた支出は指定管理者の負担とする。					
3 平成 3 0 年度分より、収支差額については、当初計画を上回った場合、超過した金額の 2 分の 1 を区に返還することとし、上記決算書には返還後の金額を記載している。					
4 指定管理料については、運営費・管理費・人件費及び修繕費の区への返還額を差し引いた金額を決算額として記載している。					
財務・労務評価表					
評価項目		評価内容			評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告書等が適正に作成されており、経費計算等の処理も協定どおり行われている。			良好
	予算管理が適正である	予算・決算、前年度決算等を比較し、収支差額に問題はなく、予算管理は適正に行われていた。			
会計	経費の効果的活用が行われている	消耗品費、委託料等の費目で、経費削減に向けた取組の成果が見られた。			良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳の一覧、3 6 協定、健康診断の受診記録等を確認した結果、雇用関係の規定等について改善すべき点が見受けられた。			課題有
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の決算書に基づいて財務評価をした結果、成長性、安全性並びに活動性・健全性がやや劣るものの、収益性は良好であり、事業を安全に遂行するに足る財務体質を備えている。			良好
総合評価					
労務面において課題があるものの、サービス面に関して、利用者アンケートにおいて受付対応は好評であり、台風 1 9 号や新型コロナウイルス感染症対策については利用者の安全を第一に考え積極的に区へ協力する等、評価できるものであった。今後、労務面については改善が必要と思われる面も見受けられるが、サービス面が良好であることから、指定管理業務を継続させられると評価できる。					

担当所管部	
部	地域文化スポーツ部
課	文化交流推進課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【B施設】

施設概要		
施設名	名称	町屋文化センター
	所在地	荒川区荒川七丁目20番1号
指定管理者	名称	公益財団法人荒川区芸術文化振興財団
	所在地	荒川区荒川七丁目20番1号
施設開設年月日		昭和63年11月1日
現在の指定管理者による運営開始年月日		平成18年4月1日
指定期間		平成30年4月1日～令和5年3月31日
業務内容		生涯学習の推進と地域文化の振興を図ることを目的として、文化・カルチャー講座の開催、区民の学習、文化活動に役立つ情報提供や相談業務、施設の案内等を行う。 【施設概要】 会議室4室（33人～45人）、多目的ホール（154人）、音楽練習室、ふれあい広場
令和元年度の事業計画		
・区民の学習・文化活動や情報収集の場を提供し、生涯学習の推進と地域文化の振興を図る。 ・カルチャー講座は、多様化する利用者等のニーズを踏まえ、講座の見直しや充実を図っていく。 ・自主事業として、利用者や地域住民が自由に鑑賞できる「なないろひろば」や「一日文化体験フェア」等を開催し、普段あまり来館しない利用者層にも足を運んでもらうきっかけ作りとする。 ・年2回のアンケートのほか、意見箱・利用者懇談会等により、時期によって異なる要望を把握し、利用者のニーズに合ったサービスを提供する。 ・貸出施設及び館内の案内・施設問合せ対応・各種講座・清掃業務・機械設備等点検業務を適切に実施する。		
令和元年度の事業実績		
・「なないろひろば事業」は毎月1回実施（3月は新型コロナウイルス感染症の影響により中止）し、延べ1,132人の参加があった。例年と同様に1回当たり100人程度の参加があり、利用者ニーズに応えた事業運営ができた。また、「一日文化体験フェア」は新型コロナウイルスの影響により、感染防止対策を取ったうえで特別講演会のみを実施し、104人の参加があった。 ・カルチャー講座は654講座を実施し、延べ3,879人の受講があった。 ・施設管理については、受付付近の照明のLED化や駐輪場誘導ラインの再塗装等、利用しやすい環境整備のための修繕を優先的に行った。 ・受付の接遇について委託業者と週1回以上打ち合わせを行っているほか、受付業務の接遇目標を2か月毎に設定し、窓口付近にポスターを貼り出す等、接遇の向上に向けた取組を行った。その結果、利用者アンケートでは、職員の対応について「あまりよくない」「よくない」との回答が0件（平成30年度2件）となった。		

基本評価項目					
評価項目		配点	評価		得点 (配点×乗率)
			レベル	乗率	
施設の維持管理		30			26
	快適に利用できるための施設管理がなされている	10	4	80%	8
	業務遂行に必要な職員が配置されている	10	5	100%	10
	業務に関連した研修について、職員の受講がなされている	10	4	80%	8
区民サービス		70			56
	施設利用等の満足度が高い	30	4	80%	24
	防災計画に明示されている訓練等を行っている	20	4	80%	16
	事故・苦情の再発防止に向けた取組等を行っている	20	4	80%	16
合 計 (A)		100			82
その他の評価項目					
評価項目		配点	評価		得点 (配点×乗率)
			レベル	乗率	
	地域との連携・協働	5	4	80%	4
	区内事業者の活用	5	4	80%	4
合 計 (B)		10			8
合 計 (A+B)					90
施設の維持管理・区民サービス等の総合評価					A
評価内容					
・「一日文化体験フェア」は新型コロナウイルス感染症により中止となったが、近隣商店の協賛や出店等の協力を得た。また、「バラの市」に合わせた写真展の開催や、町会の子どもまつりへの施設スペースの貸出しなど地域イベントに積極的に協力している。 ・令和元年度は13の再委託業務のうち7業務について区内の業者に再委託した。消耗品購入や修繕等でも概ね区内業者を活用するようにしている。 ・令和元年10月の台風19号の影響による休館時には土のうによる雨水侵入対策を速やかに行ったほか、台風通過前後に危険個所の臨時点検を行う等、利用者の安全確保に努めた。また、新型コロナウイルス感染症による利用制限時においては、利用者への連絡を迅速に行ったほか、案内表示を工夫するなど、感染拡大防止に努めた。 ・意見・苦情等は迅速に対応するとともに、受付委託業者と週1回以上打ち合わせを行い、情報の共有と再発防止の対応を図っているほか、受付業務の接遇目標を2か月毎に設定し、窓口付近にポスターを貼り出す等、苦情の減少に向けた取組を行った。					
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等					
施設の老朽化により、傷・汚れが目立つ部分があるため、指定管理料の修繕費を活用し、今後も利用環境の向上に向けた効果的な修繕を優先的に行う必要がある。					

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	24,192,000	24,278,597	25,116,000	24,252,732
	利用料金収入	13,598,650	13,410,350	13,762,000	13,024,550
	その他収入	349,132	479,829	233,000	370,873
	計	38,139,782	38,168,776	39,111,000	37,648,155
支出	運営費	1,075,911	1,101,009	1,337,666	923,061
	管理費	29,765,260	31,524,665	31,727,732	30,296,448
	本部経費	0	0	0	0
	人件費	3,694,260	3,434,989	3,691,000	3,500,406
	修繕費	2,615,263	2,261,088	2,354,602	2,313,660
	その他支出	0	0	0	0
	計	37,150,694	38,321,751	39,111,000	37,033,575
収支差額		989,088	-152,975	0	614,580

(施設決算状況の説明)

- 1 人件費及び修繕費については、当初計画の範囲内で実費精算とし、精算後の金額を記載している。
- 2 平成 3 0 年度分より、収支差額については、当初計画を上回った場合、超過した金額の 2 分の 1 を区に返還することとし、上記決算書には、返還後の金額を記載している。
- 3 指定管理料については、運営費・管理費、人件費及び修繕費の区への返還額を差し引いた金額を決算額として記載している。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告書等が適正に作成されており、経費計算等の処理も良好である。	良好
	予算管理が適正である	印刷製本費等一部予算と実績の間に乖離が見られるが、原因分析が十分行われており、合理的な理由が示された。	
会計	経費の効果的活用が行われている	負担金等一部予算を上回った項目が見られた一方、郵送料削減等の経費削減に向けた取組の成果が見られた。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳の一覧、3 6 協定、健康診断の受診記録等を確認した結果、全ての項目が要件を満たしており、労務環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の決算書に基づいて財務評価をした結果、成長性に注意を要するものの、収益性、安定性、活動性・健全性はいずれも良好であり、安定的な財務力を有している。	良好

総合評価

サービス面、財務面は良好であり、労務面は優良であることから、指定管理業務は適正であったと評価できる。また、利用しやすい環境整備のための修繕や接遇向上に向けた取組の工夫がなされた点も評価できる。

担当所管部	
部	地域文化スポーツ部
課	生涯学習課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【B施設】

施設概要		
施設名	名称	生涯学習センター
	所在地	荒川区荒川三丁目４９番１号
指定管理者	名称	株式会社読売・日本テレビ文化センター
	所在地	江東区清澄一丁目２番１号
施設開設年月日		平成９年７月１日
現在の指定管理者による運営開始年月日		平成１８年４月１日
指定期間		平成３０年４月１日～令和５年３月３１日
業務内容		区民の生涯にわたる学習の場の提供や、多様化する学習要望への対応として、区民のニーズを考慮しながら講座を開催するとともに、生涯学習の情報提供、学習相談など学習活動の推進を図る。 【施設概要】 会議室５室（３０人～８０人）、音楽室（４０人）、多目的室（６０人）、コンピューター室、学習室、情報提供コーナー、体育館、多目的広場
令和元年度の事業計画		
・区民カレッジについては、平成３０年度好評だった講師に加え、新しい講師を５名招き、「歌舞伎の中にみる日本文化」、「日本画観覧」、「詩への誘い」などを１２講座を企画する。また、俳句のまちあらかわに相応しい俳句講座として「芭蕉と蕉門十哲俳聖と弟子たち」も実施する。区民カレッジ特別講演会は東京オリンピック・パラリンピックに向けて、前回のパラリンピック閉会式（リデオジャネイロ）でパフォーマンスをした「義足のダンサー・大前光市さん」のダンス＆トークや弦楽による演奏会を実施する。 ・ＩＴ講習会は、令和元年度は前年度の講座を土台として、昼、夜、土日とある各講座の実施時間を受講する方の利便性を考慮して設定し、新たな講座として育児中、もしくは、再就労を計画中的お母さんを対象に託児付講座を実施する。 ・施設管理については、利用者が安全で快適に過ごせる施設を目指して、利用者の要望が多い部分について優先的に修繕を行う。受付業務については、積極的に挨拶・声掛けを行うなど、親しみもてる雰囲気づくりに努める。		
令和元年度の事業実績		
・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、区民カレッジを９回（特別講演会１回含む）中止としたことから、年間受講者の総数は３，２２６人と前年度より８２０人減少した。 ・ＩＴ講習会は、一人ひとりの受講者ニーズに対応するため、引き続き段階的な講座構成により実施した。また、区内施設でチラシを配布し、新規の参加者獲得につなげた。 ・災害時の避難所である体育館に区が空調設備を３台設置したことから、当該空調設備設置に伴う調整や周知、検証等を実施した。 ・施設管理としては、防火扉の修繕、照明器具の一部ＬＥＤ化などを実施した。 ・受付業務については、利用者に積極的に挨拶を行い、接遇の向上と利用者に親しまれる雰囲気づくりに努めた他、あいさつ月間を設定し、玄関に職員が立ち、お迎えした。また、施設アンケートは多くの利用者に呼びかけ、７９４枚を回収し、利用者の声の把握に努めた。		

基本評価項目

評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
施設の維持管理	30			26
快適に利用できるための施設管理がなされている	10	4	80%	8
業務遂行に必要な職員が配置されている	10	5	100%	10
業務に関連した研修について、職員の受講がなされている	10	4	80%	8
区民サービス	70			60
施設利用等の満足度が高い	30	4	80%	24
防災計画に明示されている訓練等を行っている	20	5	100%	20
事故・苦情の再発防止に向けた取組等を行っている	20	4	80%	16
合 計 (A)	100			86

その他の評価項目

評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
地域との連携・協働	5	4	80%	4
区内事業者の活用	5	5	100%	5
合計 (B)	10			9
合計 (A+B)				95
施設の維持管理・区民サービス等の総合評価				A

評価内容

・職員の接遇に関して、17人の職員が受付対応研修を受講し、各職員は研修を通じて、対応と対応の違い、印象の決まり方など、接遇スキルの向上に取り組んでいる。

・令和元年10月の台風19号により、生涯学習センターの体育館を自主避難場所として開設した。指定管理者職員が施設を開錠し、区職員とともに避難所の運営にあたった。避難された区民の方には、毛布、水、タオルを配布した。

・平成30年度に引き続き令和元年度もシルバー大学事務局、「ふらっと・フラット」を含めた施設全体での防災訓練を実施した。避難誘導や消火器操作のほか、荒川消防署員の指導のもとAEDの使用方法を学び、安全管理体制の強化を図った。また上級救命講習を実施し、実施時の職員全員が上級救命技能の認定を受けた。

・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、施設内18か所へ手指消毒ボトルを設置や一定期間、体育館、多目的室、音楽室の貸出禁止などの対策を行い、利用者の安全確保に努めた。

より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等

・令和元年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、区民カレッジの年間延受講者数は前年度4,046人から3,226人へと減少した。また、IT講習会の年間延受講者数についても前年度2,746人から2,059人へと減少した。令和2年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用人数の制限、消毒の徹底など、感染症対策を十分に行い、利用者の安全を第一とした施設運営に努める。

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	61,739,300	63,155,874	67,471,690	63,342,723
	利用料金収入	2,088,429	1,995,948	2,115,500	1,987,769
	その他収入	223,640	250,723	224,000	323,188
	計	64,051,369	65,402,545	69,811,190	65,653,680
支出	運営費	6,977,359	7,659,789	9,083,300	6,720,330
	管理費	34,685,030	33,862,141	33,213,190	33,671,068
	本部経費	7,244,000	2,880,000	3,000,500	2,767,000
	人件費	19,901,955	18,946,769	22,100,000	19,350,904
	修繕費	2,178,186	2,715,163	2,914,700	2,596,812
	その他支出	0	0	0	0
	計	63,742,530	63,183,862	67,311,190	62,339,114
収支差額		308,839	2,218,683	2,500,000	3,314,566

(施設決算状況の説明)

- 1 人件費及び修繕費については、当初計画の範囲内で実費精算とし、精算後の金額を記載している。
- 2 平成 3 0 年度分より、収支差額については、当初計画を上回った場合、超過した金額の 2 分の 1 を区に返還することとし、上記決算書には返還後の金額を記載している。
- 3 指定管理料については、運営費・管理費、人件費及び修繕費の区への返還額を差し引いた金額を決算額として記載している。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	一部数値の誤りが見受けられたが、証憑等の管理状況は良好であり、確認事項について合理的な理由が示された。	良好
	予算管理が適正である	消耗品費等一部予算と実績の間に乖離が見られるが、原因分析が十分行われており、合理的な理由が示された。	
会計	経費の効果的活用が行われている	収入は昨年度に比べ増加し、またいくつかの費目において、経費削減努力が見られた。	良好
労務	労働環境が適正である	就業規則の記載方法に一部改善の必要が見受けられたが、改善された又は改善の計画がある。	良好
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の決算書に基づいて財務評価をした結果、収益性、安定性に注意を要するものの、成長性、活動性・健全性等が良好であり、安定的な財務力を有している。	良好

総合評価

サービス面、財務面、労務面は良好であり、経費の効果的活用も行われているため、指定管理業務は適正であったと評価できる。また、区民カレッジでの特別講演会において、前回のパラリンピック閉会式でパフォーマンスをした義足のダンサーによる講演を開催し、パラリンピックの機運を醸成するなど、時機に合わせた適正な運営が行われている。

担当所管部	
部	地域文化スポーツ部
課	生涯学習課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【B施設】

施設概要		
施設名	名称	清里高原ロッジ・清里高原少年自然の家
	所在地	山梨県北杜市高根町清里3545番地5
指定管理者	名称	株式会社旺栄
	所在地	東京都北区王子本町1丁目4番13号 加藤ビル1階
施設開設年月日		昭和58年4月15日
現在の指定管理者による運営開始年月日		平成30年4月1日
指定期間		平成30年4月1日～令和5年3月31日
業務内容		荒川区民、在勤在学者及びその家族、区立小中学校の移動教室の利用者が、自然観察等を行えるように賄業務や宿泊業務等のサービス提供と、利用者が快適に過ごせるように清掃業務や機械設備の保守点検等の施設維持を行う。 【施設概要】 ・定員：ロッジ35人、少年自然の家200人 ・ロッジ：宿泊室12畳5室、9畳（ベッド）、研修室24.5畳1室、食堂、浴室 ・少年自然の家：宿泊室24.5畳10室、研修室24.5畳1室、リーダー室10畳2室・8畳2室、食堂、浴室、体育館 ・開設期間（令和元年度）：令和元年4月29日（月・祝）～令和2年1月13日（月・祝）
令和元年度の事業計画		
・施設設備等の定期点検や修繕、日常清掃などの保守点検業務を適切に実施し、施設的美観や安全性の維持に努める。 ・朝・夕食時のサラダバーの設置、歯磨きセットやバスタオル等のアメニティの提供及び連泊者、リピーター割引等の継続により、利用者サービスの向上を図る。 ・農業体験や天体観測など地元の観光資源を活かし新たな自主事業の企画、区報及びホームページへの施設情報の掲載により、施設の魅力をPRすることで、施設利用率の向上を図る。		
令和元年度の事業実績		
・施設管理については、日常の保守点検業務を適切に実施し、客室の畳修理や脱衣所照明器具などの修繕を行った。 ・賄いについては、地産野菜のサラダバーや朝食時の牛乳、ヨーグルトの提供など、地域資源を活かしたおもてなしを引き続き実施し、好評であった。 ・自主事業については、平成28年度から9月に実施しているランニング合宿に、平成30年度と同様ウォーキングの部を取り入れ、「ランニング・ウォーキング合宿」として実施し、昨年度と同程度の参加者があった。また、令和元年度から新たに実施した農業体験や天体観測は、天候などの影響により中止となったものもあったが、参加者からは好評であった。 ・利用者数については、定期的に区報及びホームページへ施設情報を掲載し施設の魅力を発信することで、一般利用者数が311名増加した。（一般利用者数2,857名）		

基本評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
施設の維持管理	30			22
快適に利用できるための施設管理がなされている	10	4	80%	8
業務遂行に必要な職員が配置されている	10	3	60%	6
研修計画に基づいた職員の受講がなされている	10	4	80%	8
区民サービス	70			52
施設利用等の満足度が高い	30	4	80%	24
防災計画に明示されている訓練等を行っている	20	4	80%	16
事故・苦情の再発防止に向けた取組等を行っている	20	3	60%	12
合 計 (A)	100			74
その他の評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
地域との連携・協働	5	3	60%	3
自主事業への取組	5	3	60%	3
合 計 (B)	10			6
合 計 (A+B)				80
施設の維持管理・区民サービス等の総合評価				A
評価内容				
・利用者アンケートでは、職員対応、施設の衛生管理面に關し「良い」と回答した割合が平成30年度同様9割を超えていることから、日常の受付業務や施設維持管理業務が適切になされており、利用者の満足度が高いことがうかがえる。 ・令和元年の台風19号の対応では、直前に施設閉鎖となったため、利用予定者への連絡に混乱が生じた。被害としては、倒木が7本で、建物は特段なかった。新型コロナウイルス感染症の流行時、施設は閉館しており直接の影響はなかったが、施設に出入りする業者等を対象に検温やアルコールでの手指消毒の呼びかけを行い、感染拡大防止に努めた。 ・職員のスキルアップを目的とし、施設開設前に新任職員を対象とした実務研修を実施した。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
現事業者が今年度末で指定管理から撤退する予定となっており、来年度の指定管理者へ確実に引継ぎを行い、従来の施設運営・サービスの提供を継続できるようにする。				

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	56,093,000	56,784,000	57,090,582	57,090,582
	利用料金収入	19,082,163	21,611,404	19,092,150	22,512,475
	その他収入	961,379	535,700	857,850	480,660
	計	76,136,542	78,931,104	77,040,582	80,083,717
支出	運営費	489,712	1,078,817	2,000,000	857,963
	管理費	54,607,644	62,544,411	47,854,422	60,812,356
	本部経費	844,940	313,658	820,165	332,329
	人件費	19,115,970	21,735,162	20,256,160	22,756,634
	修繕費	2,801,380	3,893,447	3,930,000	3,930,258
	その他支出	0	0	0	0
	計	77,014,706	89,251,837	74,040,582	88,357,211
収支差額		-878,164	-10,320,733	3,000,000	-8,273,494

(施設決算状況の説明)

- 1 人件費及び修繕費については、当初計画で示している金額を超えた支出は指定管理者の負担とする。
- 2 利用料金収入は昨年度と比較し増額したが、冬季開設に伴う光熱水費、燃料費などの管理運営費が想定を大幅に上回ったため赤字となった。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、決算書マトリックス表等が適正に作成されており、確認事項について合理的な理由が示された。	課題有
	予算管理が適正である	予算管理について、昨年度と比較し改善が見られるが、一部科目で予算と実績に乖離が生じ、収支差額が大幅な赤字となった。	
会計	経費の効果的活用が行われている	消耗品費など管理費の一部の科目で、昨年度と比較し、経費縮減努力がみられた。	良好
労務	労働環境が適正である	労働時間の管理や就業規則について、一部改善の必要が見受けられたが、必要な部分について、今後改善の計画がある。	良好
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の決算書に基づいて財務評価をした結果、収益性に注意を要するものの、成長性は良好、安定性、活動性・健全性は大変良好であり、安定的な財務力を有している。	良好

総合評価

財務面では、委託料・賄い材料費などについて、食材仕入先の共通化、清掃業務委託の効率化等により、赤字額の改善がなされたものの、令和元年度も平成 3 0 年度と同様大幅な赤字となった。一方、サービス面・労務面については良好であり、利用者からの評価も継続して高いことから、指定管理は概ね適正に行われていたと評価できる。

担当所管部	
部	地域文化スポーツ部
課	生涯学習課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要		
施設名	名称	特別養護老人ホームグリーンハイム荒川
	所在地	荒川区南千住六丁目3番5号
指定管理者	名称	社会福祉法人聖風会
	所在地	足立区花畑四丁目3番10号
施設開設年月日		平成元年4月1日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成元年4月1日
指定期間		平成29年4月1日～令和4年3月31日（5年間）
業務内容		要介護と認定をされ、常時介護が必要で在宅介護を受けることが困難な高齢者に対し、入浴、排泄、食事等の日常生活上の介護や機能訓練、健康管理等のサービスを提供する。 （定員）特養 100名 短期入所生活介護（ショートステイ）10名

令和元年度の事業計画

- 1 【法人が設定した目標利用率】特養：93.0%、ショートステイ：93.0%
- 2 職員体制の安定のため、雇用形態の柔軟化や外国人雇用を進めるなど、人材の確保に努めていく。また、福祉機器を活用し、職員の負担軽減を図っていく。
- 3 施設の安定した運営のため、利用率及び適正な人件費の管理を行い、安定した収益が出せるようにしていく。
- 4 介護の人材不足が顕著となっており、益々、地域福祉の連携構築が重要となるため、その中核となり、施設が身近な相談場所であるという認識を持ってもらえるよう努める。
- 5 介護の仕事の情報等を発信することで、誰もが介護の課題に関わる可能性があることを認識してもらえるような働きかけを行うとともに、区や他の団体などと連携していく。

令和元年度の事業実績

- 1 特養：利用率91.9% 平均介護度4.0、ショートステイ：利用率92.0% 平均介護度3.3
- 2 他事業所と比較すると安定している方ではあるが、介護職不足は深刻化している。そこで、インドネシアからの特定技能制度による介護職6名の受け入れを進めている。
- 3 利用率が安定してきており、収益が出せるようになった。今後は、人件費率が高いため、非常勤職員の採用を進めていきたいが、介護人材の確保が難しい状況である。
- 4 町会の役員会等の会合や行事に参加し、相談し合える関係が築けてきた。また、SNSでの発信を毎日更新したことで、施設を身近に感じてもらえるようになってきている。
- 5 HPとSNSを活用して情報発信を行い、インスタグラムのフォロワーは2000名を超えた。また、掲示物や配布物により介護の魅力等の発信を行った。

法令基準等への適合状況				
確認項目			適合判断	
運営基準を満たしているか				
	運営規程を定めており、適切に守られている	○		
	重要事項を記した文書を交付して説明を行い、利用者等の同意を得ている	○		
	食中毒及び感染症を防止する処置等を行っている	○		
人員配置基準を満たしているか				
	管理者を配置している	○		
	看護職員、介護職員等を配置している	○		
設備基準を満たしているか				
	サービス提供に必要な設備を備えている	○		
			結果 適合	
その他の評価項目				
項 目	評 価	極めて 良好である	良好である	取組が行われていない、または取組が十分でない
利用率（特養）		☐	☒	☐
利用者アンケートの結果、施設利用の満足度		☐	☒	☐
自主的な取組		☐	☒	☐
災害等に対する取組		☒	☐	☐
評価内容				
・入浴、排泄、食事等の日常生活上の介護や機能訓練、健康管理等のサービス提供を専門的なスキルをもって、安定的に実施している。 ・利用率については、91.9%と良好である。 ・利用者アンケートの結果では、施設サービス全般に対する満足度が86%に達するなど、良好な評価を得ている。 ・自主的な取組については、隣接の保育園等と定期的に交流を図るとともに、貸し傘や広報誌の発行等で施設を身近に感じてもらう取組を行っている。また、企業研修の受入れ、地域の方との祭りの実施など、開かれた施設として地域と交流を深めていることが評価できる。 ・災害対策及び新型コロナウイルス感染症に対する感染予防策を適切に行っている。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
・利用率等は良好であるが、引き続き、更なる維持・向上が必要である。				

施設決算状況

年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	介護保険事業収益	455,725,601	455,800,916	460,039,000	462,742,656
	その他収入	1,604,700	1,414,264	3,383,000	1,845,754
	計	457,330,301	457,215,180	463,422,000	464,588,410
支出	運営費	67,725,389	67,244,742	69,164,000	67,631,798
	管理費	61,378,826	59,923,805	59,261,000	63,032,440
	本部経費	—	—	—	—
	人件費	334,215,924	325,534,797	345,850,000	327,432,009
	修繕費	3,880,254	2,981,428	1,846,000	3,846,896
	その他支出	1,724,139	1,642,504	2,592,000	1,478,590
	計	468,924,532	457,327,276	478,713,000	463,421,733
収支差額		-11,594,231	-112,096	-15,291,000	1,166,677

(施設決算状況の説明)

- ・介護保険事業収益により運営を行っており、区として指定管理料を支出していない。
- ・平成28年度賞与引当金等の計上時期の適正化に伴い、平成29年度から赤字額が減少し、更に令和元年度においては、収支の改善が図られ、黒字決算となっている。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、勘定科目内訳等を確認し、会計手続が適正に行われていることが確認できた。	良好
	予算管理が適正である	収入・支出とも予算との差額は軽微であり、予算管理は適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	事務費が予算を超過したが、人件費・事業費は効果的に活用され、収支差額は改善された。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、3 6 協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目が要件を満たしており、労働環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	三期の法人決算書に基づき財務診断を行った結果、収益性、成長性、安定性、活動性・健全性ともに良好である。安定的・継続的な運営に当たって適正な財務力を有している。	良好

総合評価

介護人材の確保が厳しい中であって、法令基準等についてはすべて適合している。利用者に対するサービスの提供は確実に履行され、財務面・労務面についても良好であり、指定管理業務は適正に行われていた。

担当所管部	
部	福祉部
課	福祉推進課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要

施設名	名称	特別養護老人ホームサンハイム荒川
	所在地	荒川区南千住三丁目14番7号
指定管理者	名称	社会福祉法人カメリア会
	所在地	江東区亀戸三丁目36番13号
施設開設年月日		平成7年2月1日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成29年4月1日
指定期間		平成29年4月1日～令和4年3月31日（5年間）
業務内容		要介護と認定をされ、常時介護が必要で在宅介護を受けることが困難な高齢者に対し、入浴、排泄、食事等の日常生活上の介護や機能訓練、健康管理等のサービスを提供する。 （定員）特養 56名 短期入所生活介護（ショートステイ）12名

令和元年度の事業計画

- 1 【法人が設定した目標利用率】特養：96.0%、ショートステイ：98.2%
- 2 生活が画一化して集団ケアとならないように、利用者のニーズを把握し、利用者一人ひとりに適応した介護計画を立案し、実行する。
- 3 コンプライアンスを徹底し、施設運営における関連諸法令を遵守するとともに、所轄官庁による実地指導を通じて、適正な運営を実現する。
- 4 目標管理制度を通じて、職員が常に高い目標に向かってチャレンジできる環境づくりを行う。また、階層別研修制度を通じて、職員がその職責を果たせるよう人材育成をする。
- 5 食欲の減退、食事への関心がなくなる等の要介護高齢者に予想される種々の障害に対し、残存した感覚を刺激して利用者の食への興味を喚起する。

令和元年度の事業実績

- 1 特養：利用率95.1% 平均介護度3.8、ショートステイ：利用率98.2% 平均介護度2.8
- 2 サービス担当者会議を通じて利用者個人のニーズ把握と検討を行い、御家族とのコミュニケーションを図りながら、個別性を尊重した介護計画を立案し、実行した。
- 3 所轄官庁による実地指導はもとより、法人内部監査等を年度に2回以上行い、常に運営上の内部統制を図り、適正な運営を行った。
- 4 目標管理制度により職員の目標設定と達成度を管理し、面談による進捗管理、指導、ストレスマネジメント等を行った。また、階層別研修制度を通じて、職員の成長を支援した。
- 5 訪問歯科による口腔衛生の改善により経口摂取を継続できる環境を整えた。また、他職種連携により個人の状態に応じた食事形態・環境の提供をするとともに、行事食のイベントを開催し、食への興味を常に持っていただくよう努めた。

法令基準等への適合状況			
確認項目			適合判断
運営基準を満たしているか			
	運営規程を定めており、適切に守られている	○	
	重要事項を記した文書を交付して説明を行い、利用者等の同意を得ている	○	
	食中毒及び感染症を防止する処置等を行っている	○	
人員配置基準を満たしているか			
	管理者を配置している	○	
	看護職員、介護職員等を配置している	○	
設備基準を満たしているか			
	サービス提供に必要な設備を備えている	○	
			結果 適合
その他の評価項目			
項 目	評 価	極めて 良好である	良好である 取組が行われていない、または取組が十分でない
利用率（特養）		☒	☐
利用者アンケートの結果、施設利用の満足度		☒	☐
自主的な取組		☐	☒
災害等に対する取組		☐	☒
評価内容			
・入浴・排泄・食事等の介護、生活相談、機能訓練等のサービス提供を専門的なスキルをもって、安定的に実施している。 ・利用率については、95.1%と極めて良好である。 ・利用者アンケートの結果では、施設サービス全般に対する満足度が93%に達するなど、極めて良好な評価を得ている。 ・自主的な取組については、サービスの質の向上のため、ISO認証取得や法人間での勉強会等を行い、他施設との情報交換等の交流を図っている。また、保育園交流や来食サービスの実施を行っていることが評価できる。 ・災害対策及び新型コロナウイルス感染症に対する感染予防策を適切に行っている。			
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等			
・利用率等は良好であるが、更なる維持・向上が必要である。			

施設決算状況

年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	介護保険事業収益	282,895,531	292,911,598	290,309,000	292,022,913
	その他収入	0	0	1,200,000	0
	計	282,895,531	292,911,598	291,509,000	292,022,913
支出	運営費	67,015,324	70,821,683	65,807,000	73,278,558
	管理費	25,847,742	21,792,341	18,608,000	22,290,028
	本部経費	—	—	—	—
	人件費	153,307,270	169,383,718	177,636,000	170,503,676
	修繕費	1,410,685	1,940,000	2,160,000	782,125
	その他支出	11,156,117	12,389,497	12,072,000	16,049,596
	計	258,737,138	276,327,239	276,283,000	282,903,983
収支差額		24,158,393	16,584,359	15,226,000	9,118,930

(施設決算状況の説明)

介護保険事業収益により運営を行っており、区として指定管理料を支出していない。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、勘定科目内訳等を確認し、会計手続が適正に行われていることが確認できた。	良好
	予算管理が適正である	収入・支出とも予算との差額は軽微であり、予算管理は適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	事業費、事務費が僅かに予算を超過し、収支差額は予算を下回ったが、黒字を維持している。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、3 6 協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目が要件を満たしており、労働環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	三期の法人決算書に基づき財務診断を行った結果、収益性、成長性、安定性、活動性・健全性ともに良好である。安定的・継続的な運営に当たって適正な財務力を有している。	良好

総合評価

介護人材の確保が厳しい中であって、法令基準等についてはすべて適合している。利用者に対するサービスの提供は確実に履行され、財務面・労務面についても良好であり、指定管理業務は適正に行われていた。

担当所管部	
部	福祉部
課	福祉推進課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要

施設名	名称	特別養護老人ホーム花の木ハイム荒川
	所在地	荒川区荒川五丁目47番2号
指定管理者	名称	社会福祉法人上智社会事業団
	所在地	荒川区町屋四丁目9番10号
施設開設年月日		平成11年4月1日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成11年4月1日
指定期間		平成29年4月1日～令和4年3月31日（5年間）
業務内容		要介護と認定をされ、常時介護が必要で在宅介護を受けることが困難な高齢者に対し、入浴、排泄、食事等の日常生活上の介護や機能訓練、健康管理等のサービスを提供する。 （定員）特養50名 短期入所生活介護（ショートステイ）6名

令和元年度の事業計画

- 1 【法人が設定した目標利用率】特養：97.0%、ショートステイ：90.0%
- 2 嚥下状態の把握・口腔内の衛生保持を行い、安全で尊厳を大切にされた個々に適した食事提供を継続する。また、栄養士、歯科医師と連携し、誤嚥性肺炎予防のための取組を行う。
- 3 特養・短期共に稼働率を維持し、事前面接等により空床期間を短縮する。また、地域包括支援センター等からの緊急ケースの受入れや様々なニーズ・疾患に柔軟に対応していく。
- 4 施設公開等を通じて地域連携を維持する取組を継続するとともに、定期的な会合で地域のニーズを把握し、地域包括支援センター等と共に福祉拠点としての役割を果たしていく。
- 5 感染症の予防に努めるとともに、発生時には適切な早期対応により拡大防止を行う。また、職員による感染予防のための取組を継続し、流行時には家族への呼びかけも行っていく。

令和元年度の事業実績

- 1 特養：利用率95.0% 平均介護度4.1、ショートステイ：利用率86.0% 平均介護度2.8
- 2 給食業者の変更により、直営のメリットを活かした食事提供を行うことができ、誤嚥性肺炎の発症を減らすことができた。今後も口から食べられる喜びを利用者に感じていただける食提供、口腔衛生の維持、機能維持に努める。
- 3 18名退所し、満床を維持する事が難しい状況となった。短期及び空床利用も稼働が伸びていないため、今後も待機者の確保を早くから行い、経営状態の安定を図る。
- 4 定期的な住民との会合や縁日の開催により地域連携を図った。また、地域包括支援センター主催の活動報告会を通して地域住民の活動を評価し、地域の活性化に取り組んだ。
- 5 新型インフルエンザの感染予防対策を基に、新型コロナウイルス感染予防対策を行い、職員、家族等から協力を得ながら感染者を出すことなく対応することができた。

法令基準等への適合状況				
確認項目			適合判断	
運営基準を満たしているか				
	運営規程を定めており、適切に守られている	○		
	重要事項を記した文書を交付して説明を行い、利用者等の同意を得ている	○		
	食中毒及び感染症を防止する処置等を行っている	○		
人員配置基準を満たしているか				
	管理者を配置している	○		
	看護職員、介護職員等を配置している	○		
設備基準を満たしているか				
	サービス提供に必要な設備を備えている	○		
			結果 適合	
その他の評価項目				
項 目	評 価	極めて 良好である	良好である	取組が行われていない、または取組が十分でない
利用率（特養）		☒	☐	☐
利用者アンケートの結果、施設利用の満足度		☐	☐	☒
自主的な取組		☐	☒	☐
災害等に対する取組		☒	☐	☐
評価内容				
・入浴・排泄・食事等の介護、生活相談、機能訓練等のサービス提供を専門的なスキルをもって、安定的に実施している。 ・利用率については、95.0%と極めて良好である。 ・利用者アンケートの結果では、施設サービス全般に対する満足度が68%である。概ね好評であり、不満の声も少ないが、「ふつう」の回答が多い状況であり、更に満足度が高まるよう努める必要がある。 ・自主的な取組については、同法人の保育園との定期的な交流や近隣町会との繋がりを大切にして、定期的な会合を継続して行っている。また、近隣町会との縁日の開催及びふれあい粋・活サロンの開催が好評を得ていることが評価できる。 ・災害対策及び新型コロナウイルス感染症に対する感染予防策を適切に行っている。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
・利用率等は良好であるが、施設の安定的な運営のため、引き続き、収支の改善に向けた取組が必要である。				

施設決算状況

年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	介護保険事業収益	246,388,471	247,450,758	248,580,000	248,956,866
	その他収入	0	0	103,000	0
	計	246,388,471	247,450,758	248,683,000	248,956,866
支出	運営費	47,720,550	46,045,603	45,443,000	45,714,402
	管理費	23,187,108	19,533,332	7,380,000	7,339,482
	本部経費	—	—	—	—
	人件費	173,470,705	181,453,098	193,800,000	194,716,054
	修繕費	6,232,313	1,446,692	3,000,000	3,012,871
	その他支出	649,090	664,172	40,000	500,457
	計	251,259,766	249,142,897	249,663,000	251,283,266
収支差額		-4,871,295	-1,692,139	-980,000	-2,326,400

(施設決算状況の説明)

- ・介護保険事業収益により運営を行っており、区として指定管理料を支出していない。
- ・利用者の重度化に伴い、職員を派遣から常勤雇用に移行してきたことで雇用及び業務の安定に繋がっているが、これによる人件費の増加により赤字決算となっている。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、勘定科目内訳等を確認し、会計手続が適正に行われていることが確認できた。	良好
	予算管理が適正である	収入・支出とも予算との差額は軽微であり、予算管理は適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	人件費増により収支差額は予算を下回ったが、他の経費は効果的に活用されている。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目が要件を満たしており、労働環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	三期の法人決算書に基づき財務診断を行った結果、安定性、活動性・健全性は極めて良好、収益性、成長性は良好である。安定的・継続的な運営に当たって極めて適正な財務力を有している。	優良

総合評価

介護人材の確保が厳しい中であって、法令基準等についてはすべて適合している。利用者に対するサービスの提供や労務管理についても適切に行われていたが、サービス活動収支の赤字が続いているため、収支の改善に向けた効率的な運営が必要である。

担当所管部	
部	福祉部
課	福祉推進課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要		
施設名	名称	グリーンハイム荒川在宅高齢者通所サービスセンター
	所在地	荒川区南千住六丁目36番5号
指定管理者	名称	社会福祉法人聖風会
	所在地	足立区花畑四丁目39番10号
施設開設年月日		平成元年4月1日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成元年4月1日
指定期間		平成29年4月1日～令和4年3月31日（5年間）
業務内容		要介護又は要支援と認定された方を対象に、利用者が居宅で自立した日常生活を営めることを目指し、入浴・排泄・食事等の介護、生活相談、機能訓練等のサービスを提供する。 （定員）通所介護（一般デイ）40名 * 介護予防含む
令和元年度の事業計画		
1 【法人が設定した目標利用率】一般デイ：73.0% 2 利用者が喜んでデイサービスに来たいと思えるサービスを提供していく。機能訓練、脳トレ、レクリエーションについて、自宅では得られない楽しみを作る工夫をしていく。 3 利用率が上昇傾向なので、引き続きその安定を目指す。また、上記取組の様子を広報誌や写真により家族やケアマネに知ってもらえるようにすることで、信頼関係を築いていく。 4 職員の確保が難しく、非常勤職員の高齢化が進んでいる。新たな職員の確保を掲示物やSNSの活用、雇用形態の柔軟化により進めていく。 5 地域に向けて、デイサービスの活動や介護職の実情などを掲示物、HP、SNS等を通じて発信していくことで、デイサービスや介護を身近に感じてもらうようにしていく。		
令和元年度の事業実績		
1 一般デイ：利用率71.4% 平均介護度2.3 2 自己が選択して参加できる活動（ペン字・生け花・手工作）、楽しみながら機能訓練に繋がるレク・脳トレ、自宅に持ち帰りのできる作品作り等を実施した。 3 平成28年度から利用率は徐々に向上している。引き続き利用者・家族、ケアマネとの信頼関係の構築を継続していく。 4 常勤職員の退職や非常勤職員の欠員状態が続いている。町会の掲示板やHP、SNSを活用して職員募集を行っているが、介護職を目指す人の絶対数が不足している。法人内で待遇面の見直しを検討し、雇用できるよう努める。 5 毎月作成している広報誌をより分かりやすく楽しんでもらえるよう見直すとともに、HPやSNSでデイサービスの様子を発信し、アナログとデジタルの両面から広報活動を行った。		

確認項目		適合判断		
運営基準を満たしているか				
運営規程を定めており、適切に守られている		○		
重要事項を記した文書を交付して説明を行い、利用者等の同意を得ている		○		
食中毒及び感染症を防止する処置等を行っている		○		
人員配置基準を満たしているか				
管理者を配置している		○		
看護職員、介護職員等を配置している		○		
設備基準を満たしているか				
サービス提供に必要な設備を備えている		○		
		結果 適合		
その他の評価項目				
項 目	評 価	極めて 良好である	良好である	取組が行われていない、または取組が十分でない
利用率（一般デイ）		☐	☒	☐
利用者アンケートの結果、施設利用の満足度		☐	☒	☐
自主的な取組		☐	☒	☐
災害等に対する取組		☒	☐	☐
評価内容				
・入浴、排泄、食事等の日常生活上の介護や機能訓練、健康管理等のサービス提供を専門的なスキルをもって、安定的に実施している。 ・利用率については、71.4%と良好である。 ・利用者アンケートの結果では、施設サービス全般に対する満足度が88%に達するなど、良好な評価を得ている。 ・自主的な取組については、来食サービス、企業研修の受入れ、教員の介護体験、看護学生の実習等を行っている。また、町会の防災訓練に施設職員が参加するとともに、施設の防災訓練に地域の消防団等に参加してもらうなど、地域と交流を深めていることが評価できる。 ・災害対策及び新型コロナウイルス感染症に対する感染予防策を適切に行っている。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
・利用率等は良好であるが、施設の安定的な運営のため、引き続き、収支の改善に向けた取組が必要である。				

施設決算状況

年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	介護保険事業収益	77,689,552	86,565,877	96,040,000	91,467,084
	その他収入	1,816,413	1,940,273	1,159,000	1,712,608
	計	79,505,965	88,506,150	97,199,000	93,179,692
支出	運営費	13,110,734	13,997,131	15,073,000	13,628,414
	管理費	9,164,484	8,516,996	8,773,000	8,782,847
	本部経費	—	—	—	—
	人件費	72,031,987	70,117,263	70,900,000	71,385,946
	修繕費	209,380	312,120	250,000	16,000
	その他支出	474,582	417,400	840,000	337,550
	計	94,991,167	93,360,910	95,836,000	94,150,757
収支差額		-15,485,202	-4,854,760	1,363,000	-971,065

(施設決算状況の説明)

- ・介護保険事業収益により運営を行っており、区として指定管理料を支出していない。
- ・赤字決算となっているが、人件費等の見直し及び利用率の向上による収入の増加により収支に大幅な改善が見られる。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、勘定科目内訳等を確認し、会計手続が適正に行われていることが確認できた。	良好
	予算管理が適正である	収入・支出とも予算との差額は軽微であり、予算管理は適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	各支出経費はほぼ予算内で遂行され、経費の効果的活用が行われている。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、3 6 協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目が要件を満たしており、労働環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	三期の法人決算書に基づき財務診断を行った結果、収益性、成長性、安定性、活動性・健全性ともに良好である。安定的・継続的な運営に当たって適正な財務力を有している。	良好

総合評価

介護人材の確保が厳しい中であって、法令基準等についてはすべて適合している。また、利用者に対するサービスの提供や労務管理についても適切に行われている。サービス活動収支については改善が見られるものの、赤字が続いているため、更なる利用率の向上と効率的な運営が必要である。

担当所管部	
部	福祉部
課	福祉推進課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要		
施設名	名称	花の木ハイム荒川在宅高齢者通所サービスセンター
	所在地	荒川区荒川五丁目47番2号
指定管理者	名称	社会福祉法人上智社会事業団
	所在地	荒川区町屋五丁目9番10号
施設開設年月日		平成11年4月1日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成11年4月1日
指定期間		平成29年4月1日～令和4年3月31日（5年間）
業務内容		要介護又は要支援と認定された方を対象に、利用者が居宅で自立した日常生活を営めることを目指し、入浴・排泄・食事等の介護、生活相談、機能訓練等のサービスを提供する。 （定員）通所介護（一般デイ）40名 *介護予防含む

令和元年度の事業計画

- 1 【法人が設定した目標利用率】一般デイ：75.0%
- 2 他職種間で共通認識を持ち、アセスメント、モニタリング等を行い、通所介護計画の作成をするとともに、ケアプランを意識した在宅生活継続に繋がるサービス提供を行っていく。
- 3 『食・動クラブかめ』や地域包括との連携により総合事業に積極的に取り組む。また、筋力維持・向上のための体操や認知症予防のための脳トレ等により介護予防に努めていく。
- 4 新たな行事や写真のプレゼント等を行い、利用者の満足度を高め、稼働率の維持・向上に努める。
- 5 施設公開や勉強会等を通じて地域連携を維持する取組を継続するとともに、質の高いサービスを提供できるように、施設内での研修等により職員の知識・技術の向上に努めていく。

令和元年度の事業実績

- 1 一般デイ：利用率59.0% 平均介護度2.3
- 2 他職種間で通所介護計画書等を作成し、定期的にアセスメントや評価を実施した。また、利用者の状況を常に把握し、個々に適したサービスを実施した。
- 3 『食・動クラブかめ』では、利用者の体調面・安全面等を考慮し、補助者を看護師に依頼し、積極的に体調管理や筋力維持・向上や認知症予防を行った。
- 4 見学・契約等迅速に対応し、新規利用者数も増加したが、利用日数が多い方の終了等により、利用率が低下した。
- 5 定期会合の継続や施設見学、介護保険等の勉強会を開催し、地域のニーズ把握や福祉拠点としての役割に努めた。また、施設内でも勉強会等を実施し、職員の知識等の向上に努めた。

法令基準等への適合状況			
確認項目			適合判断
運営基準を満たしているか			
	運営規程を定めており、適切に守られている	○	
	重要事項を記した文書を交付して説明を行い、利用者等の同意を得ている	○	
	食中毒及び感染症を防止する処置等を行っている	○	
人員配置基準を満たしているか			
	管理者を配置している	○	
	看護職員、介護職員等を配置している	○	
設備基準を満たしているか			
	サービス提供に必要な設備を備えている	○	
			結果 適合
その他の評価項目			
項 目	評 価	極めて 良好である	良好である 取組が行われていない、または取組が十分でない
利用率（一般デイ）		☐	☒
利用者アンケートの結果、施設利用の満足度		☒	☐
自主的な取組		☐	☒
災害等に対する取組		☒	☐
評価内容			
・入浴・排泄・食事等の介護、生活相談、機能訓練等のサービス提供を専門的なスキルをもって、安定的に実施している。 ・利用率については、59.0%であり十分な利用率とはいえない。 ・利用者アンケートの結果では、施設サービス全般に対する満足度が94%に達するなど、極めて良好な評価を得ている。 ・自主的な取組については、法人系列の保育園や近隣ひろば館等との地域の繋がりを大切に、定期的に交流している。また、中学生の勤労留学を受け入れていることが評価できる。 ・災害対策及び新型コロナウイルス感染症に対する感染予防策を適切に行っている。			
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等			
・利用者満足度は良好であるが、利用率が十分とはいえないため、利用率の向上に向けた取組が必要である。			

施設決算状況

年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	介護保険事業収益	70,482,078	69,622,244	62,820,000	62,166,996
	その他収入	0	0	203,000	0
	計	70,482,078	69,622,244	63,023,000	62,166,996
支出	運営費	13,327,181	12,644,413	12,590,000	12,591,092
	管理費	5,401,764	4,314,742	1,938,000	1,922,650
	本部経費	—	—	—	—
	人件費	49,304,374	50,922,574	46,740,000	47,325,793
	修繕費	14,040	21,831	200,000	237,700
	その他支出	24,701	10,493	0	62,954
	計	68,072,060	67,914,053	61,468,000	62,140,189
収支差額		2,410,018	1,708,191	1,555,000	26,807

(施設決算状況の説明)

・介護保険事業収益により運営を行っており、区として指定管理料を支出していない。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、勘定科目内訳等を確認し、会計手続が適正に行われていることが確認できた。	良好
	予算管理が適正である	収入・支出とも予算との差額は軽微であり、予算管理は適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	収入減・経費増となり、収支差額は予算を下回ったが、黒字を維持している。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目が要件を満たしており、労働環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	三期の法人決算書に基づき財務診断を行った結果、安定性、活動性・健全性は極めて良好、収益性、成長性は良好である。安定的・継続的な運営に当たって極めて適正な財務力を有している。	優良

総合評価

介護人材の確保が厳しい中であって、法令基準等についてはすべて適合している。利用者に対するサービスの提供は確実に履行され、財務面・労務面についても良好であり、指定管理業務は適正に行われていた。

担当所管部	
部	福祉部
課	福祉推進課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要		
施設名	名称	西日暮里在宅高齢者通所サービスセンター
	所在地	荒川区西日暮里五丁目36番1号
指定管理者	名称	社会福祉法人聖風会
	所在地	足立区花畑四丁目39番10号
施設開設年月日		平成3年2月1日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成3年2月1日
指定期間		平成31年4月1日～令和6年3月31日（5年間）
業務内容		要介護又は要支援と認定された方を対象に、利用者が居宅で自立した日常生活を営めることを目指し、入浴・排泄・食事等の介護、生活相談、機能訓練等のサービスを提供する。 （定員）通所介護（一般デイ）40名 *介護予防含む
令和元年度の事業計画		
1 【法人が設定した目標利用率】一般デイ：75.0% 2 年間利用率75.0%を目標とし、運営内容のアピールを強化するとともに、個別対応を強化していく。 3 自立支援を促し、機能訓練アセスメントを活用するとともに、援助の統一化を図る。 4 ランチ事業を継続するとともに、町会、ボランティア、保育園との交流・連携を図っていく。 5 職員体制の見直しを行うとともに、現状に合わせた業務内容の見直しを行っていく。		
令和元年度の事業実績		
1 一般デイ：利用率66.8% 平均介護度2.4 2 曜日による人数差が大きく、特に土曜日の利用者の減少が利用率低迷の大きな原因となっている。もっとも、個別対応、運営内容のアピールは新規利用者の獲得に結び付いた。 3 機能訓練アセスメントを通じて得た情報を個別援助内容に反映させることができた。また、介護度に合わせた自立援助が少しずつケアマネや御家族に御理解いただけるようになった。 4 ボランティアを中心にいきいきランチを毎週水曜日に継続するとともに、日暮里地域連携推進会議への参加や保育園交流の実施をした。 5 次年度に向けて医療職の非常勤化を行うとともに、厨房職員の退職を機に業務の流れを整理し、人数等を見直しを行なった。また、常勤職員を軸に職員をグループ化し、情報伝達の徹底を図った。		

法令基準等への適合状況				
確認項目			適合判断	
運営基準を満たしているか				
	運営規程を定めており、適切に守られている	○		
	重要事項を記した文書を交付して説明を行い、利用者等の同意を得ている	○		
	食中毒及び感染症を防止する処置等を行っている	○		
人員配置基準を満たしているか				
	管理者を配置している	○		
	看護職員、介護職員等を配置している	○		
設備基準を満たしているか				
	サービス提供に必要な設備を備えている	○		
			結果 適合	
その他の評価項目				
項 目	評 価	極めて 良好である	良好である	取組が行われていない、または取組が十分でない
利用率（一般デイ）		☐	☒	☐
利用者アンケートの結果、施設利用の満足度		☒	☐	☐
自主的な取組		☐	☒	☐
災害等に対する取組		☒	☐	☐
評価内容				
・入浴・排泄・食事等の介護、生活相談、機能訓練等のサービス提供を専門的なスキルをもって、安定的に実施している。 ・利用率については、66.8%と良好である。 利用者アンケートの結果では、施設サービス全般に対する満足度が90%に達するなど、極めて良好な評価を得ている。 ・自主的な取組については、お元気ランチ卒業者を対象にランチ事業を実施している。また、近隣の保育園とは、年間計画を作成し、月に一度の交流を図るとともに、教職課程の学生の福祉体験実習や小・中学性の勤労留学受入れを積極的に実施していることが評価できる。 ・災害対策及び新型コロナウイルス感染症に対する感染予防策を適切に行っている。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
・利用率等は良好であるが、施設の安定的な運営のため、引き続き、収支の改善に向けた取組が必要である。				

施設決算状況

年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	介護保険事業収益	102,712,525	90,955,586	104,016,000	89,811,245
	その他収入	4,435,006	4,629,196	879,000	3,421,407
	計	107,147,531	95,584,782	104,895,000	93,232,652
支出	運営費	15,720,147	14,588,049	13,000,000	12,389,659
	管理費	12,011,018	11,735,671	13,351,000	14,598,201
	本部経費	—	—	—	—
	人件費	79,897,783	73,974,876	78,381,000	79,570,697
	修繕費	2,863,404	7,710,876	4,304,000	3,195,976
	その他支出	1,547,855	1,478,232	738,000	1,460,946
	計	112,040,207	109,487,704	109,774,000	111,215,479
収支差額		-4,892,676	-13,902,922	-4,879,000	-17,982,827

(施設決算状況の説明)

- ・介護保険事業収益により運営を行っており、区として指定管理料を支出していない。
- ・利用率向上に向けたサービス内容の更なる見直し等を図るため、その中核となる職員を増強するなどにより人件費が伸び、総体として赤字額が増加した。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、勘定科目内訳等を確認し、会計手続が適正に行われていることが確認できた。	良好
	予算管理が適正である	収入額の予算乖離に関する原因の分析は明確であり、予算管理は適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	経費支出の予算差異は僅かであるが、収入減により収支差額は予算を大幅に下回った。	課題有
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目が要件を満たしており、労働環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	三期の法人決算書に基づき財務診断を行った結果、収益性、成長性、安定性、活動性・健全性ともに良好である。安定的・継続的な運営に当たって適正な財務力を有している。	良好

総合評価

介護人材の確保が厳しい中であって、法令基準等についてはすべて適合している。利用者に対するサービスの提供や労務管理についても適切に行われていたが、サービス活動収支の赤字が続いているため、利用率の向上と効率的な運営が必要である。

担当所管部	
部	福祉部
課	福祉推進課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要		
施設名	名称	町屋在宅高齢者通所サービスセンター
	所在地	荒川区町屋七丁目2番15号
指定管理者	名称	社会福祉法人聖風会
	所在地	足立区花畑四丁目39番10号
施設開設年月日		平成5年3月23日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成5年3月23日
指定期間		平成31年4月1日～令和6年3月31日（5年間）
業務内容		要介護又は要支援と認定された方を対象に、利用者が居宅で自立した日常生活を営めることを目指し、入浴・排泄・食事等の介護、生活相談、機能訓練等のサービスを提供する。 （定員）通所介護（一般デイ）40名 * 介護予防含む

令和元年度の事業計画

- 1 【法人が設定した目標利用率】一般デイ：85.0%
- 2 町屋サービスセンターとして75%（法人としては85%）の年間利用率を目標とし、中重度者ケア体制加算等の体制を整え、他機関との連携を強化し、安定した運営を目指す。
- 3 「自立支援」を念頭に選ばれる施設を目指す。また、活動の充実（選択活動・選択外出）や季節行事の充実を行っていく。
- 4 地域に貢献する総合事業の展開や介護教室の開催を行うとともに、ボランティア及び実習生の受入れ、防災訓練や納涼祭等の実施、保育園等との地域交流を図る。
- 5 職員研修や上期、下期において虐待チェック及び接遇マナーチェックの実施、外部研修の参加、内部研修の実施により職員の接遇、マナー向上に努める。

令和元年度の事業実績

- 1 一般デイ：70.0% 平均介護度2.2
- 2 冬季は例年利用率が低下傾向にあるが、10月～3月が71.5%と比較的堅調であった。また、機能訓練加算を理学療法士の退職に伴い一旦取り止め、体制が整い次第再開することとした。
- 3 中重度の要介護者が社会性の維持を図ることができるようにすることを目的に季節ごとの外出プログラムや行事を計画的に実施した。
- 4 年度計画に則り概ね予定通り実施した。3月に実施予定であった恒例イベント「家族懇親会」については新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、中止した。
- 5 サービスマナーに係る基礎研修を実施し、その後のフィードバックとして、外部研修に参加した職員を中心にロールプレイ方式の施設内研修を実施し、理解を深めた。

法令基準等への適合状況			
確認項目			適合判断
運営基準を満たしているか			
	運営規程を定めており、適切に守られている	○	
	重要事項を記した文書を交付して説明を行い、利用者等の同意を得ている	○	
	食中毒及び感染症を防止する処置等を行っている	○	
人員配置基準を満たしているか			
	管理者を配置している	○	
	看護職員、介護職員等を配置している	○	
設備基準を満たしているか			
	サービス提供に必要な設備を備えている	○	
			結果 適合
その他の評価項目			
項 目	評 価	極めて 良好である	良好である 取組が行われていない、または取組が十分でない
利用率（一般デイ）		☐	☒
利用者アンケートの結果、施設利用の満足度		☐	☒
自主的な取組		☐	☒
災害等に対する取組		☒	☐
評価内容			
・入浴・排泄・食事等の介護、生活相談、機能訓練等のサービス提供を専門的なスキルをもって、安定的に実施している。 ・利用率については、70.0%と良好である。 ・利用者アンケートの結果では、施設サービス全般に対する満足度が83%に達するなど、良好な評価を得ている。 ・自主的な取組については、お元気ランチ卒業生を対象にした絵手紙教室等の実施、母子生活支援施設及び近隣幼稚園との交流会の実施、中学生の勤労留学及び介護体験を積極的に実施していることが評価できる。 ・災害対策及び新型コロナウイルス感染症に対する感染予防策を適切に行っている。			
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等			
・利用率等は良好であるが、更なる維持・向上が必要である。			

施設決算状況

年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	介護保険事業収益	96,535,377	94,185,431	107,890,000	91,989,677
	その他収入	7,813,041	8,059,294	1,179,000	7,716,221
	計	104,348,418	102,244,725	109,069,000	99,705,898
支出	運営費	15,063,694	17,934,512	16,755,000	15,344,435
	管理費	13,976,356	11,389,712	12,553,000	13,299,188
	本部経費	—	—	—	—
	人件費	71,628,771	70,703,988	70,380,000	67,582,155
	修繕費	1,799,183	663,928	1,235,000	1,318,336
	その他支出	1,296,561	1,315,943	909,000	1,383,591
	計	103,764,565	102,008,083	101,832,000	98,927,705
収支差額		583,853	236,642	7,237,000	778,193

(施設決算状況の説明)

・介護保険事業収益により運営を行っており、区として指定管理料を支出していない。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、勘定科目内訳等を確認し、会計手続が適正に行われていることが確認できた。	良好
	予算管理が適正である	収入・支出とも予算との差額は妥当な範囲であり、予算管理は適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	収支差額は予算を下回ったが、黒字を維持している。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目が要件を満たしており、労働環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	三期の法人決算書に基づき財務診断を行った結果、収益性、成長性、安定性、活動性・健全性ともに良好である。安定的・継続的な運営に当たって適正な財務力を有している。	良好

総合評価

介護人材の確保が厳しい中であって、法令基準等についてはすべて適合している。利用者に対するサービスの提供は確実に履行され、財務面・労務面についても良好であり、指定管理業務は適正に行われていた。

担当所管部	
部	福祉部
課	福祉推進課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要

施設名	名称	南千住中部在宅高齢者通所サービスセンター (サンハイム荒川在宅高齢者通所サービスセンター)
	所在地	荒川区南千住四丁目9番6号
指定管理者	名称	社会福祉法人カメリア会
	所在地	江東区亀戸三丁目36番13号
施設開設年月日		平成12年4月1日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成12年4月1日
指定期間		平成31年4月1日～令和4年3月31日(3年間)
業務内容		要介護又は要支援と認定された方を対象に、利用者が居宅で自立した日常生活を営めることを目指し、入浴・排泄・食事等の介護、生活相談、機能訓練等のサービスを提供する。 (定員)通所介護(一般デイ)45名 *介護予防含む。 なお、区立在宅高齢者通所サービスセンター再編に伴いサンハイム荒川在宅高齢者通所サービスセンター及び南千住中部在宅高齢者通所サービスセンターを統合し、平成31年4月から定員25名を45名に変更した。

令和元年度の事業計画

- 1 【法人が設定した目標利用率】一般デイ：85.5%
- 2 統合によりサンハイム荒川の御利用者様を受け入れるため、職員増員、業務分担の見直し等により受入れ体制を整え、引き続き安心して御利用いただける環境を作る。
- 3 移行期間の3か月間、定員45名の御利用者様のニーズに応えるため、特に入浴、リハビリの体制を構築し、移行時に速やかに業務実施できるよう仕組づくりを行う。
- 4 移行期間の3か月間、南千住中部での業務シミュレーションを実施し、移行時に速やかに設備等を使用できるよう職員研修を行う。
- 5 統合に際して、御利用者様、御家族様、居宅支援事業所、地域住民、地縁団体等に対し、内覧会等を開催すると共に、町会の会合、いきいきサロン等で統合の周知を行う。

令和元年度の事業実績

- 1 一般デイ：利用率85.1% 平均介護度1.8
- 2 施設改修工事のため、4月から6月まではサンハイム荒川でサービスを提供した。南千住中部から一時的に移行する御利用者様の受入れは、職員を増員し、業務の見直しを図ることで問題なく対応できた。また、改修工事終了後の7月からは南千住中部で大きな混乱もなくサービスを提供できた。
- 3 入浴・リハビリの業務シミュレーションをし、体制の再構築・仕組づくりを行うことにより、定員増員後も大きな混乱もなくサービスの提供が行えた。
- 4 南千住中部への移行後の一日の流れ・業務分担を明確にし、職員会議にて周知・共通理解をした。また、新たに使用する機器については、職員研修内にて説明・指導を行った。
- 5 移行前に内覧会を開催するとともに、居宅介護支援事業所等の関係各所にパンフレットを持参し、周知活動を行った。

法令基準等への適合状況				
確認項目			適合判断	
運営基準を満たしているか				
	運営規程を定めており、適切に守られている	○		
	重要事項を記した文書を交付して説明を行い、利用者等の同意を得ている	○		
	食中毒及び感染症を防止する処置等を行っている	○		
人員配置基準を満たしているか				
	管理者を配置している	○		
	看護職員、介護職員等を配置している	○		
設備基準を満たしているか				
	サービス提供に必要な設備を備えている	○		
			結果 適合	
その他の評価項目				
項 目	評 価	極めて 良好である	良好である	取組が行われていない、または取組が十分でない
利用率（一般デイ）		☒	☐	☐
利用者アンケートの結果、施設利用の満足度		☐	☐	☒
自主的な取組		☐	☒	☐
災害等に対する取組		☒	☐	☐
評価内容				
・入浴・排泄・食事等の介護、生活相談、機能訓練等のサービス提供を専門的なスキルをもって、安定的に実施している。 ・利用率については、85.1%と極めて良好である。 ・利用者アンケートの結果では、施設サービス全般に対する満足度が68%である。概ね好評であり、不満の声も少ないが、「ふつう」の回答が多い状況であり、さらに満足度が高まるよう努める必要がある。 ・自主的な取組については、保育園交流やインターンの受入れを始め、サービスの質向上としてのISOの認証取得に取り組んでいる。また、法人グループ間での勉強会や研修・交流などを行うとともに、法人での内部監査を実施していることが評価できる。 ・災害対策及び新型コロナウイルス感染症に対する感染予防策を適切に行っている。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
・利用率等は良好であるが、更なる維持・向上が必要である。				

施設決算状況

年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	介護保険事業収益	59,682,988	49,312,057	100,900,000	101,900,787
	その他収入	2,202,296	2,756,003	900,000	0
	計	61,885,284	52,068,054	101,800,000	101,900,787
支出	運営費	12,347,797	12,710,299	17,769,000	19,424,953
	管理費	7,431,335	7,718,797	14,658,000	11,433,295
	本部経費	—	—	—	—
	人件費	51,599,885	50,760,874	59,454,000	65,513,416
	修繕費	1,334,577	6,285,330	180,000	52,085
	その他支出	1,048,741	1,081,630	4,824,000	5,081,611
	計	73,762,335	78,556,930	96,885,000	101,505,360
収支差額		-11,877,051	-26,488,876	4,915,000	395,427

(施設決算状況の説明)

- ・介護保険事業収益により運営を行っており、区として指定管理料を支出していない。
- ・平成29年度及び平成30年度の実績は、前指定管理者のものである。
- ・サンハイム荒川在宅高齢者通所サービスセンターと統合したこと及び地域包括支援センターや居宅介護支援事業所との連携により積極的に新規利用者の獲得を行ったことにより黒字決算となっている。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、勘定科目内訳等を確認し、会計手続が適正に行われていることが確認できた。	良好
	予算管理が適正である	収入・支出とも予算との差額は軽微であり、予算管理は適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	人件費、事業費が予算を超過し、収支差額は予算を下回ったが、黒字決算となった。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目が要件を満たしており、労働環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	三期の法人決算書に基づき財務診断を行った結果、収益性、成長性、安定性、活動性・健全性ともに良好である。安定的・継続的な運営に当たって適正な財務力を有している。	良好

総合評価

介護人材の確保が厳しい中であって、法令基準等についてはすべて適合している。利用者に対するサービスの提供は確実に履行され、財務面・労務面についても良好であり、指定管理業務は適切に行われていた。また、区立在宅高齢者通所サービスセンターの再編に伴うサンハイム荒川との統合についても問題なく行われた。

担当所管部	
部	福祉部
課	福祉推進課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要		
施設名	名称	東日暮里在宅高齢者通所サービスセンター
	所在地	荒川区東日暮里三丁目8番16号
指定管理者	名称	社会福祉法人東京都福祉事業協会
	所在地	北区王子二丁目19番21号
施設開設年月日		平成6年11月1日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成6年11月1日
指定期間		平成31年4月1日～令和6年3月31日（5年間）
業務内容		要介護又は要支援と認定された方を対象に、利用者が居宅で自立した日常生活を営めることを目指し、入浴・排泄・食事等の介護、生活相談、機能訓練等のサービスを提供する。 （定員）通所介護（一般デイ）40名 認知症対応型通所介護（認知デイ）12名 ＊各々介護予防含む
令和元年度の事業計画		
1 【法人が設定した目標利用率】一般デイ：75.0%、認知デイ：83.0% 2 適正な職員体制の下でサービスの提供をしていく。また、地域に開かれた福祉サービスの拠点としての役割を果たすとともに、介護予防事業にも積極的に取り組んでいく。 3 利用者の持つ身体・残存能力の維持と活用を図り、自立援助に努めていく。また、食事介助や入浴介助等、個々に応じた生活の改善、健康保持の指導等を行っていく。 4 利用者の目線に立ったサービスの提供に努めていく。また、利用者や御家族からの相談や要望には、速やかに適切な対応をし、利用者のための介護サービスの充実に努めていく。 5 研修への参加や日々の実践を通して、サービスの一層の向上に努める。また、全職員が連携し、事故発生を予防し、利用者が安心して快適なサービスを受けられるよう努める。		
令和元年度の事業実績		
1 一般デイ：利用率55.7% 平均介護度1.9、認知デイ：利用率58.9% 平均介護度3.3 2 介護職、看護師等が連携してサービスの提供に努め、事業を充実させた。また、高齢者家族向けの「家族介護者教室」、「食・動クラブつる」等を実施し、地域の高齢者福祉事業を推進した。 3 個々に応じたサービスの提供に努め、職員がそれぞれの専門性を活かし、利用者の持つ残存能力の維持と活用のために必要な介助を提供した。 4 利用者の家族の悩みや不安を解消し、全職員が連携し、常に介護支援専門員との情報交換を行い、利用者一人一人に適したサービスを提供できるように努めた。 5 職場内研修や壁新聞の研修通信等を通して、高齢者福祉の知識や技術の習得を図るとともに、サービス提供の上で事故が発生しないよう努めた。また、外部研修等により職員の自己啓発と資質向上を図った。		

法令基準等への適合状況			
確認項目			適合判断
運営基準を満たしているか			
	運営規程を定めており、適切に守られている		○
	重要事項を記した文書を交付して説明を行い、利用者等の同意を得ている		○
	食中毒及び感染症を防止する処置等を行っている		○
人員配置基準を満たしているか			
	管理者を配置している		○
	看護職員、介護職員等を配置している		○
設備基準を満たしているか			
	サービス提供に必要な設備を備えている		○
			結果 適合
その他の評価項目			
項 目	評 価	極めて 良好である	良好である 取組が行われていない、または取組が十分でない
利用率（一般デイ）		☐	☒
利用者アンケートの結果、施設利用の満足度		☒	☐
自主的な取組		☐	☒
災害等に対する取組		☒	☐
評価内容			
・入浴・排泄・食事等の介護、生活相談、機能訓練等のサービス提供を専門的なスキルをもって、安定的に実施している。 ・利用率については、一般デイが55.7%であり、十分な利用率とは言えなかったが、認知デイは58.9%となっており前年度を上回った。 ・利用者アンケートの結果では、施設サービス全般に対する満足度が92%に達するなど、極めて良好な評価を得ている。 ・自主的な取組については、地域ふれあい祭り等を実施するほか、あんまマッサージの無償提供や給食試食の場を設けており、地域に開かれた施設であることが評価できる。また、区立中学生の勤労留学や大学生の介護体験についても積極的に受け入れていることが評価できる。 ・災害対策及び新型コロナウイルス感染症に対する感染予防策を適切に行っている。			
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等			
・利用者満足度は良好であるが、一般デイについては利用率が十分とはいえず、また、収支も赤字であるため、施設のPR活動や新規利用者の獲得、多様なサービス時間の提供など、利用率の向上及び収支の改善に向けた取組が急務である。			

施設決算状況

年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	介護保険事業収益	90,483,215	100,158,724	102,418,000	101,774,577
	その他収入	0	0	1,064,000	0
	計	90,483,215	100,158,724	103,482,000	101,774,577
支出	運営費	10,908,857	8,280,778	8,186,000	8,003,035
	管理費	14,776,404	15,695,865	15,317,000	15,414,341
	本部経費	—	—	—	—
	人件費	84,249,487	88,249,444	94,205,000	95,378,170
	修繕費	2,714,355	1,589,878	911,000	754,410
	その他支出	0	0	775,000	0
	計	112,649,103	113,815,965	119,394,000	119,549,956
収支差額		- 22,165,888	- 13,657,241	- 15,912,000	- 17,775,379

(施設決算状況の説明)

- ・介護保険事業収益により運営を行っており、区として指定管理料を支出していない。
- ・前年度と比較して、デイサービスの収入は増加したが、令和 2 年度からの区立認知デイの一本化に備えた職員増に伴う人件費が増加し、総体として赤字額が増加した。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、勘定科目内訳等を確認し、会計手続が適正に行われていることが確認できた。	良好
	予算管理が適正である	収入・支出とも予算との差額は軽微であり、予算管理は適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	経費支出は微増であるが収入減により、収支差額は予算を下回り、赤字が継続している。	課題有
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、3 6 協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目が要件を満たしており、労働環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	三期の法人決算書に基づき財務診断を行った結果、成長性、安定性、活動性・健全性は良好である。安定的・継続的な運営に当たって適正な財務力を有している。	良好

総合評価

介護人材の確保が厳しい中であって、法令基準等についてはすべて適合している。利用者に対するサービスの提供や労務管理についても適切に行われていたが、サービス活動収支の赤字が続いているため、経費の縮減、多様なサービス時間の提供など、利用率の向上と効率的な運営が必要である。

担当所管部	
部	福祉部
課	福祉推進課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要		
施設名	名称	荒川東部在宅高齢者通所サービスセンター
	所在地	荒川区荒川一丁目34番6号
指定管理者	名称	社会福祉法人荒川区社会福祉協議会
	所在地	荒川区南千住一丁目13番20号
施設開設年月日		平成6年12月1日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成6年12月1日
指定期間		平成31年4月1日～令和2年3月31日（1年間）
業務内容		要介護又は要支援と認定された方を対象に、利用者が居宅で自立した日常生活を営めることを目指し、入浴・排泄・食事等の介護、生活相談、機能訓練等のサービスを提供する。 （定員）通所介護（一般デイ）35名 認知症対応型通所介護（認知デイ）10名 ＊各々介護予防含む
令和元年度の事業計画		
1 【法人が設定した目標利用率】一般デイ：85.0%、認知デイ：- 2 荒川区における区立在宅高齢者通所サービスセンター再編計画に合わせ、当法人が指定管理を行う最終年となるため、利用者の生活に支障を来すことなく、速やかに事業の引継ぎを行う。 3 認知症対応型通所介護におけるサービス提供には、御家族の想いも強いため、次年度に向けて丁寧な引継ぎを行う。 4 介護予防の視点から、地域の方の参加を促す自主事業「健康茶話会ころから」の継続的な実施を行う。 5 施設設備、備品等を不備なく次年度以降の事業者引き継げるように整理する。		
令和元年度の事業実績		
1 一般デイ利用率：74.7% 平均介護度2.2、認知デイ利用率：48.9% 平均介護度3.8 2 新法人への引継ぎのため、利用者の資料等を整理するとともに、居宅介護支援事業者等に対して引継ぎを丁寧に実施した。 3 認知症対応型通所介護は今年度をもって廃止となるが、現在、御利用中の方についてはこれまでどおり通所可能とするため、変わりなくサービスの提供を行った。新法人の職員を12月から2名採用し、次年度以降利用者のサービスの提供に支障のないように対応した。 4 自主事業「健康茶話会ころから」を継続して行った。隔週の実施となったことや、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、後半実施できなくなった。 5 令和2年3月31日をもって指定管理期間が終了するため、新法人への引継ぎを行った。区の備品については、備品登録台帳に合わせて確認を行い、不用品の廃棄などの手続を行った。		

法令基準等への適合状況				
確認項目			適合判断	
運営基準を満たしているか				
	運営規程を定めており、適切に守られている	○		
	重要事項を記した文書を交付して説明を行い、利用者等の同意を得ている	○		
	食中毒及び感染症を防止する処置等を行っている	○		
人員配置基準を満たしているか				
	管理者を配置している	○		
	看護職員、介護職員等を配置している	○		
設備基準を満たしているか				
	サービス提供に必要な設備を備えている	○		
			結果 適合	
その他の評価項目				
項 目	評 価	極めて 良好である	良好である	取組が行われていない、または取組が十分でない
利用率（一般デイ）		☐	☒	☐
利用者アンケートの結果、施設利用の満足度		☒	☐	☐
自主的な取組		☐	☒	☐
災害等に対する取組		☒	☐	☐
評価内容				
・入浴・排泄・食事等の介護、生活相談、機能訓練等のサービス提供を専門的なスキルをもって、安定的に実施している。 ・利用率については、一般デイは74.7%、認知デイ48.9%と良好である。 ・利用者アンケートの結果では、施設サービス全般に対する満足度が92%に達するなど、極めて良好な評価を得ている。 ・自主的な取組については、「健康茶話会ころから」の実施や区立中学生の勤労留学、企業研修の受入れ、介護等体験事業を積極的に実施している。また、近隣保育園、小学校や地域の方々とセンターまつり等を通じて開かれた施設として交流を深めていることが評価できる。 ・災害対策及び新型コロナウイルス感染症に対する感染予防策を適切に行っている。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
・区立在宅高齢者通所サービスセンターの再編に伴い、令和元年度をもって認知症対応型通所介護サービスを廃止するため、同サービスについては、令和元年10月から新たな利用者の受入れを行わなかった。				

施設決算状況

年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	介護保険事業収益	109,005,343	111,781,728	103,813,000	102,336,772
	その他収入	2,206,447	2,131,571	2,240,000	739,414
	計	111,211,790	113,913,299	106,053,000	103,076,186
支出	運営費	14,370,191	14,371,433	15,086,000	52,348,201
	管理費	15,471,934	15,908,956	9,536,000	9,204,096
	本部経費	—	—	—	—
	人件費	71,019,586	72,405,151	76,937,000	79,538,130
	修繕費	2,561,983	587,670	975,000	5,201,569
	その他支出	0	2,221,560	0	1,030,447
	計	103,423,694	105,494,770	102,534,000	147,322,443
収支差額		7,788,096	8,418,529	3,519,000	-44,246,257

(施設決算状況の説明)

- ・介護保険事業収益により運営を行っており、区として指定管理料を支出していない。
- ・区立在宅高齢者通所サービスセンターの再編に伴い認知症対応型通所介護の新規受入れを中止したことによる収入の減少及び指定管理期間終了に伴う積立金返還（約40,204千円）による支出の増加により赤字決算となっている。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、勘定科目内訳等を確認し、会計手続が適正に行われていることが確認できた。	良好
	予算管理が適正である	支出額の予算差額に関する原因の分析は明確であり、予算管理は適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	積立金返還による支出増と、収入減により収支差額は予算を大幅に下回った。	課題有
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目が要件を満たしており、労働環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	三期の法人決算書に基づき財務診断を行った結果、成長性、安定性、活動性・健全性は良好である。安定的・継続的な運営に当たって適正な財務力を有している。	良好

総合評価

介護人材の確保が厳しい中であって、法令基準等についてはすべて適合している。利用者に対するサービスの提供や労務管理についても適切に行われていた。また、区立在宅高齢者通所サービスセンター再編に伴う認知症対応型通所介護サービスの廃止に向けての取組を含め、指定管理業務は適正に行われていた。

担当所管部	
部	福祉部
課	福祉推進課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要		
施設名	名称	西尾久西部在宅高齢者通所サービスセンター
	所在地	荒川区西尾久六丁目17番3号
指定管理者	名称	社会福祉法人荒川区社会福祉協議会
	所在地	荒川区南千住一丁目13番20号
施設開設年月日		平成7年4月1日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成7年4月1日
指定期間		平成31年4月1日～令和2年3月31日（1年間）
業務内容		要介護又は要支援と認定された方を対象に、利用者が居宅で自立した日常生活を営めることを目指し、入浴・排泄・食事等の介護、生活相談、機能訓練等のサービスを提供する。 （定員）通所介護（一般デイ）35名 認知症対応型通所介護（認知デイ）10名 ＊各々介護予防含む
令和元年度の事業計画		
1 区立在宅高齢者通所サービスセンターの再編に伴い、令和元年度をもって施設が廃止となる予定であるため、利用率の目標は定めない。 2 事業の最終年度となり、御利用者の生活に支障を来すことなく次のデイサービスに移行できるように御利用者、御家族、ケアマネージャーと連携を図っていく。 3 季節感を感じられる行事や地域交流事業を行っていく。 4 介護予防の視点から、地域の方々が参加できるように自主事業「ころから」を継続的に実施する。 5 施設設備、備品等について、次年度への移行を円滑に行うことができるように整理をする。		
令和元年度の事業実績		
1 一般デイ利用率：41.6% 平均介護度2.1、認知デイ利用率：0% 2 利用者が次のサービスへスムーズに移行できるように調整を図った。3月までにおいて、1名の在宅サービスへの切り替え（訪問入浴）の方を除いて、全ての利用者の他のデイサービス等への移行が行えた。 3 ふれあい館や保育園など地域施設との交流事業を積極的に実施した。地域の方々と接することで、利用者にも笑顔が見られ、温かな交流事業が行えた。 4 利用者と合同で行うプログラムを実施した。また、参加される方々に地域包括支援センター等の事業の情報提供を行った。 5 施設内の備品、設備の調査・修繕に随時対応した。備品台帳の整理を行い、不用品の廃棄や備品台帳以外の消耗品について整理を行った。		

法令基準等への適合状況				
確認項目			適合判断	
運営基準を満たしているか				
	運営規程を定めており、適切に守られている	○		
	重要事項を記した文書を交付して説明を行い、利用者等の同意を得ている	○		
	食中毒及び感染症を防止する処置等を行っている	○		
人員配置基準を満たしているか				
	管理者を配置している	○		
	看護職員、介護職員等を配置している	○		
設備基準を満たしているか				
	サービス提供に必要な設備を備えている	○		
			結果 適合	
その他の評価項目				
項 目	評 価	極めて 良好である	良好である	取組が行われていない、または取組が十分でない
利用率（一般デイ）				
利用者アンケートの結果、施設利用の満足度		☒	☐	☐
自主的な取組		☐	☒	☐
災害等に対する取組		☒	☐	☐
評価内容				
・入浴・排泄・食事等の介護、生活相談、機能訓練等のサービス提供を専門的なスキルをもって、安定的に実施している。 ・利用率については、令和元年度をもって施設が廃止となるため、評価項目から除く。 ・利用者アンケートの結果では、施設サービス全般に対する満足度が96%に達するなど、極めて良好な評価を得ている。 ・自主的な取組については、健康茶話会「ころから」を実施するとともに、地域のサロンなどの情報提供を積極的に行っている。また、近隣の保育園児や地域の方々と七夕会・秋まつり・節分行事を行い、開かれた施設として、地域との交流を深めていることが評価できる。 ・災害対策及び新型コロナウイルス感染症に対する感染予防策を適切に行っている。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
・区立在宅高齢者通所サービスセンターの再編に伴い、令和2年4月1日に本施設を廃止した。				

施設決算状況

年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	介護保険事業収益	86,599,004	78,252,475	44,030,000	40,939,813
	その他収入	2,087,913	660,347	760,000	622,921
	計	88,686,917	78,912,822	44,790,000	41,562,734
支出	運営費	14,706,001	13,337,296	12,922,000	10,744,259
	管理費	15,108,299	15,569,963	9,554,000	9,062,429
	本部経費	—	—	—	—
	人件費	60,693,448	61,512,375	59,307,000	60,476,132
	修繕費	1,145,024	1,612,882	1,070,000	805,009
	その他支出	0	805,680	0	259,200
	計	91,652,772	92,838,196	82,853,000	81,347,029
収支差額		-2,965,855	-13,925,374	-38,063,000	-39,784,295

(施設決算状況の説明)

- ・介護保険事業収益により運営を行っており、区として指定管理料を支出していない。
- ・区立在宅高齢者通所サービスセンター再編に伴い、令和元年度をもって本施設を廃止する計画の下、同年度内に利用者を他施設に移行させていく必要があり、当該移行に伴う利用率の低下による収入の減少により赤字決算となっている。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、勘定科目内訳等を確認し、会計手続が適正に行われていることが確認できた。	良好
	予算管理が適正である	収入・支出とも予算との差額は妥当な範囲であり、予算管理は適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	施設廃止に伴う支出増と収入減により、収支差額は大幅な赤字となった。	課題有
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目が要件を満たしており、労働環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	三期の法人決算書に基づき財務診断を行った結果、成長性、安定性、活動性・健全性は良好である。安定的・継続的な運営に当たって適正な財務力を有している。	良好

総合評価

介護人材の確保が厳しい中であって、法令基準等についてはすべて適合している。利用者に対するサービスの提供や労務管理についても適切に行われていた。また、区立在宅高齢者通所サービスセンターの再編に伴う本施設の廃止に向けての取組を含め、指定管理業務は適正に行われていた。

担当所管部	
部	福祉部
課	福祉推進課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要		
施設名	名称	荒川老人福祉センター
	所在地	荒川区荒川 一丁目3 4 番6 号
指定管理者	名称	社会福祉法人荒川区社会福祉協議会
	所在地	荒川区南千住一丁目1 3 番2 0 号
施設開設年月日		昭和4 5 年1 2 月1 日
現在の指定管理者による運営開始年月日		平成7 年4 月1 日
指定期間		平成3 1 年4 月1 日～令和2 年3 月3 1 日（1 年間）
業務内容		(1) 事業に関する業務 ・生活、就労、健康等の相談及び指導に関する業務 ・機能回復訓練その他健康の保持増進に関する業務 ・教養の向上及びレクリエーションに関する業務 ・その他区が必要と認める事業に関する業務 (2) 施設の維持管理に関する業務 ・施設及び付属設備の保守点検に関する業務 ・施設の清掃に関する業務 ・備品の管理に関する業務 ・その他の維持管理に関する業務 (3) 区が実施する早期の介護予防、認知症予防事業に関する業務
令和元年度の事業計画		
1 【介護予防事業】いつまでも健康で生きがいを持って生活できるよう、利用者が主体的に介護予防や健康づくりに取り組むきっかけとなる場を創出し、介護予防の意識付け、情報提供及び普及啓発を行っていく。 2 【健康相談事業及び生活相談事業】日頃から健康相談員及び看護師が利用者の身体状況を把握し、地域包括支援センター等と連携を図りながら、個別ニーズに即した介護予防及び認知症予防プログラム並びに健康アップステーションの活用を図る。また、健康、生活等に関して直に役立つ情報を提供し、意識啓発及び注意喚起を促す。 3 【公開講座】新規講座を2つ開設する。また、人気の高い講座の指導員及び定員を増員し、利用者ニーズに応える。さらに、講座内容を見直し、参加しやすい形態にする。 4 【高年者クラブ連合会等に対する支援】区内の高年者クラブとの連携を通じて事業の促進を図るとともに、近隣保育園との交流により世代間交流を推進する。また、地域の小中学校との協力を通じて、勤労留学生、職場体験学習、ボランティア及び受け入れを行う。		
令和元年度の事業実績		
1 介護予防プログラムは特に各種体操の参加者が増え、健康づくりへの意識付けを高めることができた。 2 要介護認定や障害等の身体状況を把握し、日常生活動作に支援が必要な利用者について、嘱託医等、地域包括支援センター、高齢者見守りステーション及び居宅介護支援事業所や医療機関と連携しながら情報共有を図った。 3 「スマートフォン・タブレット相談室」を毎月1回開催し、操作に不慣れな方のニーズに応えた。「初めてのタブレット講座」の開催形態を4回連続から2回連続に変更したため、参加率が高まった。 4 荒川区高年者芸能大会の共催、各種教室、公開講座、介護予防教室等の情報提供を行った。また、車椅子や会議室の貸し出し、職場体験学習やボランティアの受け入れを行った。		

確認項目		適合判断		
運営基準を満たしているか				
☐	運営規定を定めており、適切に守られている	○		
事業について				
☐	生活相談、健康相談を行っている	○		
☐	教養講座等を行っている	○		
☐	老人クラブに対する援助等を行っている	○		
人員配置基準を満たしているか				
☐	施設の長を配置している	○		
☐	相談・指導を行う職員を配置している	○		
設備基準を満たしているか				
☐	サービス提供に必要な設備を備えている	○		
		結果 適合		
その他の評価項目				
項 目	評 価	極めて 良好である	良好である	取組が行われていない、または取組が十分でない
来館者数		☐	☒	☐
利用者アンケートの結果、施設利用の満足度		☐	☒	☐
自主的な取組		☐	☒	☐
災害等に対する取組		☒	☐	☐
評価内容				
・ 1日の平均利用者は、139人と多くの来館者がある（年間利用者総数40,601人、新規利用登録者470人）。 ・ 利用者アンケートの結果から、施設サービス全般に対する満足度が86%に達するなど、良好な評価を得ている。 ・ 自主的な取組については、近隣の保育園児との交流やサマーボランティアスクール等による小中学生の受入れ、ボランティアグループによる喫茶コーナーの実施など、地域に根差し開かれた施設として、地域交流を深めていることが評価できる。 ・ 災害対策及び新型コロナウイルス感染症に対する感染予防策を適切に行っている。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
・ 利用者満足度は良好であるが、引き続き、更なる満足度の向上に繋がるサービス提供が必要である。				

施設決算状況

年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	70,109,180	70,934,801	78,816,530	71,169,176
	その他収入	—	—	—	—
	計	70,109,180	70,934,801	78,816,530	71,169,176
支出	運営費	14,021,124	13,865,601	15,008,900	13,140,775
	管理費	11,321,260	12,151,717	14,270,528	13,628,008
	本部経費	160,604	196,485	1,009,045	819,270
	人件費	44,600,408	44,452,208	48,453,677	42,447,873
	修繕費	166,388	465,275	1,083,425	1,011,948
	その他支出	0	0	0	0
	計	70,109,180	70,934,801	78,816,530	70,228,604
収支差額		0	0	0	940,572

(施設決算状況の説明)

- 1 人件費及び修繕費については、当初計画の範囲内で実費精算とし、精算後の金額を記載している。
- 2 令和元年度分より、収支差額については、当初計画を上回った場合、超過した金額の2分の1を区に返還することとし、上記決算書には返還後の金額を記載している。
- 3 指定管理料については、運営費、管理費、人件費及び修繕費の区への返還額を差し引いた金額を決算額として記載している。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、勘定科目内訳、本部経費等を確認し、会計手続が適正に行われていることが確認できた。	良好
	予算管理が適正である	収入支出とも予算差額に関する原因の分析は明確であり、予算管理は適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	経費支出は予算内で遂行され、経費の効果的活用が行われている。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目が要件を満たしており、労働環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	三期の法人決算書に基づき財務診断を行った結果、成長性、安定性、活動性・健全性は良好である。安定的・継続的な運営に当たって適正な財務力を有している。	良好

総合評価

老人福祉センターとして担うべき、生活、就労、健康等の相談及び指導に関する業務などを確実に履行している。法令基準等については、すべて適合している。利用者に対するサービスの提供は確実に履行され、財務面・労務面についても良好であり、指定管理業務は適正に行われていた。

担当所管部	
部	福祉部
課	福祉推進課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要		
施設名	名称	荒川授産場
	所在地	荒川区東尾久四丁目3番7号
指定管理者	名称	公益社団法人荒川区シルバー人材センター
	所在地	荒川区東尾久四丁目3番7号
施設開設年月日		昭和55年3月東京都から移管
現在の指定管理者による運営開始年月日		平成18年4月1日
指定期間		平成31年4月1日～令和6年3月31日（5年間）
業務内容		荒川区立授産場条例の規定に基づく業務 （１）事業に関する業務 ア：作業及びそれに必要な設備の提供に関する業務 イ：作業の相談及び指導に関する業務 （２）施設の維持管理に関する業務 ア：設備及び付属設備の保守点検に関する業務 イ：設備の清掃に関する業務 ウ：備品の管理に関する業務 エ：その他の維持管理に関する業務 （３）その他区長が特に必要と認める業務
令和元年度の事業計画		
（１）事業の運営については、今日まで培ってきた授産場運営のノウハウを生かし、利用者に適切な仕事を提供することで、生きがいづくりと健康で安定した生活を営んでもらえるよう努める。 （２）利用者の安定的な工賃確保のため、受注量の安定化に努める。 （３）利用者の健康維持のために医師による健康診断を月に2回実施するとともに、毎日体操の時間を設け、作業の安全と健康増進に努める。 （４）利用者等の個人情報保護については、緊急時対応のための情報のみを保有することとし、取扱いには常に細心の注意を払う。		
令和元年度の事業実績		
○令和元年度末利用者は、17名（30年度末利用者：16名）であった。 ○受注については8社（30年度実績8社）、受注額は7,621,808円（30年度受注額は7,601,277円で約0.27%増）であった。 ○月別平均工賃は37,180円（30年度：36,721円）、最高月は12月の80,556円（30年度：12月676,948円）、最低月は5月の19,058円（30年度：1月17,389円）であった。 ○健康管理については、毎月（第2・4火曜日）、嘱託医による問診、血圧測定等を行った。		

法令基準等への適合状況				
確認項目		適合判断		
運営基準を満たしているか				
	荒川区立授産場指定管理者業務仕様書に則して適切に運営されている	○		
	苦情を受け付けるための窓口を設置している	○		
	非常災害対策を行っている	○		
	健康管理を行っている	○		
人員配置基準を満たしているか				
	施設長を配置している	○		
	作業指導員を配置している	○		
設備基準を満たしているか				
	作業室、作業設備など基準を満たした設備を設けている	○		
		結果 適合		
その他の評価項目				
項 目	評 価	極めて 良好である	良好である	取組が行われていない、または取組が十分でない
安定した工賃確保に努めている		☒	☐	☐
利用者アンケートの結果、施設利用の満足度		☐	☒	☐
自主的な取組		☐	☒	☐
災害等に対する取組		☒	☐	☐
評価内容				
・一人当たりの平均工賃額及び受注額は、それぞれ前年度比で約１．２５％、約０．２７％増加している。 ・利用者アンケートの結果から、授産場利用継続の意向に関する問いに対する結果が、「ぜひ継続したい」と「どちらかといえば継続したい」を合わせて７６％（１７名中１３名）となっており、良好な評価を得ている。 ・節電への対応として、室内照明器具のＬＥＤ化や間引き及び空調温度の設定、昼休みの消灯等を徹底した。 ・災害対策及び新型コロナウイルス感染症に関する感染予防対策を適切に行っている。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
・利用者アンケートの満足度は良好であるが、更なる満足度向上に繋がる、より働きやすい環境づくりに努める必要がある。				

施設決算状況

年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	17,394,984	16,949,676	17,989,936	17,474,233
	その他収入	0	0	0	0
	計	17,394,984	16,949,676	17,989,936	17,474,233
支出	運営費	7,423,456	694,548	419,328	406,080
	管理費	5,965,832	6,077,416	15,134,267	14,184,157
	本部経費	1,137,844	1,108,857	1,167,355	1,111,662
	人件費	9,352,198	9,416,491	1,401,159	1,401,159
	修繕費	1,334,598	761,221	1,035,182	1,001,158
	その他支出	0	0	0	0
	計	17,394,984	16,949,676	17,989,936	16,992,554
収支差額		0	0	0	481,679

(施設決算状況の説明)

- 1 修繕費については、当初計画の範囲内で実費精算とし、精算後の金額を記載している。
- 2 令和元年度分より収支差額については、当初計画を上回った場合、超過した金額の 2 分の 1 を区に返還することとし、上記決算書には返還後の金額を記載している。
- 3 指定管理料については、運営費・管理費及び修繕費の区への返還額を差し引いた金額を決算額として記載している。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、勘定科目内訳、本部経費等を確認し、会計手続が適正に行われていることが確認できた。	良好
	予算管理が適正である	収入・支出とも予算との差額は妥当な範囲であり、予算管理は適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	授産場の管理運営費は予算内で遂行しており、経費は効果的に活用されている。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、3 6 協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目が要件を満たしており、労働環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	三期の法人決算書に基づき財務診断を行った結果、成長性、安定性、活動性・健全性は良好である。安定的・継続的な運営に当たって適正な財務力を有している。	良好

総合評価

- ・施設及び付属設備の保全については、シルバー人材センターの会員による館内日常清掃及び樹木剪定をはじめ各種設備保守を効果的、効率的に行い、適切な維持管理に努めている。
- ・法令基準についてはすべて適合している。利用者に対するサービスの提供は確実に履行され、財務・労務面についても良好であることから、指定管理業務は適正に行われていた。

担当所管部	
部	福祉部
課	高齢者福祉課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要		
施設名	名称	荒川福祉作業所
	所在地	荒川区荒川一丁目5番9号
指定管理者	名称	社会福祉法人荒川区社会福祉協議会
	所在地	荒川区南千住一丁目13番20号
施設開設年月日		昭和48年6月
現在の指定管理者による運営開始年月日		平成19年4月1日
指定期間		平成29年4月1日～令和4年3月31日
業務内容		通常の事業所に雇用されることが困難である知的障がい又は身体障がい者を対象に、福祉的就労の機会を提供するとともに、生産活動等を通じ、自立に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練等を行い、社会の一員として充実した生活ができるよう、自立援助を行う。
令和元年度の事業計画		
・利用者に対し、自立して暮らせることを目的とした支援（就労継続支援B型）と、個々の状況に応じ就労（就労移行支援事業）に向けた支援を行う。 ・就労継続支援事業B型については、利用者の特性を考慮し、作業工程を分析して、その能力や機能を高めるよう指導し、工賃収入増を図る。 ・就労移行支援事業については、利用者の状況、保護者の要望を尊重して就職指導を行い、一般企業への就職を目指す。 ・家庭及び関係機関との連携並びに地域との交流を図り、地域での自立生活を支援する。 就労継続支援事業B型：障がいにより就職が困難な方に、雇用契約を結ばず働く場所を提供。 就労移行支援事業：働くために必要な知識やスキルを習得し、就職をサポート。		
令和元年度の事業実績		
・就労継続支援事業B型42人（定員48人） 就労移行支援事業2人（定員7人） ・一人あたりの平均工賃支給目標を8千円とし、月ごとに売り上げ目標を定めて作業に取り組み、年間を通じて目標を達成した。 ・令和元年度から特別支援学校の実習生について担当職員が中心となり、各実習生ができることについて評価を行った（就労アセスメントの実施）。 ・受注作業以外に、自主生産活動を行い、各種イベントでの販売や出品等を行った。 ・就労移行支援事業では、就労支援員がハローワーク足立に同行して、求人登録等のサポートを行った。 ・50歳以上の利用者を対象に、毎日のウォーキングの実施や、食事や感染症等についての講義を企画、実施した。		

法令基準等への適合状況				
確認項目			適合判断	
運営基準を満たしているか				
	運営規定を定めており、適切に守られている	○		
	重要事項を記した説明を行い、同意を得ている	○		
人員配置基準を満たしているか				
	管理者及びサービス管理責任者を配置している	○		
	看護職員及び生活支援員等を配置している	○		
設備基準を満たしているか				
	訓練・作業室等その他運営上必要な設備を持って運営している	○		
			結果 適合	
その他の評価項目				
項 目	評 価	極めて 良好である	良好である	取組が行われていない、または取組が十分でない
利用者アンケート及び施設利用の満足度の結果		☐	☒	☐
地域交流を積極的に行っている		☒	☐	☐
災害時に対応できる取組を行っている		☒	☐	☐
評価内容				
・利用者給食アンケートでは、37人中25人（68％）が満足（19人）またはやや満足（6人）と回答している。 ・施設へのボランティアの受入れや、模擬店を交えた地域への施設公開、地元町会の清掃活動に参加する等、地域交流を積極的に行っている。 ・災害時対応では、地震及び水害の防災マニュアルを整備するほか、台風19号（令和元年10月）における利用者・建物の安全確保の実施、コロナ感染症対応ではマスク・消毒の徹底や対面での利用者同士の活動を制限するなど、災害時対応を適切に取り組んでいる。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を中心とした災害時対応を適切に実施するとともに、コロナ禍において安全対策の徹底を前提としながら、利用者の高齢化、障がいの重度化に対応したプログラムの実施や支援を行っていく必要がある。				

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	236,210,440	254,115,091	296,537,284	272,694,488
	その他収入	0	0	0	0
	計	236,210,440	254,115,091	296,537,284	272,694,488
支出	運営費	11,232,206	12,756,670	13,933,704	12,812,033
	管理費	50,523,481	52,407,696	66,146,187	64,750,590
	本部経費	43,347	20,630	2,738,836	2,102,602
	人件費	173,105,309	187,536,217	215,274,289	193,968,486
	修繕費	1,349,444	1,414,508	1,183,104	1,163,379
	その他支出	0	0	0	0
	計	236,210,440	254,115,091	296,537,284	272,694,488
収支差額		0	0	0	0

(施設決算状況の説明)

- ・収支当初計画・決算額は、荒川生活実習所を含んでいる。
- ・決算では、支出に応じて精算しており、収支に差額は生じない。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告書等が適正に作成されており、経費計算等の処理も良好である。	良好
	予算管理が適正である	予算書や事業計画に基づいて費用を執行しており、予算管理は良好である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	事業費支出の殆どの費目において、経費縮減に向けた取組の成果が見られた。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳の一覧、36協定、健康診断の受診記録等を確認した結果、全ての項目が要件を満たしており、労務環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の法人決算に基づき財務評価を行った結果、収益性に注意を要するものの、成長性、安定性、活動性・健全性に大きな問題はなく、安定的な財務力を有している。	良好

総合評価

- ・利用者満足度は概ね高く、地域交流や災害時対応についても良好に対応していること、また、健康面の配慮から高齢利用者へのウォーキングを積極的に実施するなど、適切な施設管理・運営に取り組んでいる。
- ・加えて、財務面は良好、労務面は優良であり、指定管理業務は適正であったと評価できる。

担当所管部	
部	福祉部
課	障害者福祉課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要		
施設名	名称	荒川生活実習所
	所在地	荒川区荒川一丁目5 3 番 9 号
指定管理者	名称	社会福祉法人荒川区社会福祉協議会
	所在地	荒川区南千住一丁目1 3 番 2 0 号
施設開設年月日		昭和4 8 年 6 月
現在の指定管理者による運営開始年月日		平成1 9 年 4 月 1 日
指定期間		平成2 9 年 4 月 1 日～令和4 年 3 月 3 1 日
業務内容		重度の知的障がい者を対象に社会生活の向上、地域での自立生活支援、社会参加を目的とし、日々の生活の充実と生きがいを高める支援を行う。
令和元年度の事業計画		
・グループ編成を見直し、少人数化することで、利用者が安心して快適に過ごせる環境の提供及び利用者の個別のニーズに対応した支援を進める。 ・日常的に運動やウォーキングを取り入れるとともに、理学療法士による体操やレクリエーションなど、体を動かすメニューを取り入れ、健康維持に取り組む。 ・専門家による音楽療法やアート活動、創作活動を取り入れ、利用者が豊かな経験ができるようプログラムを組む。 ・自主性・社会性の向上を目的に、利用者が役割や仕事を担う場を多く設ける。 ・所内外での利用者発表の場づくりや自主製品の販売等の充実により、利用者の自己実現の場づくり・障がい者理解・共生社会の推進を図る。		
令和元年度の事業実績		
・利用者数47人（定員47人）。新入所者1名を迎え、事業を行った。 ・障がい特性等に配慮した活動プログラム作りに取り組むことで、個々の利用者の意思決定を促進した。 ・区内の福祉作業所と連携し、商業施設等での出店を通して、自主製品の発信と販売を行った。 ・やすらいだ環境整備のためスヌーズレン機材を導入し、利用者の情緒の安定につなげた。 ・障がいの多様化や幅広い年齢層に対応するため、医療体制の確認や家庭での生活全体の支援状況の把握など、保護者との信頼関係の構築に努めた。更に、ボランティアを積極的に受け入れ、利用者の意欲向上や体験の幅を拡大する機会を増やした。		

確認項目		適合判断		
運営基準を満たしているか				
	運営規定を定めており、適切に守られている	○		
	重要事項を記した説明を行い、同意を得ている	○		
人員配置基準を満たしているか				
	管理者及びサービス管理責任者を配置している	○		
	看護職員及び生活支援員等を配置している	○		
設備基準を満たしているか				
	訓練・作業室等その他運営上必要な設備を持って運営している	○		
		結果 適合		
その他の評価項目				
項 目	評 価	極めて 良好である	良好である	取組が行われていない、または取組が十分でない
利用者アンケート及び施設利用の満足度の結果		☒	☐	☐
地域交流を積極的に行っている		☒	☐	☐
災害時に対応できる取組を行っている		☒	☐	☐
評価内容				
・利用者給食アンケートでは、40人中32人が（80％）が満足（24人）またはやや満足（8人）と回答している。 ・施設へのボランティアの受入れや、模擬店を交えた地域への施設公開、地元町会の清掃活動に参加する等、地域交流を積極的に行っている。 ・災害時対応では、地震及び水害の防災マニュアルを整備するほか、台風19号（令和元年10月）における利用者・建物の安全確保の実施、コロナ感染症対応ではマスク・消毒の徹底や対面での利用者同士の活動を制限するなど、災害時対応を適切に取り組んでいる。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
引き続き、コロナ感染症対策を中心とした災害時対応を適切に実施するとともに、コロナ禍において安全対策の徹底を前提としながら、利用者の高齢化や障がいの状況に応じた適切な支援を実施する必要がある。				

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	236,210,440	254,115,091	296,537,284	272,694,488
	その他収入	0	0	0	0
	計	236,210,440	254,115,091	296,537,284	272,694,488
支出	運営費	11,232,206	12,756,670	13,933,704	12,812,033
	管理費	50,523,481	52,407,696	66,146,187	64,750,590
	本部経費	43,347	20,630	2,738,836	2,102,602
	人件費	173,105,309	187,536,217	215,274,289	193,968,486
	修繕費	1,349,444	1,414,508	1,183,104	1,163,379
	その他支出	0	0	0	0
	計	236,210,440	254,115,091	296,537,284	272,694,488
収支差額		0	0	0	0

(施設決算状況の説明)

- ・ 収支当初計画・決算額は、荒川福祉作業所を含んでいる。
- ・ 決算では、支出に応じて精算しており、収支に差額は生じない。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告書等が適正に作成されており、経費計算等の処理も良好である。	良好
	予算管理が適正である	予算書や事業計画に基づいて費用を執行しており、予算管理は良好である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	事業費支出の殆どの費目において、経費縮減に向けた取組の成果が見られた。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳の一覧、36協定、健康診断の受診記録等を確認した結果、全ての項目が要件を満たしており、労務環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の法人決算に基づき財務評価を行った結果、収益性に注意を要するものの、成長性、安定性、活動性・健全性に大きな問題はなく、安定的な財務力を有している。	良好

総合評価

- ・ 利用者満足度は概ね高く、地域交流や災害時対応についても良好に対応していること、また利用者の自主性を高める活動の実施などサービス向上も積極的に実施しており、適切な施設管理・運営に取り組んでいる。
- ・ 加えて、財務面は良好、労務面は優良であり、指定管理業務は適正であったと評価できる。

担当所管部	
部	福祉部
課	障害者福祉課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要		
施設名	名称	尾久生活実習所本所 / 尾久生活実習所分場
	所在地	荒川区西尾久六丁目17番3号 / 荒川区西尾久四丁目6番4号
指定管理者	名称	社会福祉法人荒川区社会福祉協議会
	所在地	荒川区南千住一丁目13番20号
施設開設年月日		平成7年4月1日 / 平成14年4月1日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成18年4月1日
指定期間		平成31年4月1日～令和6年3月31日
業務内容		・重度の知的障がい者を対象に社会生活の向上、地域での自立生活支援、社会参加を目的とし、日々の生活の充実と生きがいを高める支援を行う。
令和元年度の事業計画		
・利用者の多様化したニーズにきめ細かく対応するため、グループ同士の連携を図るなど対応策を実施する。 ・スポーツや感覚刺激等テーマ型活動プログラムの促進を行う。 ・きめ細やかなサービスを提供するために、ケース会議による情報共有、専門職同士の連携の充実、職員のスキルアップに努める。 ・利用者の個別支援計画の強化を図る。 ・職員の援助技術等の専門性だけでなく、他職種の専門職が連携を図りながら、サービスを提供することで、人材育成の強化を図る。 ・福祉避難所開設・運営訓練等の災害対策を通して、災害に対する意識を高める。		
令和元年度の事業実績		
・利用者数44人（定員45人） / 分場19人（定員19人） ・活動に際し、各施設内だけではなく、本所、分場の職員同士がグループを超えて、一体的な職員体制で支援を行った。 ・ポッチャ活動やスヌーズレン活動（やすらぐ環境づくり）を充実させ、利用者の希望に応じた各クラブ活動も継続した。 ・利用者の支援について、職員のスキルアップ及び情報の共有化のため、支援会議を月1回開催。 ・個別支援計画の充実のため、施設以外の障がいサービス提供者とも連携を図り、サービス管理者担当者会議を開催した。 ・職員が積極的に外部研修に参加し、スキルアップを図った。 ・災害の想定を変えたうえで複数回避難訓練を行う等、継続的な災害対策を行った。		

法令基準等への適合状況				
確認項目			適合判断	
運営基準を満たしているか				
	運営規定を定めており、適切に守られている	○		
	重要事項を記した説明を行い、同意を得ている	○		
人員配置基準を満たしているか				
	管理者及びサービス管理責任者を配置している	○		
	看護職員及び生活支援員等を配置している	○		
設備基準を満たしているか				
	訓練・作業室等その他運営上必要な設備を持って運営している	○		
			結果 適合	
その他の評価項目				
項 目	評 価	極めて 良好である	良好である	取組が行われていない、または取組が十分でない
利用者アンケート及び施設利用の満足度の結果		☐	☒	☐
地域交流を積極的に行っている		☒	☐	☐
災害時に対応できる取組を行っている		☒	☐	☐
評価内容				
・利用者を対象としたサービス全般に関するアンケートでは、63人中45人（71％）がとても満足（15人）、ほぼ満足（30人）と回答をしている。 ・地域交流では、施設でのボランティア受入れや、模擬店を交えた地域への施設公開、地元町会や近隣保育園と連携した防災訓練を実施するなど、地域との交流を積極的に図っている。 ・災害時対応では、地震及び水害の防災マニュアルを整備するほか、台風19号（令和元年10月）における利用者・建物の安全確保の実施、新型コロナウイルス感染症対応ではマスク・消毒の徹底や対面での利用者同士の活動を制限するなど、災害時対応を適切に取り組んでいる。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を中心とした災害時対応を適切に実施するとともに、コロナ禍において安全対策の徹底を前提としながら、利用者の高齢化や障がいの状況に応じた適切な支援を実施する必要がある。				

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	245,241,039	253,885,724	300,405,233	274,566,589
	その他収入	0	0	0	0
	計	245,241,039	253,885,724	300,405,233	274,566,589
支出	運営費	12,815,086	12,868,762	16,591,793	12,619,410
	管理費	50,591,153	55,472,321	65,833,195	64,109,806
	本部経費	404,309	501,198	3,171,284	2,457,811
	人件費	176,127,694	182,404,699	213,124,775	188,021,072
	修繕費	5,707,106	3,139,942	2,041,450	3,407,953
	その他支出	0	0	0	0
	計	245,241,039	253,885,724	297,591,213	268,158,241
収支差額		0	0	2,814,020	6,408,348

(施設決算状況の説明)

- ・令和元年度より新協定となり、収支差額等の取扱いが変更となった。
 - 1 人件費については、当初計画の範囲内で実費精算している。
 - 2 修繕費については、当初計画で示している金額を超えた支出は指定管理者の負担とする。
 - 3 令和元年度分より、収支差額については、当初計画を上回った場合、超過した金額の2分の1を区に返還することとし、上記決算書には返還後の金額を記載している。
 - 4 指定管理料については、運営費・管理費・人件費の区への返還額を差し引いた金額を決算額として記載している。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告書等が適正に作成されており、経費計算等の処理も良好である。	良好
	予算管理が適正である	光熱水費等一部予算と実績の間に乖離が見られるが、原因分析が十分行われており、合理的な理由が示された。	
会計	経費の効果的活用が行われている	設備保守等多くの費目において、経費縮減に向けた取組の成果が見られた。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳の一覧、36協定、健康診断の受診記録等を確認した結果、全ての項目が要件を満たしており、労務環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の法人決算に基づき財務評価を行った結果、収益性に注意を要するものの、成長性、安定性、活動性・健全性に大きな問題はなく、安定的な財務力を有している。	良好

総合評価

- ・利用者満足度は高く、地域交流や災害時対応についても良好に対応していること、また利用者の個別支援計画を強化するなどサービス向上も積極的に実施しており、適切な施設管理・運営に取り組んでいる。
- ・加えて、財務面は良好、労務面は優良であり、指定管理業務は適正であったと評価できる。

担当所管部	
部	福祉部
課	障害者福祉課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要		
施設名	名称	障害者福祉会館（アクロスあらかわ）
	所在地	荒川区荒川二丁目５７番８号
指定管理者	名称	社会福祉法人 荒川区社会福祉協議会
	所在地	荒川区南千住一丁目１３番２０号
施設開設年月日		平成９年８月２２日
現在の指定管理者による運営開始年月日		平成２６年４月１日
指定期間		令和元年４月１日～令和６年３月３１日
業務内容		障がい者が地域の中で豊かに暮らしていくことを目指し、障がいのない方も含めた区民の幅広い交流、文化活動、情報提供の場を提供するとともに、障がい者向けの文化・教養講座、ＩＴ講習会などの各種事業を実施する。
令和元年度の事業計画		
・障がいのある方の社会参加を支援する地域の拠点に加え、福祉教育や特定相談支援（計画作成及びモニタリング）の機能を併せ持つことにより、自立と社会参加の促進を進める。 ・講座や事業、イベントの事業運営に当たっては、ニーズを的確にキャッチして企画を実施し、障がいのある方や当事者団体と連携・協力していく。 ・日々の運営や事業を通して、地元町会や障がい者団体、ボランティアとの地域の支えあいのネットワークを作る。 ・ノーマライゼーションの理念の実現に向け、長年培ってきた多くの方々や団体との協力・協働の関係を一層深める。		
令和元年度の事業実績		
・施設利用者総数62,138人（30年度63,995人） ・貸室利用件数（貸出率）：多目的ホール 1,679件（80.4％） 第一・第二会議室 1,241件（59.4％） 第三会議室 337件（32.3％） ・特定相談支援事業（計画作成及びモニタリング） 699件 ・文化・教養講座事業（料理教室、リズム体操教室等） ・ＩＴ講習会事業（障がい者向けパソコン入門講座） ・ふれあい交流事業（障がい者スポーツ交流会、区内小学校での福祉事業教育講座等） ・ばん座位体操、アクロス・連合会まつり等		

法令基準等への適合状況				
確認項目			適合判断	
運営基準を満たしているか				
	障がい者が利用しやすい施設の運営、情報収集及び提供ができています	○		
	個人情報などの管理が適正である	○		
人員配置基準を満たしているか				
	管理者を配置している（特定相談支援事業）	○		
	運営や利用サービスのために必要な職員数を配置している	○		
設備基準を満たしているか				
	運営に必要な設備及び備品等を備えている	○		
			結果 適合	
その他の評価項目				
項 目	評 価	極めて 良好である	良好である	取組が行われていない、または取組が十分でない
利用者アンケート及び施設利用の満足度の結果		☐	☒	☐
地域交流を積極的に行っている		☒	☐	☐
災害時に対応できる取組を行っている		☒	☐	☐
評価内容				
・利用状況調査では、73人中55人（75％）が大変満足（25人）、満足（30人）と回答をしている。 ・地域交流では、施設でのボランティア受入れや、模擬店・バザーを交えた地域への施設公開、地元町会や障がい者団体と連携した防災訓練を実施するなど、地域との交流を積極的に図っている。 ・災害時対応では、地震及び水害の防災マニュアルを整備するほか、台風19号（令和元年10月）における利用者・建物の安全確保の実施、新型コロナウイルス感染症対応ではマスク・消毒の徹底や利用目的の制限を実施するなど、災害時対応を適切に取り組んでいる。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を中心とした災害時対応を適切に実施するとともに、コロナ禍において安全対策の徹底を前提としながら、利用者ニーズに沿った講座等の事業展開を行う必要がある。				

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	58,535,738	61,247,544	74,610,453	65,170,213
	その他収入	0	0	0	0
	計	58,535,738	61,247,544	74,610,453	65,170,213
支出	運営費	16,385,975	15,593,203	21,565,787	12,696,429
	管理費	19,744,394	20,433,126	22,313,835	23,682,767
	本部経費	64,789	19,810	438,032	349,497
	人件費	21,775,621	23,885,803	26,734,604	24,905,441
	修繕費	629,748	1,335,412	1,582,706	1,418,146
	その他支出		0	1,979,721	1,919,422
	計	58,535,738	61,247,544	74,176,653	64,622,205
収支差額		0	0	433,800	548,008

(施設決算状況の説明)

- ・令和元年度より新協定となり、収支差額等の取扱いが変更となった。
 - 1 人件費及び修繕費については、当初計画の範囲内で実費精算している。
 - 2 令和元年度分より、収支差額については、当初計画を上回った場合、超過した金額の2分の1を区に返還することとし、上記決算書には返還後の金額を記載している。
 - 3 指定管理料については、運営費・管理費・人件費及び修繕費の区への返還額を差し引いた金額を指定管理料として記載している。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告書等が適正に作成されており、経費計算等の処理も良好である。	良好
	予算管理が適正である	旅費、消耗品費等一部予算と実績の間に乖離が見られるが、原因分析が十分行われており、合理的な理由が示された。	
会計	経費の効果的活用が行われている	通信運搬費等一部予算を上回った項目が見られた一方、賃借料や手数料等の経費削減に向けた取組の成果が見られた。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳の一覧、3 6 協定、健康診断の受診記録等を確認した結果、全ての項目が要件を満たしており、労務環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の法人決算に基づき財務評価を行った結果、収益性に注意を要するものの、成長性、安定性、活動性・健全性に大きな問題はなく、安定的な財務力を有している。	良好

総合評価

- ・利用者満足度は高く、地域交流や災害時対応についても良好に対応していること、また特定相談支援も積極的に実施しており、適切な施設管理・運営に取り組んでいる。
- ・加えて財務面は良好、労務面は優良であり、指定管理業務は適正であったと評価できる。

担当所管部	
部	福祉部
課	障害者福祉課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要		
施設名	名称	精神障害者地域生活支援センター（アゼリア）
	所在地	荒川区東尾久五丁目4 5 番 1 1 号
指定管理者	名称	社会福祉法人 トラムあらかわ
	所在地	荒川区東尾久三丁目2 0 番 1 0 号 ベルメゾンエス2 階
施設開設年月日		平成1 5 年1 月
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成1 5 年1 月
指定期間		平成3 1 年4 月1 日～令和6 年3 月3 1 日
業務内容		地域で生活する精神障がい者の日常生活の支援、相談を行い、精神障がい者の社会復帰と自立、社会参加を促進するため、憩いや地域交流ができる場を提供し、精神ボランティア活動等の拠点とする。
令和元年度の事業計画		
障がい者の日中活動をサポートする地域活動支援センターとして、精神障がい者が地域社会で生活しやすい環境づくりに努めることを基本方針に掲げて、以下の取組を行う。 ・障がい者の地域活動支援として、グループ活動や各種の講座、利用者のミーティング等を実施。 ・地域交流活動として、どなたでも参加可能な公開講座のほか、新年のつどい等のイベントを開催。 ・相談活動として、電話や面接による相談のほか、特定相談支援事業として、サービス等利用計画の作成を実施。		
令和元年度の事業実績		
以下の事業を実施した。 ・プログラム参加者数3,394人。令和2年3月は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためプログラムの一部を実施しなかった。 【実施プログラム内容等】 ・創作的・レクリエーション的活動プログラム（夕食会・デイケア等） ・自主活動的プログラム（家族学習会、同じ悩みをもった方同士のミーティング実施等） ・地域交流プログラム(ボランティア講座、利用者ミーティング、スポーツ交流祭、新年のつどい等) 【その他活動】 ・相談支援事業 相談件数26,605件 ・特定相談支援事業件数361件（26年度から開始） ・視察受入 など		

法令基準等への適合状況				
確認項目			適合判断	
運営基準を満たしているか				
	運営規定を定めており、適切に守られている	○		
	個人情報などの管理が適正である	○		
人員配置基準を満たしているか				
	施設長を配置している	○		
	指導員を2名以上配置している	○		
設備基準を満たしているか				
	創作活動の機会の提供に必要な設備及び備品等を備えている	○		
	社会との交流促進等に必要な設備及び備品等を備えている			
			結果 適合	
その他の評価項目				
項 目	評 価	極めて 良好である	良好である	取組が行われていない、または取組が十分でない
利用者アンケート及び施設利用の満足度の結果		☐	☒	☐
地域交流を積極的に行っている		☒	☐	☐
災害時に対応できる取組を行っている		☒	☐	☐
評価内容				
・利用者満足度調査では、「満足度」について44人中28人（64%）が「大変満足」（15人）または「やや満足」（13人）と回答している。 ・地域交流では、施設への地域ボランティア受入れ、クリスマス会等のイベント実施を通じた施設公開、近隣の公園清掃を実施する等、地域交流を積極的に行っている。 ・災害時対応では、地震及び水害の防災マニュアルを整備するほか、台風19号（令和元年10月）における利用者・建物の安全確保の実施、コロナ感染症対応ではマスク・消毒の徹底やプログラム人数制限や内容を変更するなど、災害時対応を適切に取り組んでいる。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
引き続き、コロナ感染症対策を中心とした災害時対応を適切に実施するとともに、コロナ禍において安全対策の徹底を前提としながら、利用者の体調及び障がいの特性に寄り添った、きめ細やかなサービスを実施する必要がある。				

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	50,028,835	51,032,067	58,898,667	60,050,761
	その他収入	0	0	0	0
	計	50,028,835	51,032,067	58,898,667	60,050,761
支出	運営費	6,667,188	7,705,973	3,000,759	3,089,636
	管理費	5,280,109	4,969,157	10,930,055	10,187,170
	本部経費	56,025	65,084	3,018,820	3,018,820
	人件費	36,798,669	37,826,914	37,036,880	37,133,013
	修繕費	1,282,869	530,023	250,000	1,042,866
	その他支出	0	0	4,680,273	5,284,216
	計	50,028,835	51,032,067	55,897,967	56,736,901
収支差額		0	0	3,000,700	3,313,860

(施設決算状況の説明)

- ・ 令和元年度より新協定となり、収支差額等の取扱いが変更となった。
 - 1 人件費、修繕費については、当初計画で示している金額を超えた支出は指定管理者の負担とする。
 - 2 令和元年度分より、収支差額については、当初計画を上回った場合、超過した金額の2分の1を区に返還することとし、上記決算書には返還後の金額を記載している。
 - 3 指定管理料については、運営費・管理費の区への返還額を差し引いた金額を決算額として記載している。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告書等が適正に作成されており、経費計算等の処理も良好である。	良好
	予算管理が適正である	家屋修繕費で予算と実績の間に乖離が見られるが、原因分析が十分行われており、合理的な理由が示された。	
会計	経費の効果的活用が行われている	委託料並びに運営費が予算を上回った一方、役務費や消耗品費等多くの費目で、経費削減に向けた取組の成果が見られた。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳の一覧、36協定、健康診断の受診記録等を確認した結果、全ての項目が要件を満たしており、労務環境は適正である。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の法人決算に基づき財務評価を行った結果、成長性及び安定性は良好で、収益性及び活動性はやや劣るものの、概ね良好であり、安定的な財務力を有している。	良好

総合評価

- ・ 利用者満足度は概ね高く、地域交流や災害時対応についても良好に対応していること、また特定相談支援も積極的に実施しており、適切な施設管理・運営に取り組んでいる。
- ・ 加えて、財務面は良好、労務面は優良であり、指定管理業務は適正であったと評価できる。

担当所管部	
部	福祉部
課	障害者福祉課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要		
施設名	名称	小台橋保育園
	所在地	荒川区東尾久八丁目 4 5 番 2 4 号
指定管理者	名称	社会福祉法人教信精舎
	所在地	荒川区西尾久六丁目 9 番 7 号
施設開設年月日		平成 1 6 年 4 月 1 日
現在の指定管理者による運営開始年月日		平成 1 6 年 4 月 1 日
指定期間		平成 3 1 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 3 1 日（令和元年度末終了） 令和 2 年 4 月 1 日より、民設民営の「小台橋保育園」として運営。
業務内容		保護者が就労、病気などのため、家庭の子どもを保育できないときに、保護者に代わって保育を行う。 （認可定員 1 5 0 名、子育て交流サロン併設） 0歳：12 1歳：24 2歳：26 3歳：26 4歳以上：62 計150名
令和元年度の事業計画		
・一人一人の子ども達が「なかま（保育園）・家庭・地域」の中で、健全な心身の発達を図り、共に育ちあえる保育を実施する。 ・施設の計画的補修、備品器具什器や園庭遊具の安全点検を実施する。また、保育室内の温度、湿度、換気、採光を適切に管理し、施設内外の設備・用具の衛生管理に努めるほか、施設内の清掃・消毒を実施し衛生状態の保持に努める。 ・職員配置については、区の配置基準に基づき配置する。職員同士の情報の共有化を心掛け、職員意識の一体化を通して保育サービスの向上に努める。施設内外研修を積極的に実施するほか、専門的分野を超えた幅広い研修機会を設ける。 ・保育目標のもと、保育計画及び評価、保育行事の積極的実施、体育遊びや異年齢交流等保育活動の実施、特別支援児保育、小学校との連携、保護者支援、健康管理及び支援、食育及び給食の実施、環境衛生と安全管理に積極的に取り組む。 ・保護者との信頼関係が基本であるとの考えから、定期的な懇親会や保育参加、個人面談等を実施し、気軽に意見要望を聞く体制づくりに努める。また、保育方針や保護者との取り決めについて職員が共通の理解・認識を持ち、全職員が丁寧に説明できる体制を確保する。 ・所管消防署との連携を図り、火災予防、震災予防訓練を実施する。安全対策としては、全職員が救命技能認定証を取得し、継続的訓練を実施するほか、AED操作や心肺蘇生法等の研修を実施する。 ・小学校との連携や中高生等との異年齢交流、保育実習生の受入れ等を通じて、地域交流を図るほか、子育て交流サロンを実施し、積極的に在宅支援を行う。		
令和元年度の事業実績		
・基本方針に則り、健全な心身の発達を図り、共に育ちあえる保育の実施に積極的に取り組んだ。 ・備品器具什器や園庭遊具の安全点検を実施する等、適切に施設の維持管理を行った。 ・区の職員配置基準に基づき適切に職員を配置したほか、保育や給食等の職員研修について積極的な実施に努めた。 ・保育サービスについて、保育行事の積極的実施、体育遊びや異年齢交流等、計画どおり適切に実施した。 ・利用者からの意見や苦情、また事故等に対して、定期的な懇談会や保育参加、個人面談等、適切に対応した。 ・所管消防署と連携し火災予防等の訓練の実施、全職員の救命技能認定証の取得等、適切に危機管理を行った。 ・地域への取組について、小中高校との連携や子育て交流サロン事業を実施し、積極的に取り組んだ。		

法令基準等への適合状況		
確認項目		適合判断
運営基準を満たしているか		
国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「保育所保育指針」等）に基づいた運営を行っている。		○
都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた運営を行っている。		○
区基準（「荒川区個人情報保護条例」、「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた運営を行っている。		○
人員配置基準を満たしているか		
国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○
都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○
区基準（「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○
設備基準を満たしているか		
国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」等）に基づいた設備を整えている。		○
都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた設備を整えている。		○
区基準（「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた設備を整えている。		○
		結果 適合

その他の評価項目			
項 目	評 価	極めて 良好である	良好である
適正な設備・施設管理を実践するほか、エコ活動の推進等、環境に配慮した運営を務めている。		☒	☐
区内事業者の活用や区民の雇用に努める等、地域との関わりづくりに取り組んでいる。		☒	☐
地域環境や立地条件を活かした保育の実施により、地域間・世代間の交流を図っている。		☒	☐
子ども主体の生活や遊びがより豊かに展開されるような環境づくり・乳幼児との関わりに取り組んでいる。		☒	☐
利用者アンケートの実施や、保護者とのコミュニケーションの中で、子どもの育ちを積極的に伝える等、保護者からの満足度向上や信頼関係の構築に努めている。		☒	☐
保育中の事故防止のための方針を整備し、職員間での共通理解を進める等、安全な保育環境の構築に努めている。		☒	☐
台風や地震等の自然災害による被害に対し、災害時マニュアルを整備する等、緊急時の的確かつ迅速な対応に努めている。		☒	☐
新型コロナウイルス感染症に対し、児童及び職員への適切な感染防止策に取り組んでいる。		☒	☐

評価内容

- ・事業計画の達成度は100%で、極めて良好である。
- ・適正に施設・整備管理を実施している。またエコ活動の推進等、環境に配慮した運営を着実に実施している。
- ・区民雇用率54.5%と、極めて良好である。
- ・小中高生との異年齢交流等の地域交流を積極的に行っている。
- ・子どもの目線に玩具を設置したり、遊びを楽しめるコーナーを設置し、子ども自らがやりたい遊びを選べるような環境づくりを実施している。また、日々の中で保育士が子どもと関わる時「主体性を誘発」する言葉を積極的にかけるように配慮している。
- ・利用者満足度は83.3%（第三者評価）となっている。
- ・保護者に口頭で活動内容を伝えたり、迎え時に写真で保育内容を見せる工夫をしている。また、保護者がいつでも声を掛けやすい雰囲気を作り、更に保護者からの話を職員が連携できるような体制をとっている。
- ・事故発生防止指針、保育安全マニュアル、事故防止チェックリストを作成し、定期的に点検を行っている。散歩の際は、公園等の目的地に到着時と出発時に保育園へ電話連絡をし、園児の居場所確認を行っている。
- ・通報・消火・避難訓練マニュアルと避難確保計画を作成し、職員に周知している。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染防止策について、区の指導を受け適切に対応している。

より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等

近隣の中高生による職場体験の受け入れなど地域間・世代間の交流を積極的に行っている。引き続き同取組みを継続すると共に、園で実施している体操指導員による体操教室やリトミックなど特色ある保育内容について更なる充実を図ってもらいたい。

施設決算状況

年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	254,272,634	256,030,117	251,270,000	251,267,817
	その他収入	11,343,276	11,679,519	11,552,054	11,549,881
	計	265,615,910	267,709,636	262,822,054	262,817,698
支出	運営費	27,226,261	27,148,559	21,590,000	21,409,136
	管理費	10,148,902	12,513,956	15,634,000	15,491,416
	本部経費	—	—	—	—
	人件費	201,703,205	197,635,503	201,414,000	201,332,969
	修繕費	129,600	1,198,880	370,000	368,500
	その他支出	2,332,200	2,245,800	2,318,368	2,317,268
	計	241,540,168	240,742,698	241,326,368	240,919,289
収支差額		24,075,742	26,966,938	21,495,686	21,898,409
(施設決算状況の説明)					
・収支差額については、国の経理等基準に基づき、積立資産に積み立てている。 ・その他収入には、子育てサロン事業の委託費を含んでいる。					

財務・労務評価表			
評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告書など審査した結果、会計処理は適正に行われている。	優良
	予算管理が適正である	予算書や事業計画に基づき費用を管理している。予算・実績の差異は2 %以内であり、適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	前年度と比較して人員配置を多くしたので、人件費が増加しているが効果的活用が行われている。	優良
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目で要件を満たしている。また、新型コロナウイルス感染症による休園・自粛の際の勤務体制や賃金の支払いについても適正な対応が取られている。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業法人の三期の決算書に基づいて財務評価を行った結果、収益性、成長性、安定性、活動性・健全性等が優れているので、安定した運営を行う財務力を有している。	優良

総合評価	
サービス面、財務・労務面は優良であり、法人の財務力も優良であるため、指定管理業務は適正であったと評価できる。	

担当所管部	
部	子ども家庭部
課	保育課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要		
施設名	名称	上尾久保育園
	所在地	荒川区西尾久八丁目 1 0 番 1 2 号
指定管理者	名称	社会福祉法人上智社会事業団
	所在地	荒川区町屋四丁目 9 番 1 0 号
施設開設年月日		昭和 5 7 年 4 月 1 日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成 1 8 年 4 月 1 日
指定期間		平成 3 1 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 3 1 日
業務内容		保護者が就労、病気などのため、家庭の子どもを保育できないときに、保護者に代わって保育を行う。 (認可定員 1 0 0 名) 0歳：11 1歳：15 2歳：18 3歳：18 4歳以上：38 計100名
令和元年度の事業計画		
・発達段階をふまえ、養護と教育を一体的に行い、家庭と連絡を取りながら、心身ともに健全で調和の取れた人格を形成する。 ・設備の補修、点検をきめ細やかに実施する。また、園舎、園庭、遊具等の危険箇所の点検を常に行い、安全性向上に心掛ける。 ・職員配置については、区の配置基準に基づき配置する。研修については、仕事を通じての研修を中心に据え、研修後は報告レポートにより、職員全員が成果を共有できるよう努める。 ・乳幼児が初めての集団生活で、「食事・睡眠・排泄」ができ、物事に対する善悪の判断や人に対する優しさ、いのちの尊さを大切にし、人の心の中で力強く自分を見つめ、心豊かな保育を実践し、地域の中で育つ子どもがいきいきと健やかに育つよう、質の向上の評価プロセスまた保護者満足度を把握し、魅力ある保育を目指す。 ・事故発生時には、法人関連の医療機関で迅速に対応する。また、苦情に対して迅速かつ適切に対応するため、苦情解決マニュアルを配置するほか、苦情箱を設置し、改善策を園内に掲示する等、積極的な対応を図る。 ・年間計画をたて、毎月避難訓練を行うほか、年 2 回、尾久消防署の来訪指導を受ける。非常用備蓄食品を計画的に購入し、災害に備える。法人全体として、個人情報保護規定を作成し、職員から個人情報保護に関する誓約書を徴収し、適切な管理を行う。 ・社会的責任を認識し、リスクマネジメント、インシデントレポート、緊急時対応、地域とのつながり強化等を確実に実施する。 ・地域に向けた情報発信、広報を行う。運動会、敬老会等に地域住民を招待するほか、通所サービスセンターの高齢者との交流会を実施する。法人関連の医療機関による小児健康相談を積極的に実施する。		
令和元年度の事業実績		
・基本方針に則り、養護と教育を一体的に行い、心身ともに健全で調和のとれた人格の形成に積極的に取り組んだ。 ・設備の補修・点検を実施し、園舎、園庭、遊具等の危険箇所の点検を常に行い、適切に施設の維持管理を行った。 ・区の配置基準に基づき適切に職員を配置したほか、積極的な研修の実施と報告による知識の共有に努めた。 ・保育サービスについて、心豊かな保育と保護者の満足度の把握を適切に実施した。 ・利用者からの意見や苦情についてマニュアルの作成や苦情箱の設置をし、事故等に対して適切に対応した。 ・毎月の避難訓練の実施やインシデントレポートの作成、個人情報の適正な管理等、適切な危機管理を行った。 ・地域への取組について、情報発信や地域の高齢者との交流等、積極的な事業実施に取り組んだ。		

法令基準等への適合状況		
確認項目		適合判断
運営基準を満たしているか		
国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「保育所保育指針」等）に基づいた運営を行っている。		○
都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた運営を行っている。		○
区基準（「荒川区個人情報保護条例」、「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた運営を行っている。		○
人員配置基準を満たしているか		
国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○
都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○
区基準（「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○
設備基準を満たしているか		
国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」等）に基づいた設備を整えている。		○
都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた設備を整えている。		○
区基準（「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた設備を整えている。		○
		結果 適合

その他の評価項目			
項 目	評 価	極めて良好である	良好である
適正な設備・施設管理を実践するほか、エコ活動の推進等、環境に配慮した運営を務めている。	☒	☐	☐
区内事業者の活用や区民の雇用に努める等、地域との関わりづくりに取り組んでいる。	☒	☐	☐
地域環境や立地条件を活かした保育の実施により、地域間・世代間の交流を図っている。	☒	☐	☐
子ども主体の生活や遊びがより豊かに展開されるような環境づくり・乳幼児との関わり合いに取り組んでいる。	☒	☐	☐
利用者アンケートの実施や、保護者とのコミュニケーションの中で、子どもの育ちを積極的に伝える等、保護者からの満足度向上や信頼関係の構築に努めている。	☒	☐	☐
保育中の事故防止のための方針を整備し、職員間での共通理解を進める等、安全な保育環境の構築に努めている。	☒	☐	☐
台風や地震等の自然災害による被害に対し、災害時マニュアルを整備する等、緊急時の的確かつ迅速な対応に努めている。	☒	☐	☐
新型コロナウイルス感染症に対し、児童及び職員への適切な感染防止策に取り組んでいる。	☒	☐	☐

評価内容

- ・事業計画の達成度は100%で、極めて良好である。
- ・適正に施設・整備管理を実施している。またエコ活動の推進等、環境に配慮した運営を着実に実施している。
- ・区民雇用率は50.1%で、極めて良好である。
- ・高齢者施設への訪問や近隣の保育施設、地域住民との交流を積極的に行っている。
- ・子どもが「自分で」と行動し、じっくり取り組み「できた」という自信が持てるように、子どもの思いを聞き取り、興味・関心に寄り添い対応と見守りをしている。
- ・利用者満足度は88.2%（第三者評価）となっている。また、行事の際にアンケート調査を行っている。
- ・行事があった際は、写真の掲示やクラス便りで知らせている。保護者会等でも映像を流している。
- ・保護者に対して、子どもの成長や発達の過程等を丁寧に説明することを心掛けている。
- ・事故防止や事故発生時の対応マニュアルやヒヤリハットを職員と共有し、安全性を心掛けた保育に努めている。散歩時には、公園の危険個所を確認、マニュアルも確認し、職員に周知している。
- ・避難訓練マニュアルを作成し、年に一度マニュアルを改定している。避難確保計画について作成済みである。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染防止策について、区の指導を受け適切に対応している。

より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等

法人の系列園と合同で特別養護老人ホームを訪問したり、お遊戯会に地域の方を招くなど、地域間・世代間の交流を積極的に行っている。引き続き同取組みの継続に努めてもらいたい。

施設決算状況

年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	227,510,484	230,550,592	219,700,000	219,687,083
	その他収入	1,470,750	1,435,250	1,710,000	1,723,800
	計	228,981,234	231,985,842	221,410,000	221,410,883
支出	運営費	18,234,771	19,329,561	16,830,000	17,032,261
	管理費	5,018,341	3,848,559	4,115,000	4,194,076
	本部経費	—	—	—	—
	人件費	153,961,630	150,694,097	145,670,000	145,664,564
	修繕費	1,350,260	507,870	1,700,000	1,636,684
	その他支出	1,295,207	1,260,155	1,300,000	1,210,673
	計	179,860,209	175,640,242	169,615,000	169,738,258
収支差額		49,121,025	56,345,600	51,795,000	51,672,625

(施設決算状況の説明)

- ・収支差額については、国の経理等基準に基づき、積立資産に積み立てている。

財務・労務評価表			
評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告書など審査した結果、会計処理は適正に行われている。	優良
	予算管理が適正である	予算書や事業計画に基づき費用を管理している。予算・実績の差異は2%以内であり、適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	前年度に比べ収入は減少、費用は人件費、事業費を減少させた予算であり、経費は概ね当初計画とほぼ等しく効果的活用が行われている。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目で要件を満たしている。また、新型コロナウイルス感染症による休園・自粛の際の勤務体制や賃金の支払いについても適正な対応が取られている。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業法人の三期の決算書に基づいて財務評価を行った結果、安定性、活動性・健全性が優れていて、収益性、成長性が良好であり、安定した運営を行う財務力を有している。	優良

総合評価

サービス面、財務・労務面は優良であり、法人の財務力も優良であるため、指定管理業務は適正であったと評価できる。

担当所管部	
部	子ども家庭部
課	保育課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要		
施設名	名称	南千住さくら保育園
	所在地	荒川区南千住四丁目 9 番 4 号
指定管理者	名称	社会福祉法人上智社会事業団
	所在地	荒川区町屋四丁目 9 番 1 0 号
施設開設年月日		平成 1 2 年 4 月 1 日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成 1 8 年 4 月 1 日
指定期間		平成 3 1 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 3 1 日
業務内容		保護者が就労、病気などのため、家庭の子どもを保育できないときに、保護者に代わって保育を行う。 (認可定員 1 1 0 名) 0歳：12 1歳：18 2歳：20 3歳：20 4歳以上：40 計110名
令和元年度の事業計画		
・児童の最善の幸福を考慮し、家庭や地域社会と連携を持ち心身ともに健康で調和のとれた発達を目指す。 ・設備の補修、点検をきめ細やかに実施する。また園舎、園庭、遊具等の危険箇所の点検を行い、安全性向上に心掛ける。 ・職員配置については、区の配置基準に基づき配置する。研修については、仕事を通じての研修を中心に据え、研修後は報告レポートにより、職員全員が共有できるように努める。労務問題も知識の共有化を図る。 ・家庭や地域社会との連携を図り、保護者の協力のもとに家庭養育の補填を行い、子どもが健康かつ安全で情緒の安定した生活が送れる環境を用意し、自己を十分に発揮しながら活動できるように、健全な心身の発達を図り、豊かな人間性を培えるよう努める。また、地域に根差した保育運営を充実させるとともに、保育の質の向上のための評価プロセス、保護者満足度の把握にも努める。 ・事故発生時には、法人関連の医療機関で迅速に対応する。また、苦情に対して迅速かつ適切に対応するため、苦情解決マニュアルを配置するほか、苦情箱を設置し、改善策を園内に掲示する等、積極的な対応を図る。 ・年間計画を立て、毎月避難訓練を行うほか、年 2 回、荒川消防署（汐入出張所）の来訪指導を受ける。法人全体として、個人情報保護規定を作成し、職員から個人情報保護に関する誓約書を徴収し、適切な管理を行う。社会的責任を認識し、リスクマネジメント、インシデントレポート、緊急時対応、地域とのつながり強化等を確実に実施する。 ・地域に向けた情報発信、広報を行う。夏祭り、運動会、高齢者との交流会等に地域住民を招くことで、地域とともに子育てを支援する体制を強化する。法人関連の医療機関による小児健康相談を積極的に実施する。		
令和元年度の事業実績		
・基本方針に則り、家庭や地域社会と連携を持ち心身ともに健康で調和のとれた発達を目指す保育に積極的に取り組んだ。 ・施設の補修・点検の実施や園舎、園庭、遊具等の危険箇所の点検を常に行い、適切に施設の維持管理を行った。 ・区の職員配置基準に基づき適切に職員を配置したほか、積極的に研修を実施し報告による知識の共有に努めた。 ・保育サービスについて、豊かな人間性を持った子どもの育成と保護者の満足度の把握を計画どおり適切に実施した。 ・利用者からの意見や苦情に対してマニュアルの作成や苦情箱の設置をし、また事故等に対して適切に対応した。 ・毎月の避難訓練の実施や、インシデントレポートの作成、個人情報の適正な管理等、適切な危機管理を行った。 ・地域への取組について、情報発信や地域の高齢者との交流等、積極的な事業実施に取り組んだ。		

法令基準等への適合状況		
確認項目		適合判断
運営基準を満たしているか		
国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「保育所保育指針」等）に基づいた運営を行っている。		○
都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた運営を行っている。		○
区基準（「荒川区個人情報保護条例」、「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた運営を行っている。		○
人員配置基準を満たしているか		
国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○
都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○
区基準（「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○
設備基準を満たしているか		
国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」等）に基づいた設備を整えている。		○
都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた設備を整えている。		○
区基準（「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた設備を整えている。		○
		結果 適合

その他の評価項目			
項 目	評 価	極めて 良好である	良好である
適正な設備・施設管理を実践するほか、エコ活動の推進等、環境に配慮した運営を務めている。		☒	☐
区内事業者の活用や区民の雇用に努める等、地域との関わりづくりに取り組んでいる。		☐	☒
地域環境や立地条件を活かした保育の実施により、地域間・世代間の交流を図っている。		☒	☐
子ども主体の生活や遊びがより豊かに展開されるような環境づくり・乳幼児との関わり合いに取り組んでいる。		☒	☐
利用者アンケートの実施や、保護者とのコミュニケーションの中で、子どもの育ちを積極的に伝える等、保護者からの満足度向上や信頼関係の構築に努めている。		☒	☐
保育中の事故防止のための方針を整備し、職員間での共通理解を進める等、安全な保育環境の構築に努めている。		☒	☐
台風や地震等の自然災害による被害に対し、災害時マニュアルを整備する等、緊急時の的確かつ迅速な対応に努めている。		☒	☐
新型コロナウイルス感染症に対し、児童及び職員への適切な感染防止策に取り組んでいる。		☒	☐

評価内容

- ・事業計画の達成度は100%で、極めて良好である。
- ・適正に施設・整備管理を実施している。また、エコ活動の推進等、環境に配慮した運営を着実に実施している。
- ・区民雇用率は24.4%で、良好である。
- ・高齢者施設への訪問や小中高生との異年齢交流、近隣の保育施設、地域住民との交流を積極的に行っている。
- ・棚の配置を工夫し、興味を持った玩具や絵本を手に取りやすくすることで感性を刺激し、遊びのコーナーを設置し、ひとつの遊びに集中できるような環境を整備している。「自分で」という思いをくみ取り、尊重しながら援助をして暖かく見守ることで、じっくりと取り組み、出来た自信が持てるようにしている。
- ・利用者満足度は90.3%（第三者評価）となっている。
- ・遠足や園外保育の実施後は各クラスと園庭の掲示板に写真を掲示し、園行事の理解を図っている。
- ・親子参加行事中には、可能な限り職員が保護者一人ひとりに声をかけ、コミュニケーションを図っている。
- ・日常点検、安全配慮チェックリストを定期的の実施することで、危険個所から事故に発展させないようにしている。週に一回の会議でヒヤリハットを共有している。
- ・避難訓練マニュアルの作成と年に一度マニュアルの見直しを実施している。年に一度地域の合同避難訓練に参加し、周辺施設との連携を図っている。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染防止策について、区の指導を受け適切に対応している。

より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等

法人の系列園と合同で特別養護老人ホームを訪問したり、地域の保育園・幼稚園と合同で交流するなど、地域間・世代間の交流を積極的に行っている。引き続き同取組みを継続するとともに、棚の配置や玩具の置き場所を工夫する等、子どもの興味や感性を刺激するような環境づくりを更に進めてもらいたい。

施設決算状況

年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	234,394,793	230,507,586	221,000,000	220,003,358
	その他収入	1,507,250	1,470,250	1,650,000	1,669,800
	計	235,902,043	231,977,836	222,650,000	221,673,158
支出	運営費	19,721,814	24,552,004	20,000,000	20,144,696
	管理費	5,671,596	3,486,784	4,587,000	4,512,827
	本部経費	—	—	—	—
	人件費	159,444,192	160,025,962	149,035,000	149,025,306
	修繕費	726,169	1,684,142	6,600,000	6,456,918
	その他支出	1,365,618	1,413,830	1,300,000	1,254,415
	計	186,929,389	191,162,722	181,522,000	181,394,162
収支差額		48,972,654	40,815,114	41,128,000	40,278,996

(各費目内容・改善すべき点等)

- ・収支差額については、国の経理等基準に基づき、積立資産に積み立てている。

財務・労務評価表			
評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告書など審査した結果、会計処理は適正に行われていた。	優良
	予算管理が適正である	予算書や事業計画に基づき費用を管理している。予算・実績の差異は3%以内であり、適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	収支差は昨年度とほぼ同じとなっている。経費は概ね当初計画とほぼ等しく、経費の効果的活用が行われている。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目で要件を満たしている。また、新型コロナウイルス感染症による休園・自粛の際の勤務体制や賃金の支払いについても適正な対応が取られている。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業法人の三期の決算書に基づいて財務評価を行った結果、安定性、活動性・健全性が優れていて、収益性、成長性は良好であり、安定した運営を行う財務力を有している。	優良

総合評価	
サービス面、財務・労務面は優良であり、法人の財務力も優良であるため、指定管理業務は適正であったと評価できる。	

担当所管部	
部	子ども家庭部
課	保育課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要		
施設名	名称	汐入とちのき保育園
	所在地	荒川区南千住八丁目 3 番 3 号
指定管理者	名称	社会福祉法人東京都福祉事業協会
	所在地	北区王子二丁目 1 9 番 2 1 号
施設開設年月日		平成 1 2 年 4 月 1 日
現在の指定管理者による運営開始年月日		平成 1 8 年 4 月 1 日
指定期間		平成 3 1 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 3 1 日
業務内容		保護者が就労、病気などのため、家庭の子どもを保育できないときに、保護者に代わって保育を行う。 (認可定員 1 1 0 名) 0歳：15 1歳：19 2歳：20 3歳：20 4歳以上：36 計110名
令和元年度の事業計画		
・一人ひとりの子どもの最善の利益を考慮し、子どもの個性をのばして豊かな人間性が育つよう援助する。また、地域の人々や関係機関とともに子育てを支援し、地域で子どもを育てる環境づくりに努める。 ・園庭を整備し、安全で安らぎのある場として整える。また、保育室や備品類等が使いやすいよう工夫し、子どもが安心して生活できるよう環境を整える。 ・職員配置については、区の配置基準に基づき配置する。研修については、職員それぞれの段階に応じて必要な専門知識、技術を身に付けられるよう工夫するほか、研修成果の報告・共有化を図る。 ・子どもたち一人ひとりと丁寧に向き合い、受け止め、愛おしい存在として認める環境を用意し、その中で様々な心の動きを体験し、自信・満足感・意欲を持ち、互いに育ちあえる保育の援助を行う。また、保護者との信頼関係をしっかりと結ぶことを心掛けるほか、地域に根差した保育園を目指す。 ・アンケートの実施や意見箱の設置等により、利用者意見をくみ取るよう努める。苦情に対しては、対応マニュアルの整備等により、適切に対応する。 ・月 1 回以上の防災安全点検、避難訓練、初期消火訓練、応急救護、AED訓練等を実施する。事故未然防止策、ヒヤリハット事例を職員間で共有し、怪我等を未然に防げるよう努める。法人全体の個人情報保護規定の会議での読み合わせや個人情報保護研修を実施する。 ・卒園児の子育てボランティアや父親の子育て参加をはじめとして、子育てを社会全体で支援するため、地域の老人会、小中学校との交流、子どもに携わる施設との交流を積極的に行う。		
令和元年度の事業実績		
・基本方針に則り、子どもの個性をのばして豊かな人間性が育つよう援助する保育に積極的に取り組んだ。 ・園庭の整備や保育室・備品を使いやすいように工夫し安心して生活できる環境を整え、適切に施設の維持管理を行った。 ・区の配置基準に基づき適切に職員を配置したほか、段階に応じた専門知識の取得をし積極的な研修の実施に努めた。 ・保育サービスについて、自信・満足感・意欲を持ち互いに育ちあえる保育の援助を計画どおり適切に実施した。 ・利用者からの意見や苦情について、マニュアルの整備・アンケートの実施を行い、事故等に対しても適切に対応した。 ・月一回以上の防災安全点検・避難訓練・初期消火訓練・応急救護・AED訓練等を実施し、適切に危機管理を行った。 ・地域への取組について、子育てを社会全体で支援するため、老人会や小中学校と交流し、積極的な事業実施に取り組んだ。		

法令基準等への適合状況				
確認項目			適合判断	
運営基準を満たしているか				
	国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「保育所保育指針」等）に基づいた運営を行っている。		○	
	都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた運営を行っている。		○	
	区基準（「荒川区個人情報保護条例」、「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた運営を行っている。		○	
人員配置基準を満たしているか				
	国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○	
	都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○	
	区基準（「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○	
設備基準を満たしているか				
	国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」等）に基づいた設備を整えている。		○	
	都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた設備を整えている。		○	
	区基準（「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた設備を整えている。		○	
			結果 適合	
その他の評価項目				
項 目	評 価	極めて 良好である	良好である	取組が行われていない、または取組が十分でない
適正な設備・施設管理を実践するほか、エコ活動の推進等、環境に配慮した運営を務めている。		☒	☐	☐
区内事業者の活用や区民の雇用に努める等、地域との関わりづくりに取り組んでいる。		☒	☐	☐
地域環境や立地条件を活かした保育の実施により、地域間・世代間の交流を図っている。		☒	☐	☐
子ども主体の生活や遊びがより豊かに展開されるような環境づくり・乳幼児との関わりに取り組んでいる。		☒	☐	☐
利用者アンケートの実施や、保護者とのコミュニケーションの中で、子どもの育ちを積極的に伝える等、保護者からの満足度向上や信頼関係の構築に努めている。		☒	☐	☐
保育中の事故防止のための方針を整備し、職員間での共通理解を進める等、安全な保育環境の構築に努めている。		☒	☐	☐
台風や地震等の自然災害による被害に対し、災害時マニュアルを整備する等、緊急時の的確かつ迅速な対応に努めている。		☒	☐	☐
新型コロナウイルス感染症に対し、児童及び職員への適切な感染防止策に取り組んでいる。		☒	☐	☐

評価内容

- ・事業計画の達成度は、100%で、極めて良好である。
- ・適正に施設・設備管理を実施している。また、エコ活動の推進等、環境に配慮した運営を着実に実施している。
- ・区民雇用率は34.4%で、良好である。
- ・行事を地域に開放し、高齢者や子育て家庭等の交流を積極的に行っている。
- ・乳児クラスのコーナー遊びを充実させている。好きな玩具を子どもが出して遊んだり、好きな玩具を求めてクラスに遊びに行くようにしている。また、好きな場所・友達と遊ぶことで異年齢と関わっている。
- ・利用者満足度は83.5%（第三者評価）となっている。また、行事ごとにアンケート調査を実施している。
- ・お知らせボードを記入し、一日の様子をクラス前に掲示している。行事の際は、写真入りで「お知らせ」を掲示している。お散歩マップを作成し、保護者向けに掲示している。
- ・月一回の安全点検やヒヤリハットを活用し毎月職員に周知をしている。緊急性の高いものは、朝・夕礼などで必ず報告、連絡ノートに記載し全職員に周知を行う。
- ・防災マニュアルの作成・訓練を実施、毎年見直しを行っている。避難確保計画は作成済みである。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染防止策について、区の指導を受け適切に対応している。

より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等

地域の保育園、幼稚園との交流会や、地域の老人会を園のイベントに招待する等、地域間・世代間の交流を積極的に行っている。引き続き同取組みを継続すると共に、コーナー保育を充実させる等、子どもの自主性を促す環境づくりを推進してもらいたい。

施設決算状況

年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	238,634,504	238,820,980	237,350,000	242,432,586
	その他収入	3,296,206	3,387,692	3,918,000	3,869,541
	計	241,930,710	242,208,672	241,268,000	246,302,127
支出	運営費	26,045,673	23,856,094	23,810,000	23,556,725
	管理費	14,069,582	16,105,219	17,400,000	18,448,912
	本部経費	—	—	—	—
	人件費	171,970,844	173,004,993	195,504,000	193,214,583
	修繕費	1,734,144	6,221,108	4,260,000	3,687,802
	その他支出	2,731,633	2,680,650	2,850,000	2,875,250
	計	216,551,876	221,868,064	243,824,000	241,783,272
収支差額		25,378,834	20,340,608	- 2,556,000	4,518,855

(施設決算状況の説明)

- ・収支差額については、国の経理等基準に基づき、積立資産を積み立てている。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告書など審査した結果、会計処理は適正に行われていた。	良好
	予算管理が適正である	予算と実績差異は3%以内であり、予算管理は適正である。但し、収支差額については予算がマイナスであったが、実績はプラスになっている。	
会計	経費の効果的活用が行われている	多様な保育ニーズに対応するための非常勤職員の採用により人件費が増加している。経費の効果的活用は行われている。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目で要件を満たしている。また、新型コロナウイルス感染症による休園・自粛の際の勤務体制や賃金の支払いについても適正な対応が取られている。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業法人の三期の決算書に基づいて財務評価を行った結果、収益性に課題があるが、安定性、活動性・健全性等が優れているので、安定した運営を行う財務力を有している。	良好

総合評価

サービス面、労務面は優良であり、財務面及び法人の財務力も良好であるため、指定管理業務は適正であったと評価できる。

担当所管部	
部	子ども家庭部
課	保育課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要		
施設名	名称	はなみずき保育園
	所在地	荒川区南千住八丁目 5 番 5 号
指定管理者	名称	株式会社こどもの森
	所在地	国分寺市光町二丁目 5 番 1 号
施設開設年月日		平成 1 8 年 4 月 1 日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成 2 8 年 4 月 1 日
指定期間		平成 2 8 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 3 1 日
業務内容		保護者が就労、病気などのため、家庭の子どもを保育できないときに、保護者に代わって保育を行う。 (認可定員 1 5 0 名) 0歳：12 1歳：20 2歳：24 3歳：31 4歳以上：63 計150名
令和元年度の事業計画		
・子ども、保護者、行政すべてがより良い状況を築けるように四つの方針に取り組む。 使いやすく質のよい保育の実施、 使いやすい保育サービスの提供、 待機児童の解消、 財政負担の軽減 ・全職員で環境整備に取り組み、事故や怪我の予防につながる施設の適正な維持管理に努めるほか、職員の環境整備への意識向上のため、専門講師による環境整備の研修を定期的を実施する。 ・職員の配置については、区の配置基準に基づき配置する。また、グループ力を活かした他園見学や経験別研修等を実施、スタッフシートを活用し、管理職による一般職員の育成を図る。 ・保育所保育指針に沿った保育方針を基本とし、一人ひとりの生きる力を育て「輪・和の保育」を創造することを理念として実施。また、食育の推進、地域間・世代間交流の実施、父親の子育てに対する意識喚起、在宅育児支援等、積極的に行う。専門家による英語、音楽、体育指導等を通して、子どもが多く体験ができる機会を設ける。 ・ご意見箱の設置等により、保護者の声を様々な方法で受け付ける。また、苦情に対しては、迅速な対応を心掛け、誠意を持って対応するとともに、苦情簿の整備や第三者委員の設置、定期的な保護者へのアンケート調査等を行い、運営面の改善に努めている。 ・全職員に対する危機管理や事故防止マニュアルの遵守の徹底を図るほか、怪我・ヒヤリハット事例等の情報を得ることで、怪我・事故防止に役立てる。また、事故・災害発生時に法人本部、地域の関係機関と連携する体制を強化する。避難訓練を毎月実施するほか、有事における保護者への情報伝達として災害伝言掲示板等のメールサービスを活用する。 ・開かれた保育所として、行事の開放や共同実施、世代間交流を図るほか、幼稚園、子ども園、保育園の交流会や自治会行事へ積極的に参加する。また、地域活動を実施し、育児相談、育児講座、情報提供等を積極的に展開する。 ・光熱水費等は前年度の金額を基に予算管理を行うほか、備品購入にあたっては、複数業者から見積もりを取り、経費削減に努める。また、職員会議等で前年対比を周知し、全職員がコスト意識を持った運営を行うようにする。		
令和元年度の事業実績		
・基本方針に則り、質のよい保育の実施、使い易いサービスの提供等に積極的に取り組んだ。 ・職員全体で環境整備に取り組み、事故や怪我の予防につながる施設の適切な維持管理を行った。 ・区の配置基準に基づき適切に職員を配置したほか、他園見学や経験別研修等、積極的に研修を実施した。 ・保育サービスについて「輪・和の保育」の創造を理念とした保育や食育の推進・世代間交流等計画どおり適切に実施した。 ・利用者からの意見や苦情について、ご意見箱の設置やアンケートの実施を行い、また、事故等に対しても適切に対応した。 ・職員に対して危機管理・事故防止マニュアル遵守の徹底や他園との連携を図る等、適切な危機管理を行った。 ・地域への取組について、地域に開かれた保育所として行事の開放や世代間交流を図る等、積極的な事業実施に取り組んだ。		

法令基準等への適合状況		
確認項目		適合判断
運営基準を満たしているか		
国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「保育所保育指針」等）に基づいた運営を行っている。		○
都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた運営を行っている。		○
区基準（「荒川区個人情報保護条例」、「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた運営を行っている。		○
人員配置基準を満たしているか		
国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○
都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○
区基準（「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○
設備基準を満たしているか		
国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」等）に基づいた設備を整えている。		○
都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた設備を整えている。		○
区基準（「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた設備を整えている。		○
		結果 適合

その他の評価項目			
項 目	評 価	極めて 良好である	良好である
適正な設備・施設管理を実践するほか、エコ活動の推進等、環境に配慮した運営を務めている。		☒	☐
区内事業者の活用や区民の雇用に努める等、地域との関わりづくりに取り組んでいる。		☐	☒
地域環境や立地条件を活かした保育の実施により、地域間・世代間の交流を図っている。		☒	☐
子ども主体の生活や遊びがより豊かに展開されるような環境づくり・乳幼児との関わりに取り組んでいる。		☒	☐
利用者アンケートの実施や、保護者とのコミュニケーションの中で、子どもの育ちを積極的に伝える等、保護者からの満足度向上や信頼関係の構築に努めている。		☒	☐
保育中の事故防止のための方針を整備し、職員間での共通理解を進める等、安全な保育環境の構築に努めている。		☒	☐
台風や地震等の自然災害による被害に対し、災害時マニュアルを整備する等、緊急時の的確かつ迅速な対応に努めている。		☒	☐
新型コロナウイルス感染症に対し、児童及び職員への適切な感染防止策に取り組んでいる。		☒	☐

評価内容

- ・事業計画の達成度は100%で、極めて良好である。
- ・適正に施設・整備管理を実施している。またエコ活動の推進等、環境に配慮した運営を着実に実施している。
- ・区内事業者の活用実績があり、地域との関わりづくりに取り組んでいる。
- ・開かれた保育所として地域の子育て家庭へ行事の開放や地域行事への参加を実施している。さらに、小中学生の体験学習を受け入れ異年齢交流も積極的に取り組んでいる。
- ・絵本、絵画、運動等の遊びの分野ごとにコーナーを作り、子どもが自分で選んで遊べる環境を設定している。過干渉にならないように見守る部分を意識的に行き、必要な時は援助し危険な時は制止している。
- ・利用者満足度は97.6%（第三者評価）となっている。なお、日頃の保育内容について、アンケート調査を実施している。
- ・3～5歳児は毎日ボードにその日の様子を領域に分けて記入し、保護者が確認できるようにしている。また、個人面談、保護者会を実施したり、らくらく連絡網や壁新聞等も活用して各クラスの活動や様子についてお知らせしている。
- ・事故防止について、マニュアルの整備・ヒヤリハットの記入を行っている。さらに、系列園の事例を毎月各園で周知し、朝礼では前日の事故について報告している。体動センサーの活用やAEDの設置を行っている。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染防止策について、区の指導を受け適切に対応している。

より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等

年齢別のマラソン大会の実施や、外部講師による職員研修の実施など保育内容の充実や職員のスキル向上を図っている。運営面については、区民雇用率が低い水準であるため、今後は増加に向けて積極的に取り組んでもらいたい。

施設決算状況

年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	251,424,316	238,137,141	255,000,000	215,658,695
	その他収入	3,422,222	2,886,842	1,550,000	1,652,838
	計	254,846,538	241,023,983	256,550,000	217,311,533
支出	運営費	13,413,415	15,889,074	16,050,000	13,683,256
	管理費	61,041,604	49,457,677	62,530,000	53,161,593
	本部経費	—	—	—	—
	人件費	132,513,868	118,978,356	137,000,000	107,063,989
	修繕費	287,208	338,776	500,000	296,584
	その他支出	1,916,750	1,699,000	0	1,486,500
	計	209,172,845	186,362,883	216,080,000	175,691,922
収支差額		45,673,693	54,661,100	40,470,000	41,619,611

(施設決算状況の説明)

- ・収支差額については、国の経理等基準に基づき、積立資産に積み立てている。

財務・労務評価表			
評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告書など審査した結果、会計処理は適正に行われている。	良好
	予算管理が適正である	予算と実績差異が10%以上であり、予算管理改善の余地がある。	
会計	経費の効果的活用が行われている	昨年度に比べて収入が減少しているのに、管理費を減少させているが、人員配置・施設修理など効果的に行い収益差は縮小している。	優良
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目で要件を満たしている。また、新型コロナウイルス感染症による休園・自粛の際の勤務体制や賃金の支払いについても適正な対応が取られている。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業法人の三期の決算書に基づいて財務評価を行った結果、収益性、成長性、安定性、活動性・健全性等が優れているので、安定した運営を行う財務力を有している。	優良

総合評価

サービス面、労務面は優良であり、財務面は良好、法人の財務力は優良であるため、指定管理業務は適正であったと評価できる。

担当所管部	
部	子ども家庭部
課	保育課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要		
施設名	名称	南千住保育園
	所在地	荒川区南千住六丁目 3 5 番 3 号
指定管理者	名称	社会福祉法人上智社会事業団
	所在地	荒川区町屋四丁目 9 番 1 0 号
施設開設年月日		昭和 4 2 年 4 月 1 日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成 2 8 年 4 月 1 日
指定期間		平成 2 8 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 3 1 日
業務内容		保護者が就労、病気などのため、家庭の子どもを保育できないときに、保護者に代わって保育を行う。 (認可定員 1 5 9 名) 0歳：9 1歳：25 2歳：25 3歳：30 4歳以上：70 計159名
令和元年度の事業計画		
・人の幸せ、人を信じ、愛する心で地域の拠点を目指し、一人一人の思いを大切に受け止める心の通った保育を心がける。一人一人の個性を大切に、認め合いながら豊かな人間性の育成を目指す。地域と共に育ち支え合う保育園として、子育てを支援し、すべての子どもの健やかな成長を応援する。 ・防錆、防腐等をこまめにチェックし、補修メンテナンスを行う。電気設備・昇降機設備の点検等の一括発注によるコスト削減、照明・冷房スイッチのこまめな入切による光熱水費の削減等、効率の良い維持管理に努めるほか、園舎、園庭、遊具等の危険箇所の安全点検を実施する。 ・職員配置については、区の配置基準に基づき配置する。新規採用職員には、採用前に基本研修を法人本部で実施するほか、年間を通じて高い意識とビジョンを持ち、様々な研修を開催する。人事評価により、常にチャレンジ精神を持ち、互いに刺激し合い、学び合う環境を作る。労務問題に関する知識について職員間での共有しあい、記録を伝える重要な手順を学ぶ。 ・保育所保育指針に沿った保育方針を基本として、隣人愛に基づく保育を行い、笑顔であいさつができ、心身ともに元気でたくましく生き抜く力を育む。集団生活や異年齢児交流を通じて、思いやる心や信頼する心を育成する。地域子育て支援拠点として、質の向上のための評価プロセスや保護者満足度の把握も行う。 ・様々な配付物や面談、日々のあいさつ等を通じて、より良い保育と信頼関係作りができるよう保護者とのコミュニケーションを図る。クレーム、苦情、相談、要望については、誠意を持って対応するとともに、苦情箱の設置やプライバシーを配慮しながら結果を公表し、運営向上のため反映させていく。 ・施設の危険防止対策として、保育リスクマネジメントマニュアルや安全配慮チェックリストに基づき対応し、危険箇所の点検を行う。避難訓練の年間計画や災害発生時の対応マニュアル等に基づき、毎月訓練を実施する。社会的責任を認識し、リスクマネジメント、インシデントレポート、緊急時対応、地域とのつながり強化等を確実に実施する。 ・地域に根差した施設を目指し、近隣の小中学校との交流や高齢者とのふれあいを通じて、地域一体となって連携の輪を深め、地域に向けた情報発信、広報を行う。		
令和元年度の事業実績		
・基本方針に則り、一人一人の思いを大切に受け止める心の通った保育等に積極的に取り組んだ。 ・園舎・園庭・遊具等の危険箇所の点検や防錆・防腐の頻繁な補修を行い、適切に施設の維持管理を行った。 ・区の配置基準に基づき適切に職員を配置したほか、新人研修や保育・人権研修等、積極的な研修を実施した。 ・保育サービスについて、笑顔で挨拶ができ心も体も元気にたくましく生き抜く力を育む保育を計画どおり適切に実施した。 ・利用者からの意見や苦情について苦情箱の設置やプライバシーを配慮して掲示を行い、また、事故等にも適切に対応した。 ・保育リスクマネジメントマニュアルや安全配慮チェックリストに基づき対応し、適切に危機管理を行った。 ・地域への取組について、近隣の小中学校や高齢者との交流を行い、積極的な事業実施に取り組んだ。		

法令基準等への適合状況				
確認項目			適合判断	
運営基準を満たしているか				
	国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「保育所保育指針」等）に基づいた運営を行っている。		○	
	都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた運営を行っている。		○	
	区基準（「荒川区個人情報保護条例」、「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた運営を行っている。		○	
人員配置基準を満たしているか				
	国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○	
	都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○	
	区基準（「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○	
設備基準を満たしているか				
	国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」等）に基づいた設備を整えている。		○	
	都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた設備を整えている。		○	
	区基準（「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた設備を整えている。		○	
			結果 適合	
その他の評価項目				
項 目	評 価	極めて 良好である	良好である	取組が行われていない、または取組が十分でない
適正な設備・施設管理を実践するほか、エコ活動の推進等、環境に配慮した運営を務めている。		☒	☐	☐
区内事業者の活用や区民の雇用に努める等、地域との関わりづくりに取り組んでいる。		☒	☐	☐
地域環境や立地条件を活かした保育の実施により、地域間・世代間の交流を図っている。		☒	☐	☐
子ども主体の生活や遊びがより豊かに展開されるような環境づくり・乳幼児との関わり合いに取り組んでいる。		☒	☐	☐
利用者アンケートの実施や、保護者とのコミュニケーションの中で、子どもの育ちを積極的に伝える等、保護者からの満足度向上や信頼関係の構築に努めている。		☒	☐	☐
保育中の事故防止のための方針を整備し、職員間での共通理解を進める等、安全な保育環境の構築に努めている。		☒	☐	☐
台風や地震等の自然災害による被害に対し、災害時マニュアルを整備する等、緊急時の的確かつ迅速な対応に努めている。		☒	☐	☐
新型コロナウイルス感染症に対し、児童及び職員への適切な感染防止策に取り組んでいる。		☒	☐	☐

評価内容

- ・事業計画の達成度は100%で、極めて良好である。
- ・適正に施設・整備管理を実施している。またエコ活動の推進等、環境に配慮した運営を着実に実施している。
- ・区民雇用率は56.0%で、極めて良好である。
- ・小中高生・高齢者との異年齢交流や行事を地域の方に開放する等、地域交流を積極的に行っている。
- ・日頃の生活体験をあそびのなかで、友だちと一緒に再現したり工夫したりして遊べるように教材の準備やコーナーの設定を行っている。自分の気に入った玩具を取り出せるように子どもの手の届く所に遊具を収納している。子どもの興味関心に寄り添いながら、一緒に考えていくプロセスを大事にしている。
- ・利用者満足度は88.4%（第三者評価）となっている。
- ・保護者に対して、学年ごとに週の活動予定を事前に掲示して知らせている。園行事運営のサポーターとして保護者に手伝いを呼びかけ、職員と一緒に運営に携わってもらうことでコミュニケーションを図っている。日々の会話を大事にして信頼関係を築き、精神的安心につながる対応を時間をかけて行っている。
- ・安全配慮チェックリストの定期的な実施や週一回の会議にてヒヤリハットや事故報告を行っている。職員全体で共有が必要な連絡事項等は、毎朝職員が確認する表に記入し、周知徹底を図っている。
- ・屋外で遊ぶ際には、最初に保育者が安全確認を行い、職員間の声掛けを行う等安全の確保をしながら充実した遊び環境を作っている。また、新年度には前年度の書類を参考にして安全確認を行っている。
- ・避難訓練マニュアルの作成、年に一度見直しを行っている。消防から消火・通報訓練を受けている。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染防止策について、区の指導を受け適切に対応している。

より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等

法人の系列園と合同で特別養護老人ホームを訪問したり近隣の小中高生を職業体験で受け入れるなど地域間・世代間の交流を積極的に行っている。引き続き同取組みを継続するとともに、今後は当園の広いフロアを活かした子どもが自主的に選び、遊べる環境づくりを更に進めてもらいたい。

施設決算状況

年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	285,995,948	287,991,389	272,600,000	272,883,299
	その他収入	3,824,438	3,468,870	3,900,000	3,922,900
	計	289,820,386	291,460,259	276,500,000	276,806,199
支出	運営費	26,882,042	29,724,296	27,185,000	27,613,140
	管理費	7,292,051	4,198,609	6,997,000	7,011,937
	本部経費	—	—	—	—
	人件費	201,803,978	198,089,143	199,200,000	198,799,622
	修繕費	1,915,397	1,103,748	600,000	541,726
	その他支出	2,456,281	1,564,129	1,600,000	1,557,487
	計	240,349,749	234,679,925	235,582,000	235,523,912
収支差額		49,470,637	56,780,334	40,918,000	41,282,287

(施設決算状況の説明)

- ・収支差額については、国の経理等基準に基づき、積立資産に積みたてている。

財務・労務評価表			
評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告書など審査した結果、会計処理は適正に行われている。	優良
	予算管理が適正である	予算書や事業計画に基づき費用を管理している。予算・実績の差異は2%以内であり、適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	昨年度に比べ、収入が減少しているが、運営費、人件費がほぼ同じで保育環境の改善等などに取り組んだことにより収支差も縮小している。	優良
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目で要件を満たしている。また、新型コロナウイルス感染症による休園・自粛の際の勤務体制や賃金の支払いについても適正な対応が取られている。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業法人の三期の決算書に基づいて財務評価を行った結果、安定性、活動性・健全性等が優れていて、収益性も良好であり、安定した運営を行う財務力を有している。	優良

総合評価

サービス面、財務・労務面は優良であり、法人の財務力も優良であるため、指定管理業務は適正であったと評価できる。

担当所管部	
部	子ども家庭部
課	保育課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要		
施設名	名称	南千住七丁目保育園
	所在地	荒川区南千住七丁目20番13号
指定管理者	名称	社会福祉法人東萌会
	所在地	埼玉県越谷市七左町一丁目347番地
施設開設年月日		平成24年7月1日
現在の指定管理者による運営開始年月日		平成24年7月1日
指定期間		平成30年4月1日～令和5年3月31日
業務内容		保護者が就労、病気などのため、家庭の子どもを保育できないときに、保護者に代わって保育を行う。 （認可定員151名、子育て交流サロン併設） 0歳：12 1歳：15 2歳：24 3歳：30 4歳以上：70 計151名
令和元年度の事業計画		
・「子どもの最善の利益」「利用者本位」に基づき、以下の方針のもとに保育に取り組む。 良質な保育の提供 保護者のニーズに誠実に応える 地域子育て支援への寄与 荒川区保育行政の理解 ・職員全体で積極的に環境整備に取り組むことで、事故や怪我の予防につながる施設の適正な維持管理に努める。また、専門業者による安全点検を受診し、注意点等についてアドバイスをもらう。 ・職員配置については、区の配置基準に基づき配置する。また、法人において充実した研修体制を整備し、園において積極的に参加するよう職員へ働きかける。 ・保育所保育指針に沿った保育方針を基本とし、一人ひとりを大切に、生きる力の基礎を培えるような保育を実施する。家庭との信頼関係構築のため、「職員と保護者の連携が深まるよう情報の提供・交換の仕方を改善」「個々の利用者に応じた育児支援の強化」という目標を掲げ、重点的に取り組む。また、食育の推進、地域間・世代間交流の実施、在宅支援等を積極的に行う。 ・ご意見箱の設置等により、保護者の声を受け付ける。また、苦情に対しては、苦情解決体制を築き、適切に対応する。意見・苦情については、対応策を含め、原則としてすべて公開し、運営改善や問題等の再発防止に繋げる。 ・全職員に危機管理マニュアルや事故防止マニュアルの遵守徹底を図るほか、事故発生時に地域の関係機関と連携する体制を整備する。防災対策として、毎月の避難訓練の実施等に取り組む。個人情報保護方針に基づき、適切かつ厳重な管理を行う。 ・地域に開かれた保育所として、保育園行事の地域開放や世代間交流を図るほか、子育て交流サロンでは、育児相談・育児講座・情報提供等を通じて在宅育児支援を積極的に行う。また、専門機関や小中学校との連携を図り、次世代育成支援を実施する。		
令和元年度の事業実績		
・基本方針に則り、良質な保育の提供や地域子育てへの寄与等について積極的に取り組んだ。 ・専門事業者による安全点検の実施や職員全体で積極的に環境整備に取り組み、適切に施設の維持管理を行った。 ・区の配置基準に基づき適切に職員を配置したほか、保育やアレルギー等の研修参加を園から積極的に呼びかけた。 ・保育サービスについて、一人ひとりを大切に、生きる力の基礎を培える保育を計画どおり適切に実施した。 ・利用者からの意見や苦情について意見箱の設置・苦情解決体制の構築を行い、また、事故等に対して適切に対応した。 ・全職員に対して危機管理マニュアルや事故防止マニュアル遵守の徹底を図る等、適切に危機管理を行った。 ・地域への取組について開かれた保育所として行事の開放や世代間交流、子育てサロンの実施等積極的に取り組んだ。		

法令基準等への適合状況		
確認項目		適合判断
運営基準を満たしているか		
国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「保育所保育指針」等）に基づいた運営を行っている。		○
都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた運営を行っている。		○
区基準（「荒川区個人情報保護条例」、「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた運営を行っている。		○
人員配置基準を満たしているか		
国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○
都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○
区基準（「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○
設備基準を満たしているか		
国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」等）に基づいた設備を整えている。		○
都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた設備を整えている。		○
区基準（「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた設備を整えている。		○
		結果 適合

その他の評価項目			
項 目	極めて 良好である	良好である	取組が行われていない、または取組が十分でない
適正な設備・施設管理を実践するほか、エコ活動の推進等、環境に配慮した運営を務めている。	☒	☐	☐
区内事業者の活用や区民の雇用に努める等、地域との関わりづくりに取り組んでいる。	☐	☒	☐
地域環境や立地条件を活かした保育の実施により、地域間・世代間の交流を図っている。	☒	☐	☐
子ども主体の生活や遊びがより豊かに展開されるような環境づくり・乳幼児との関わりに取り組んでいる。	☒	☐	☐
利用者アンケートの実施や、保護者とのコミュニケーションの中で、子どもの育ちを積極的に伝える等、保護者からの満足度向上や信頼関係の構築に努めている。	☒	☐	☐
保育中の事故防止のための方針を整備し、職員間での共通理解を進める等、安全な保育環境の構築に努めている。	☒	☐	☐
台風や地震等の自然災害による被害に対し、災害時マニュアルを整備する等、緊急時の的確かつ迅速な対応に努めている。	☒	☐	☐
新型コロナウイルス感染症に対し、児童及び職員への適切な感染防止策に取り組んでいる。	☒	☐	☐

評価内容

- ・事業計画の達成度は100%で、極めて良好である。
- ・適正に施設・設備管理を実施している。またエコ活動の推進等、環境に配慮した運営を着実に実施している。
- ・区民雇用率は25.9%で、良好である。
- ・子育て交流サロンを実施し、育児相談、育児講座、情報提供等を通じて地域の在宅支援を積極的に行っている。
- ・保育室にコーナーを設置し、様々な遊びを提供し、子どもが自ら選べるようにしている。一人ひとりの子どもに寄り添い、求めていること、やりたいことを理解し、自らが活動できるように関わっている。3～5歳児は異年齢グループを作り、一緒に遊び、行事にも取り組んでいる。
- ・利用者満足度は89.5%（第三者評価）となっている。また、四半期ごとに保護者からの意見や要望に対してその対応と取組みを報告している。
- ・日中の子どもの様子を記録に残し、担任以外の保育士でも子どもの様子を保護者に伝えられるようにしている。活動の予定を予め保護者に伝え、乳児組は連絡帳に、幼児組は報告用紙に記載し、保護者に伝えている。
- ・事故防止に向けた取組みについては、マニュアルを作成し、それに基づき対策を講じている。ヒヤリハット、インシデントレポートを作成し、全職員で回覧・確認をしている。緊急のことについては「本日の予定」に記載し回覧や必要に応じて直接説明をしている。
- ・自然災害の緊急時対応マニュアルの作成、避難訓練を実施している。地域施設との合同訓練を行っている。避難確保計画は作成済みである。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染防止策について、区の指導を受け適切に対応している。

より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等

保護者からの意見とそれに対する対応を掲示したり、一日の保育内容を撮影した写真データをスライドで掲示したりと保護者との信頼関係構築に積極的に努めている。引き続き保護者の満足度向上に努めるとともに、コーナー保育の充実等、子どもの自主性を促す取組みを推進してもらいたい。

施設決算状況

年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	257,900,326	255,819,040	258,844,930	258,844,800
	その他収入	6,791,056	6,470,022	6,228,360	6,226,482
	計	264,691,382	262,289,062	265,073,290	265,071,282
支出	運営費	22,803,966	22,307,367	20,952,000	20,927,176
	管理費	28,557,287	24,148,132	24,173,000	24,164,196
	本部経費	—	—	—	—
	人件費	201,193,148	175,662,944	183,679,000	183,662,146
	修繕費	236,060	425,900	632,000	631,504
	その他支出	0	0	0	0
	計	252,790,461	222,544,343	229,436,000	229,385,022
収支差額		11,900,921	39,744,719	35,637,290	35,686,260

(施設決算状況の説明)

- ・収支差額については、国の経理等基準に基づき、積立資産に積み立てている。
- ・その他収入には子育てサロン事業の委託費を含んでいる。

財務・労務評価表			
評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告書など審査した結果、会計処理は適正に行われている。	優良
	予算管理が適正である	予算・実績の差異は2%以内、費用も減少しており、予算管理は適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	前年は経験年数の多い職員と若手の入替で人件費が減少したが、今年は人員を一部調整したので人件費は増加。一方、台風対策により事務費も増加したが効果的に活用して収支差は縮小している。	優良
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目で要件を満たしている。また、新型コロナウイルス感染症による休園・自粛の際の勤務体制や賃金の支払いについても適正な対応が取られている。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業法人の三期の決算書に基づいて財務評価を行った結果、収益性、成長性、安定性、活動性・健全性等が優れているので、安定した運営を行う財務力を有している。	優良

総合評価	
サービス面、財務・労務面は優良であり、法人の財務力も優良であるため、指定管理業務は適正であったと評価できる。	

担当所管部	
部	子ども家庭部
課	保育課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【A施設】

施設概要		
施設名	名称	夕やけこやけ保育園
	所在地	荒川区東日暮里三丁目 1 1 番 1 9 号
指定管理者	名称	社会福祉法人教信精舎
	所在地	荒川区西尾久六丁目 9 番 7 号
施設開設年月日		平成 2 5 年 4 月 1 日
現在の指定管理者による運営開始年月日		平成 2 5 年 4 月 1 日
指定期間		平成 3 0 年 4 月 1 日 ~ 令和 5 年 3 月 3 1 日
業務内容		保護者が就労、病気などのため、家庭の子どもを保育できないときに、保護者に代わって保育を行う。 (認可定員 1 5 6 名) 0歳 : 12 1歳 : 20 2歳 : 24 3歳 : 30 4歳以上 : 70 計156名
令和元年度の事業計画		
・子ども達が「同世代、世代間、地域」と関わりをもって「健全な心身の発達を図る」ことを目指し「皆で共に育ちあう、育てあう」関係を築ける保育を展開するため、次の保育目標を持って事業を展開する。心身ともに明るく元気な子ども 生命を大切にできる子ども 豊かな感性。創造し考える子ども 周りの人々に感謝できる子ども ・施設管理は、日常的な目視による点検と定期点検を実施し、安全確保と維持に努める。職員の工夫や意見を積極的に聴取し、効率的に進められるようコスト意識を持って対応する。 ・職員配置については、区の配置基準に基づき配置する。職員の育成については、施設内研修及び外部研修への積極的な参加を促し、保育実習や公開保育を通して、保育の振り返りにも努める。 ・保育目標の下、保育計画及び評価、保育行事の積極的実施、体育遊びや異年齢児交流等特色のある保育活動の実施、特別支援児保育、小学校との連携、保護者支援、健康管理及び支援、食育及び給食の実施、環境衛生と安全管理、に積極的に取り組む。 ・保護者との信頼関係が基本であるとの考えから、定期的な懇親会や保育参加、個人面談等を開催し、気軽に意見要望を聞く体制づくりに努める。保育方針や保護者との取り決めについて職員が共通の理解・認識を持ち、全職員が丁寧に説明できる体制を確保する。 ・所管消防署との連携を図り、火災・震災予防訓練を実施する。安全対策として、全職員が救命技能認定証を取得し、継続的に訓練を実施するほか、AED操作や心肺蘇生法等の研修を受講する。防災備蓄用品を確保し、使用方法の熟知に努める。 ・小学校との連携や中高生との異年齢交流、保育実習生の受入れ等を通じて、地域交流を図るほか、ふれあい館との合築という構造を活かして、多様な世代や地域との交流に努める。		
令和元年度の事業実績		
・基本方針に則り、「健全な心身の発達を図る」ことを目指した保育に積極的に取り組んだ。 ・日常的目視と定期点検の実施や職員の工夫・意見を取り入れて適切に施設の維持管理を行った。 ・区の配置基準に基づき適切に職員を配置したほか、積極的な研修の実施に努めた。 ・保育サービスについて、保育行事の実施、体育遊びや異年齢交流等特色的保育活動を計画どおり適切に実施した。 ・利用者からの意見や苦情について、懇談会や個人面談を実施、また事故等に対して適切に対応した。 ・所管消防署と連携し火災予防等の訓練の実施、全職員の救急技能認定証の取得等、適切に危機管理を行った。 ・地域への取組について、小中高生やふれあい館との合築を活かした世代間交流等、積極的な事業実施に取り組んだ。		

法令基準等への適合状況		
確認項目		適合判断
運営基準を満たしているか		
国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「保育所保育指針」等）に基づいた運営を行っている。		○
都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた運営を行っている。		○
区基準（「荒川区個人情報保護条例」、「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた運営を行っている。		○
人員配置基準を満たしているか		
国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○
都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○
区基準（「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた人員配置体制をとっている。		○
設備基準を満たしているか		
国基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」等）に基づいた設備を整えている。		○
都基準（「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」、「東京都保育所設置認可等事務取扱要綱」等）に基づいた設備を整えている。		○
区基準（「荒川区特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営の基準等に関する条例」等）に基づいた設備を整えている。		○
	結果	適合

その他の評価項目			
項 目	極めて良好である	良好である	取組が行われていない、または取組が十分でない
適正な設備・施設管理を实践するほか、エコ活動の推進等、環境に配慮した運営を務めている。	☒	☐	☐
区内事業者の活用や区民の雇用に努める等、地域との関わりづくりに取り組んでいる。	☒	☐	☐
地域環境や立地条件を活かした保育の実施により、地域間・世代間の交流を図っている。	☒	☐	☐
子ども主体の生活や遊びがより豊かに展開されるような環境づくり・乳幼児との関わりに取り組んでいる。	☒	☐	☐
利用者アンケートの実施や、保護者とのコミュニケーションの中で、子どもの育ちを積極的に伝える等、保護者からの満足度向上や信頼関係の構築に努めている。	☒	☐	☐
保育中の事故防止のための方針を整備し、職員間での共通理解を進める等、安全な保育環境の構築に努めている。	☒	☐	☐
台風や地震等の自然災害による被害に対し、災害時マニュアルを整備する等、緊急時の的確かつ迅速な対応に努めている。	☒	☐	☐
新型コロナウイルス感染症に対し、児童及び職員への適切な感染防止策に取り組んでいる。	☒	☐	☐

評価内容

- ・適正に施設・整備管理を実施している。またエコ活動の推進等、環境に配慮した運営を着実に実施している。
- ・区民雇用率は46.7%で、極めて良好である。
- ・ふれあい館と併設されていることから、同施設利用者との交流や共同行事を開催し、地域住民と参加することで生活体験を豊かにする取組みが行われている。また、小学生から高校生までのボランティアを募集し、地域交流や異年齢交流のできる場を積極的に取り入れている。
- ・各年齢に合わせた遊びのコーナーを作っている。幼児組は保育士が必要な声掛けや遊びの見本提供など自主的に展開できる環境を作り主体的に遊べるように支援をし、0～2歳児は子どもの気持ちをくみ取り遊びの糸口を提供し興味が湧くよう支援している。
- ・利用者満足度は92.0%（第三者評価）となっている。また行事ごとにアンケート調査を実施している。
- ・乳児は連絡帳活用と写真をクラス掲示、幼児は3～5歳連絡ボードにクラス別に記載している。写真掲示や制作物展示をととして活動理解を深めた。
- ・事故防止事故発生時対応のガイドラインを作成し、職員へ配布・説明を行っている。ヒヤリハット記録をクラスで話し合い作成し、園長・職員会議・事務連絡会にて報告している。定期的に点検を実施している。職員から危険個所の申出があった場合は再点検を行っている。
- ・通報・消火・避難訓練マニュアルの作成・実施、避難確保計画を作成し、職員に周知している。
- ・新型コロナウイルスの感染防止策について、区の指導を受け適切に対応している。

より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等

卒園児による保育ボランティアの受け入れや、体操指導員による体操教室の実施など特色ある保育運営を行っている。引き続き同取組みを継続してもらいたい。

施設決算状況

年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	261,289,232	267,946,723	272,790,000	272,760,705
	その他収入	3,492,794	3,436,114	3,400,000	3,396,846
	計	264,782,026	271,382,837	276,190,000	276,157,551
支出	運営費	22,418,724	22,225,667	19,964,000	19,791,222
	管理費	11,767,483	12,829,801	15,401,000	15,230,324
	本部経費	—	—	—	—
	人件費	213,416,953	223,350,703	218,314,714	218,271,943
	修繕費	894,640	758,871	270,000	264,350
	その他支出	2,721,600	2,761,200	2,600,000	2,604,600
	計	251,219,400	261,926,242	256,549,714	256,162,439
収支差額		13,562,626	9,456,595	19,640,286	19,995,112

(施設決算状況の説明)

- ・収支差額については、国の経理等基準に基づき、積立資産に積み立てている。

財務・労務評価表			
評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告書など審査した結果会計処理は適正に行われている。	優良
	予算管理が適正である	予算書や事業計画に基づき費用を管理している。予算・実績の差異は2%以内であり、適正である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	前年度に比べ収入が増加したが、他施設の人事異動もあり、人件費は減少している。一方、保育環境整備のために管理費は昨年より増加したが、効果的活用は行っている。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診記録等を確認した結果、全ての項目で要件を満たしている。また、新型コロナウイルス感染症による休園・自粛の際の勤務体制や賃金の支払いについても適正な対応が取られている。	優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業法人の三期決算書に基づいて財務評価を行った結果、収益性、成長性、安定性、活動性・健全性等が極めて良好であり、安定した運営を行う財務力を有している。	優良

総合評価

サービス面、財務・労務面は優良であり、法人の財務力も優良であるため、指定管理業務は適正であったと評価できる。

担当所管部	
部	子ども家庭部
課	保育課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【B施設】

施設概要		
施設名	名称	区営住宅（西尾久七丁目住宅、西尾久三丁目住宅、南千住二丁目住宅、町屋七丁目住宅、町屋五丁目住宅）
	所在地	荒川区西尾久七丁目１９番１１号 外４ヵ所
指定管理者	名称	東京都住宅供給公社
	所在地	渋谷区神宮前五丁目５３番６７号
施設開設年月日		平成４年４月２８日 外
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成３０年４月１日
指定期間		平成３０年４月１日から令和５年３月３１日
業務内容		１ 区営住宅、共同施設及び付帯施設の保全、修繕及び改良に関する業務 ２ 共同施設の整備その他の住居環境の整備に関する業務
令和元年度の事業計画		
１ 住宅営繕	一般修繕、空家修繕（退去後の修繕）	
２ 環境整備	樹木剪定(害虫駆除を含む)	
３ 施設管理	排水管清掃 エレベーター保守 受水槽清掃 消防設備保守 安否確認システム保守他	
４ 清掃	定期清掃 床等日常清掃 ゴミ置き場等清掃	
５ 計画修繕	なし	
令和元年度の実績		
１ 住宅営繕	一般修繕 （給湯管漏水補修、照明点灯不良補修、インターホン修理等５０件） 空家修繕 （畳表替、襖張替、床ワックス塗布等２０件）	
２ 環境整備	樹木剪定（害虫駆除は実施せず）	
３ 施設管理	排水管清掃 エレベーター保守 受水槽清掃 消防設備保守 安否確認システム保守他	
４ 清掃	定期清掃（毎月１回） 床等日常清掃（週３回） ゴミ置き場等清掃（可燃ゴミ収集日）	
５ 計画修繕	なし	

基本評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
施設の維持管理	70			70
快適に利用できるための施設管理がなされている	30	5	100%	30
業務の遂行に必要な職員が配置されている	20	5	100%	20
研修計画に基づいた職員の受講がなされている	20	5	100%	20
区民サービス	30			28
居住者からの修繕依頼に対し、迅速かつ適切に対応している	20	5	100%	20
居住者アンケートの結果、施設利用の満足度が高い	10	4	80%	8
合 計 (A)	100			98
その他の評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
適切な危機管理体制が整備されている	2	5	100%	2
事故・苦情の再発防止策を策定し、効果を確認している	2	5	100%	2
区内事業者の活用を積極的に行っている	6	4	80%	4.8
合 計 (B)	10			8.8
合 計 (A+B)				106.8
施設の維持管理・区民サービス等の総合評価				S
評価内容				
・施設の維持管理については、24時間体制による適切な管理がなされていた。 ・一般修繕業務については、迅速に不良箇所を調査し、適切な修繕を行い、良好な維持管理が行われた。 ・営繕業務（エレベーター等の専門性の高い業務を除く）の区内事業者活用率については、昨年度から改善し、約92%となった。 ・台風15号及び19号の対応については、事前に強風に煽られる恐れがあったカラーコーンや車止めを回収した。事後には施設点検を行うとともに落ちた枝等を迅速に回収した。 ・新型コロナウイルス感染症対策については、自社内だけではなく、再委託先の業者に対しても感染防止策を行った。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
・居住者アンケートの結果、指定管理者の対応やサービスについて「満足」・「まあ満足」との回答が約76%、「普通」との回答が約17%であった。昨年度より向上したが、満足度の向上に向けて更なる努力が求められる。 ・専門性の高い業務を除く営繕業務については、更なる区内事業者活用率の向上を目指し、指定管理者と協議していく。				

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	18,362,183	21,168,994	20,256,334	25,424,034
	利用料金収入	-	-	-	-
	その他収入	-	-	-	-
	計	18,362,183	21,168,994	20,256,334	25,424,034
支出	運営費	16,238,947	19,246,291	18,486,604	23,203,590
	管理費	2,123,236	1,922,703	1,769,730	2,220,444
	本部経費	2,123,236	1,922,703	1,769,730	2,220,444
	人件費	-	-	-	-
	修繕費	-	-	-	-
	その他支出	-	-	-	-
	計	18,362,183	21,168,994	20,256,334	25,424,034
収支差額		0	0	0	0
(施設決算状況の説明)					
・令和元年度は、高齢者用住戸の空家修繕件数の増加（見込み 1 4 件→実績 2 0 件）及び当初計画にない身体障がい者用住戸の空家修繕実施のため、当初計画と比べて決算額が高くなった。 ・指定管理者は工事の発注に際して、区と同様に、透明性・公平性を確保した公募型入札制度による経費縮減と適正な支出に努めている。 ・人件費については、住宅は専任職員が常駐していないため、当該指定管理者業務に携わる職員は本社及び支店で他の業務を兼任していることから、本部経費として管理費に計上することとしている。 ・修繕費については、住宅は主たる指定管理業務が修繕業務であるため、他施設で計上している修繕費とは性質が異なることから、修繕費は計上せず、運営費に計上することとしている。					
財務・労務評価表					
評価項目			評価内容		評価
会計	会計手続が適正である		決算書、前受金元帳、各証憑書類等を確認した結果、適切に支出、収入がなされており、会計手続は適正である。		良好
	予算管理が適正である		運営費はサンプル抽出し、入札関係書類、完了届、支払済明細書等を確認した結果、適切に処理されており、予算管理は適正である。		
会計	経費の効果的活用が行われている		工事受注者選定に当たって、公募型入札制度を導入することにより、透明性、公平性を確保するとともに、委託価格の低減を図った。		優良
労務	労働環境が適正である		出勤簿、労働者名簿、賃金台帳、就業規則等について提出書類及びヒアリングにより確認した結果、法令に準じており、労働環境は適正である。		優良
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している		事業者の三期の決算書に基づいて財務評価をした結果、収益性と成長性ともに優れている。安定性、活動性・健全性についても特に問題はなく、安定した運営を継続して行う財務力を有している。		良好

総合評価

・施設の維持管理・区民サービス等はS評価、財務面・労務面は優良・良好であったことから、指定管理業務は適正であったと評価できる。

担当所管部	
部	福祉部
課	福祉推進課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【B施設】

施設概要		
施設名	名称	区民住宅（町屋五丁目住宅） 従前居住者用住宅（町屋五丁目住宅）
	所在地	荒川区町屋五丁目9番2号
指定管理者	名称	東京都住宅供給公社
	所在地	渋谷区神宮前五丁目53番67号
施設開設年月日		平成10年4月1日
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成30年4月1日
指定期間		平成30年4月1日から令和5年3月31日
業務内容		1 区民住宅、従前居住者用住宅、共同施設及び付帯施設の 保全、修繕及び改良に関する業務 2 共同施設の整備その他の住居環境の整備に関する業務
令和元年度の事業計画		
1 住宅営繕	一般修繕、空家修繕（退去後の修繕）	
2 環境整備	樹木剪定(害虫駆除を含む)	
3 施設管理	排水管清掃 エレベーター保守 受水槽清掃 消防設備保守	
4 清掃・巡回管理	定期清掃 巡回管理 床等日常清掃 ゴミ置き場等清掃	
5 計画修繕	なし	
令和元年度の事業実績		
1 住宅営繕	一般修繕 （浴室、トイレ、台所の水栓交換等81件） 空家修繕 （壁クロス張り替え等12件 空室調査6件 室内クリーニング等10件 エアコン用専用回路・コンセント設置16件）	
2 環境整備	樹木剪定（害虫駆除は実施せず）	
3 施設管理	排水管清掃 エレベーター保守 受水槽清掃 消防設備保守	
4 清掃・巡回管理	定期清掃（年4回） 巡回管理 床等日常清掃（週3回） ゴミ置き場等清掃（可燃ゴミ収集日）	
5 計画修繕	なし	

基本評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
施設の維持管理	70			70
快適に利用できるための施設管理がなされている	30	5	100%	30
業務の遂行に必要な職員が配置されている	20	5	100%	20
研修計画に基づいた職員の受講がなされている	20	5	100%	20
区民サービス	30			24
居住者からの修繕依頼に対し、迅速かつ適切に対応している	20	4	80%	16
居住者アンケートの結果、施設利用の満足度が高い	10	4	80%	8
合 計 (A)	100			94
その他の評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
適切な危機管理体制が整備されている	2	5	100%	2
事故・苦情の再発防止策を策定し、効果を確認している	2	4	80%	1.6
区内事業者の活用を積極的に行っている	6	4	80%	4.8
合 計 (B)	10			8.4
合 計 (A+B)				102.4
施設の維持管理・区民サービス等の総合評価				S
評価内容				
・施設の維持管理については、24時間体制による適切な管理がなされていた。 ・一般修繕業務については、迅速に不良箇所を調査し、適切な修繕を行い、良好な維持管理が行われた。 ・営繕業務（エレベーター等の専門性の高い業務を除く）の区内事業者活用率については、前年度から改善し、約94%となった。 ・台風15号及び19号の対応については、事前に強風に煽られる恐れがあったカラーコーンや車止めを回収した。事後には施設点検を行うとともに落ちた枝等を迅速に回収した。 ・新型コロナウイルス感染症対策については、自社内だけではなく、再委託先の業者に対しても感染防止策を行った。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
・居住者アンケートの結果、指定管理者の対応やサービスについて「満足」・「まあ満足」との回答が約37%、「普通」との回答が約59%であった。前年度より向上したが、満足度の向上に向けて更なる努力が求められる。 ・専門性の高い業務を除く営繕業務については、更なる区内事業者活用率の向上を目指し、指定管理者と協議していく。				

施設決算状況						
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度		
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)	
収入	指定管理料	22,139,021 1,308,692	22,501,115 1,613,575	28,364,911 5,000,453	27,344,766 3,155,821	
	利用料金収入	—	—	—	—	
	その他収入	—	—	—	—	
	計	22,139,021 1,308,692	22,501,115 1,613,575	28,364,911 5,000,453	27,344,766 3,155,821	
	運営費	19,592,652 1,169,540	20,457,420 1,467,021	25,886,839 4,563,830	24,956,560 2,880,210	
支出	管理費	2,546,369 139,152	2,043,695 146,554	2,478,072 436,623	2,388,206 275,611	
		本部経費	2,546,369 139,152	2,043,695 146,554	2,478,072 436,623	2,388,206 275,611
	人件費	—	—	—	—	
	修繕費	—	—	—	—	
	その他支出	—	—	—	—	
	計	22,139,021 1,308,692	22,501,115 1,613,575	28,364,911 5,000,453	27,344,766 3,155,821	
	収支差額	0	0	0	0	
	(施設決算状況の説明)					
	・ 上段：区民住宅の決算、下段：従前居住者用住宅の決算を記載している。 ・ 運営費の増加は、入居率向上のため、計画的な空家修繕を行ったからである。 ・ 指定管理者は工事の発注に際して、区と同様に、透明性・公平性を確保した公募型入札制度による経費縮減と適正な支出に努めている。 ・ 人件費については、住宅は専任職員が常駐していないため、当該指定管理者業務に携わる職員は本社及び支店で他の業務を兼任していることから、本部経費として管理費に計上することとしている。 ・ 修繕費については、住宅は主たる指定管理業務が修繕業務であるため、他施設で計上している修繕費とは性質が異なることから、修繕費は計上せず、運営費に計上することとしている。					
財務・労務評価表						
評価項目		評価内容			評価	
会計	会計手続が適正である	決算書、前受金元帳、各証憑書類等を確認した結果、適切に支出、収入がなされており、会計手続は適正である。			良好	
	予算管理が適正である	運営費はサンプル抽出し、入札関係書類、完了届、支払済明細書等を確認した結果、適切に処理されており、予算管理は適正である。				
会計	経費の効果的活用が行われている	工事受注者選定にあたって、公募型入札制度を導入することにより、透明性、公平性を確保するとともに、委託価格の低減を図った。			優良	
労務	労働環境が適正である	出勤簿、労働者名簿、賃金台帳、就業規則等について提出書類及びヒアリングにより確認した結果、法令に準じており、労働環境は適正である。			優良	
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の決算書に基づいて財務評価をした結果、収益性と成長性ともに優れている。安定性、活動性・健全性についても特に問題はなく、安定した運営を継続して行う財務力を有している。			良好	

総合評価

・施設の維持管理・区民サービス等はS評価、財務面・労務面は優良・良好であったことから、指定管理業務は適正であったと評価できる。

担当所管部	
部	防災都市づくり部
課	施設管理課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【B施設】

施設概要		
施設名	名称	南千住駅東口自転車等駐車場 日暮里駅前自転車駐車場
	所在地	荒川区南千住四丁目1番2号 荒川区西日暮里二丁目24番2号
施設開設年月日		平成14年4月1日 平成20年4月1日
指定管理者	名称	日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社
	所在地	品川区西五反田四丁目32番1号
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成30年4月1日
指定期間		平成30年4月1日～令和5年3月31日
業務内容		1.駐車場の利用承認・案内・誘導 2.利用料金の収納・減額及び還付 3.施設の維持管理に関する業務等
令和元年度の事業計画		
1 自転車駐車場の利用承認、利用者の案内や誘導、料金収納を適切に実施する。 2 設備の保守点検や必要な修繕を行う。施設の清掃・巡回を毎日行う。 3 危機管理マニュアルや緊急連絡網を管理棟に設置し、全管理員に周知徹底する。 4 接遇・情報セキュリティ研修(年1回)を行う。 5 24時間365日対応のサポートセンターにて、申込受付、クレーム対応を実施する。 6 3階の定期利用料金を引き下げ、利用率の向上を図る。(南千住) 7 自転車安全点検キャンペーンを実施する。		
令和元年度の事業実績		
1 自転車駐車場の利用承認、利用者の案内や誘導、料金収納を適切に実施した。 2 設備の保守点検や修繕を適切に実施した。 3 危機管理マニュアル、緊急連絡網等を管理室へ設置し、全管理員に周知徹底した。 4 コンプライアンス研修、接客マナー研修を全管理員を対象に実施した。 5 24時間365日対応のサポートセンターにて、利用者の対応を実施した。 6 3階の定期利用料金を引き下げ、下階の混雑緩和及び定期利用率の向上を図った。(南千住) 7 自転車安全点検キャンペーンを実施し、自転車の安全利用に寄与した。		
<参考> (南千住) 定期利用登録率(登録者数/定期収容台数): 107.7%(30年度101.1%) 一時利用率(利用者数/一時収容台数): 47.7%〔1日平均〕(30年度41.6%) (日暮里) 定期利用登録率(登録者数/定期収容台数): 65.0%(30年度58.2%) 一時利用率(利用者数/一時収容台数): 145.9%〔1日平均〕(30年度147.9%)		

基本評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
施設の維持管理	60			56
安全快適に利用できるための施設管理がなされている	20	5	100%	20
業務遂行に必要な職員の配置・育成がなされている	20	4	80%	16
安全管理実施体制を構築し、緊急時対応を万全としている	20	5	100%	20
区民サービス	40			32
利用者アンケートの結果、施設利用の満足度が高い	20	4	80%	16
サービス向上のため創意工夫ある取組を実践している	10	4	80%	8
利用者からの声をモニタリングし、是正等を図っている	10	4	80%	8
合 計 (A)	100	-	-	88
その他の評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
利用者増加のための対策に取り組んでいる	5	4	80%	4
区民雇用、区内事業者の活用等で地域に貢献している	3	4	80%	2.4
環境やエコに関する取組を積極的に行っている	2	4	80%	1.6
合 計 (B)	10	-	-	8
合計 (A+B)				96
施設の維持管理・区民サービス等の総合評価				A
評価内容				
【南千住】				
1 基本評価項目				
・ 3 階の定期利用料金を引き下げ、下階の混雑緩和及び定期利用率の向上を図った。				
・ 自転車無料点検キャンペーンを実施し、自転車の安全利用に寄与した。				
・ 施設の点検を適切に行い、速やかにベルトコンベアの修繕を行う等、利用に影響することなく取り組んだ。				
2 その他の評価項目				
・ 光熱費削減を目的に、施設内の照明のLED化を進めた。				
【日暮里】				
1 基本評価項目				
・ 自転車無料点検キャンペーンを実施し、自転車の安全利用に寄与した。				
2 その他評価項目				
・ 区の放置自転車クリーンキャンペーンに参加し、区民の意識啓発と自転車駐車場の利用募集を図った。				
【共通】				
・ 台風 19 号発生時には、利用者・管理員の安全対策として運営時間を短縮して対応した。				
また、その際には区と連携して利用者に事前周知を行い、大きなトラブルは発生しなかった。				
・ 新型コロナウイルス感染症対策として、管理員のマスク着用及び精算機の消毒を徹底した。				
・ シェアサイクルポート設置に協力し、利用者の誘導や案内を行った。				
・ 定期利用は、インターネットで申込み可能な「ECOPOOL」を導入したことにより、利便性が向上した。				
・ 一時利用は、「交通系ICカード決済の導入」や「電磁ラックの導入によるゲートレス化」により、利便性が向上した。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
【南千住】				
・ 一時利用率が低いと、周辺の民営駐輪場の利用状況・利用形態を踏まえた上で、利用率を向上させるための取組が必要である。				
・ 区民雇用率は50%であり、更なる区民雇用促進が必要である。				
【日暮里】				
・ 定期利用の登録率が低いと、広報等による利用率を向上させるための取組が必要である。				
・ 区民雇用率は67%であり良好であるが、更なる区民雇用促進が必要である。				

施設決算状況					
年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	2,091,957 178,740	748,000 1,587,923	2,091,957 1,588,286	962,610 887,991
	利用料金収入	32,333,200 21,172,300	30,440,700 20,902,500	34,340,000 22,220,000	31,576,150 20,959,600
	その他収入	220 66,830	0 0	96,000 96,000	0 0
	計	34,425,377 21,417,870	31,188,700 22,490,423	36,527,957 23,904,286	32,538,760 21,847,591
支出	運営費	0 0	0 0	0 0	0 0
	管理費	11,649,909 14,541,164	10,104,548 15,111,230	12,257,631 14,189,039	9,522,790 14,918,971
	本部経費	6,559,689 6,602,031	1,184,280 1,184,280	1,780,549 1,780,549	655,728 655,728
	人件費	17,745,741 17,673,257	14,604,601 10,768,894	13,540,891 8,161,158	14,186,750 10,471,968
	修繕費	2,406,240 178,740	748,000 1,587,923	2,091,957 1,588,286	962,610 887,991
	その他支出	0 0	500,000 0	500,000 0	500,000 0
	計	31,801,890 32,393,161	25,957,149 27,468,047	28,390,479 23,938,483	25,172,150 26,278,930
収支差額		2,623,487 -10,975,291	5,231,551 -4,977,624	8,137,478 -34,197	7,366,610 -4,431,339
収支差額計		-8,351,804	253,927	8,103,281	2,935,271
(施設決算状況の説明)					
上段：南千住駅東口自転車等駐車場の決算、下段：日暮里駅前自転車駐車場の決算を記載している。					
【南千住】 ・「その他支出」については、選定時の提案に基づく区への納付金である。 ・「利用料金収入」については、定期利用の3階料金を引き下げたことで施設全体の利用者数が増加し、それに伴い利用料金収入についても増加した。 ・「人件費」については、利用状況を踏まえたうえで、管理員の雇用時間を調整したことにより削減に繋がった。					
【日暮里】 ・「人件費」については、シルバー人材センターを活用し、雇用時間を調整したことで減少している。					
【総合】 ・2つの施設を合計した収支額は黒字であり、平成30年度と比べても大幅に増加している。 ただし、日暮里については、引き続き利用率の向上に努めるなど、収益の改善に努めていく必要がある。					

財務・労務評価表			
評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告書等が作成されており、会計手続は適正になされている。	良好
	予算管理が適正である	予算と実績との間に乖離が見られる項目があったが、原因分析が行われており、概ね良好である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	事業者が開発した管理システムを導入することにより支出額が削減されている等、概ね経費は効果的に活用されている。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診状況等について提出書類を確認した結果、法令に準じた対応がなされており、労働環境は適正である。	良好
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の決算書に基づいて財務評価をした結果、収益性と活動性に優れており、安定した運営を継続して行う財務力を有している。	良好

総合評価	
サービス面は良好であり、財務面、労務面についても良好であることから、指定管理業務は適正であったと評価できる。	

担当所管部	
部	防災都市づくり部
課	施設管理課

令和元年度 指定管理者実績評価結果表【B施設】

施設概要		
施設名	名称	センターまちや自転車駐車場 三河島駅前自転車駐車場
	所在地	荒川区荒川七丁目50番9号 荒川区西日暮里一丁目6番20号
施設開設年月日		平成8年4月1日 平成26年10月1日
指定管理者	名称	日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社
	所在地	品川区西五反田四丁目32番1号
現在の指定管理者による 運営開始年月日		平成30年4月1日
指定期間		平成30年4月1日～令和5年3月31日
業務内容		1.駐車場の利用承認・案内・誘導 2.利用料金の収納・減額及び還付 3.施設の維持管理に関する業務 等
令和元年度の事業計画		
1 自転車駐車場の利用承認、利用者の案内や誘導、料金収納を適切に実施する。 2 設備の保守点検や必要な修繕を行う。施設の清掃・巡回を毎日行う。 3 危機管理マニュアルや緊急連絡網を管理棟に設置し、全管理員に周知徹底する。 4 接遇・情報セキュリティ研修(年1回)を行う。 5 24時間365日対応のサポートセンターにて、申込受付、クレーム対応を実施する。 6 区の放置自転車クリーンキャンペーンに参加する。 7 自転車安全点検キャンペーンを実施する。		
令和元年度の事業実績		
1 自転車駐車場の利用承認、利用者の案内や誘導、料金収納を適切に実施した。 2 設備の保守点検や修繕を適切に実施した。 3 危機管理マニュアル、緊急連絡網等を管理室へ設置し、全管理員に周知徹底した。 4 コンプライアンス研修、情報セキュリティ研修を全管理員を対象に実施した。 5 24時間365日対応のサポートセンターにて、利用者の対応を実施した。 6 区の放置自転車クリーンキャンペーンに参加した。 7 自転車安全点検キャンペーンを実施し、自転車の安全利用に寄与した。		
< 参考 > (センターまちや) 定期利用登録率 (登録者数 / 定期収容台数) : 117.4% (30年度115.4%) 一時利用率 (利用者数 / 一時収容台数) : 77.3%〔1日平均〕(30年度90.7%) (三河島) 定期利用登録率 (登録者数 / 定期収容台数) : 55.2% (30年度51.6%) 一時利用率 (利用者数 / 一時収容台数) : 20.1%〔1日平均〕(30年度21.8%)		

基本評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
施設の維持管理	60			56
安全快適に利用できるための施設管理がなされている	20	5	100%	20
業務遂行に必要な職員の配置・育成がなされている	20	4	80%	16
安全管理実施体制を構築し、緊急時対応を万全としている	20	5	100%	20
区民サービス	40			32
利用者アンケートの結果、施設利用の満足度が高い	20	4	80%	16
サービス向上のため創意工夫ある取組を実践している	10	4	80%	8
利用者からの声をモニタリングし、是正等を図っている	10	4	80%	8
合 計 (A)	100	-	-	88
その他の評価項目				
評価項目	配点	評価		得点 (配点×乗率)
		レベル	乗率	
利用者増加のための対策に取り組んでいる	5	3	60%	3
区民雇用、区内事業者の活用等で地域に貢献している	3	3	60%	1.8
環境やエコに関する取組を積極的に行っている	2	4	80%	1.6
合 計 (B)	10	-	-	6.4
合計 (A+B)				94.4
施設の維持管理・区民サービス等の総合評価				A
評価内容				
【センターまちや】 1 基本評価項目 ・お年寄り、子供連れの女性や２段式ラック上段の利用者に対して、積み下ろしのサポートを実施した。 ・施設の点検を適切に行い、速やかにサイクルラック、ベルトコンベア、電動空気入れの修繕を行う等、利用に影響することなく取り組んだ。 ・定期利用は、インターネットで申込み可能な「ECOPOOL」を導入したことにより、利便性が向上した。 ・一時利用は、「交通系ＩＣカード決済の導入」や「電磁ラックの導入によるゲートレス化」により、利便性が向上した。 2 その他の評価項目 ・光熱費削減を目的に、施設内の照明のＬＥＤ化を進めた。				
【三河島】 1 基本評価項目 ・機器異常発生時に代車貸与等の適切な対応を実施した。 ・一時利用は、「交通系ＩＣカード決済の導入」により、利便性が向上した。 2 その他の評価項目 ・区の放置自転車クリーンキャンペーンに参加し、区民の意識啓発と自転車駐車場の利用募集を図った。				
【共通】 ・台風１９号発生時には、利用者・管理員の安全対策として、運営時間を短縮して対応した。 また、その際には区と連携して利用者に事前周知を行い、大きなトラブルも発生しなかった。 ・新型コロナウイルス感染症対策として、管理員のマスク着用及び精算機の消毒を徹底した。				
より良い施設運営・サービス向上に向けて改善すべき点等				
【センターまちや】 ・上段ラックの利用者へのサポート等で配置している管理員の人員体制の適正化を図る必要がある。 ・区民雇用率は４４％であり、更なる改善努力が必要である。				
【三河島】 ・利用率が低いため、広報等の利用率による向上させるための取組が必要である。 ・区民雇用率は７１％で良好であるが、更なる区民雇用促進が必要である。				

施設決算状況

年度		平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度	
		(決算)	(決算)	(当初計画)	(決算)
収入	指定管理料	842,616	1,363,960	1,392,862	1,392,862
		8,588,427	2,399,954	2,449,839	2,449,839
	利用料金収入	36,909,622	37,955,600	41,410,000	36,557,300
		4,461,800	4,892,000	9,090,000	5,180,200
	その他収入	0	0	96,000	0
		0	0	0	0
	計	37,752,238	39,319,560	42,898,862	37,950,162
		13,050,227	7,291,954	11,539,839	7,630,039
支出	運営費	0	0	0	0
		0	0	0	0
	管理費	25,008,452	14,404,019	14,409,024	13,605,634
		3,873,692	7,427,263	7,498,722	6,092,780
	本部経費	5,280,465	1,184,280	1,855,222	655,728
		406,004	1,184,280	1,855,222	655,728
	人件費	18,415,636	22,970,894	13,540,891	22,733,701
		8,912,268	8,908,394	8,161,158	10,349,630
	修繕費	842,616	1,363,960	1,392,862	1,461,091
		264,267	2,399,954	2,449,839	2,474,410
	その他支出	0	500,000	500,000	500,000
		0	0	0	0
	計	44,266,704	39,238,873	29,842,777	38,300,426
		13,050,227	18,735,611	18,109,719	18,916,820
収支差額		-6,514,466	80,687	13,056,085	-350,264
		0	-11,443,657	-6,569,880	-11,286,781
収支差額計		-6,514,466	-11,362,970	6,486,205	-11,637,045

(施設決算状況の説明)

上段：センターまちや自転車等駐車場の決算、下段：三河島駅前自転車駐車場の決算を記載している。

【センターまちや】

- ・「人件費」については、お年寄りや子供連れの女性、2 段式ラック上段の利用者に対して、積み下ろし等のサポートを継続して実施したことによる人員が増加したことが影響している。
- ・「その他支出」については、選定時の提案に基づく区への納付金である。

【三河島】

- ・平成 2 9 年度まで「収支差額」については、指定管理料として区が負担していたため、「0」となっている。
- ・平成 3 0 年度からは区の補填をなくしたため、実質の収支差額が計上されている。
- ・「利用料金収入」については、年間を通じた定期利用が増加したことから、平成 3 0 年度に比べて増額している。

【総合】

- ・2つの施設を合計した収支差額は、平成30年度に引き続き赤字であるため、センターまちやについては、積み下ろし等のサポートの実施体制について見直しを検討するとともに、雇用や勤務形態等を工夫して効率的な人員配置を行っていく必要がある。
- ・三河島については、引き続き利用料金収入の向上に努めるなど、収益の改善に努めていく必要がある。また、機械式自転車駐車場の維持管理については、区と事業者の役割分担を抜本的に見直す必要がある。

財務・労務評価表

評価項目		評価内容	評価
会計	会計手続が適正である	決算書、科目別内訳表、事業報告書等が作成されており、会計手続は適正になされている。	良好
	予算管理が適正である	予算と実績との間に乖離が見られる項目があったが、原因分析が行われており、概ね良好である。	
会計	経費の効果的活用が行われている	事業者が開発した管理システムを導入することにより支出額が削減されている等、概ね経費は効果的に活用されている。	良好
労務	労働環境が適正である	雇用契約書、賃金台帳、36協定、健康診断受診状況等について提出書類を確認した結果、法令に準じた対応がなされており、労働環境は適正である。	良好
法人決算	事業者本体が、安定的・継続的な運営に必要な財務力を有している	事業者の三期の決算書に基づいて財務評価をした結果、収益性と活動性に優れており、安定した運営を継続して行う財務力を有している。	良好

総合評価

サービス面は良好であり、財務面、労務面についても良好であることから、指定管理業務は適正であったと評価できる。

担当所管部	
部	防災都市づくり部
課	施設管理課